

令和7年度

授 業 概 要

459

四国医療専門学校
作業療法学科

目 次

1. まえがき	1
2. 作業療法学科の教育理念・教育目標	2
3. 作業療法学科の3つのポリシー	3
4. 学修成果の評価方針	5
5. カリキュラム	7
6. 教育課程・単位数	8
7. 履修要綱	9
8. 大学併修制度	17
9. 学事暦	19
10. 自治会会則	20
11. シラバス	
1 年次開講科目	
倫理学	23
数学	24
物理学	25
情報科学	26
英語	27
医学英語	28
コミュニケーション論	29
社会福祉論	30
解剖生理学 I (前期・後期)	31・32
解剖生理学 II (前期・後期)	33・34
解剖生理学実習 (前期・後期)	35・36
人間発達学	37
運動学 (前期・後期)	38・39
リハビリテーション医学	40
病理学	41
臨床医学 I (臨床心理学)	42
臨床医学 I (精神医学)	43
リハビリテーション概論	44
作業療法概論	45
基礎研究方法論	46
基礎作業療法学実習 I (木工)	47
基礎作業療法学実習 II (陶芸)	48
基礎作業療法学実習 III (Activity)	49
関節可動域検査法	50
徒手筋力検査法	51
レクリエーション I	52
2 年次開講科目	
運動学演習	53
運動生理学	54
臨床医学 II (外科学)	55
臨床医学 II (整形外科)	56
臨床医学 III (内科学)	57
臨床医学 III (小児科学)	58
臨床医学 IV (脳神経外科学)	59
臨床医学 IV (神経内科学)	60
臨床医学 V (救急医療学)	61

精神医学各論	62
基礎作業学実習 IV (人と作業)	63
基礎評価法	64
評価学実習 I	65
作業療法評価学 I (身体障害)	66
作業療法評価学 II (精神障害)	67
作業療法治療学 I (内部障害)	68
作業療法治療学 I (神経筋疾患)	69
作業療法治療学 II (切断と義肢)	70
作業療法治療学 II (神経損傷)	71
作業療法治療学 III (運動器疾患)	72
作業療法治療学 III (小児)	73
作業療法治療学 IV (高齢者)	74
作業療法治療学 IV (CVA)	75
作業療法治療学 V (疾患別精神障害)	76
作業療法治療学 V (精神障害)	77
日常生活活動 (前期・後期)	78・79
日常生活活動実習	80
早期体験実習	81
レクリエーション II	82
基礎研究活動 I	83
3 年次開講科目	
臨床医学 VI (薬理学)	84
臨床医学 VI (栄養学)	85
保健医療福祉とリハビリテーション	86
作業療法セミナー I	87
評価学実習 II	88
作業療法治療学演習	89
作業療法技術論 I (作業分析)	90
作業療法技術論 II (ハンドセラピー)	91
作業療法技術論 III (マネジメント)	92
応用作業演習	93
住環境学	94
地域リハビリテーション学	95
地域リハビリテーション実習	96
評価実習	97
臨床実習 I	98
基礎研究活動 II	99
4 年次開講科目	
作業療法セミナー II	100
臨床研究	101
作業療法管理学	102
臨床実習 II・III	103

ま え が き

専門学校は専門課程をもつ専修学校のことであり、本校では医療専門課程の鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科、理学療法学科、作業療法学科、看護学科の6学科8コースがあります。

本校は学校教育法、専修学校設置基準、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則、柔道整復師学校養成施設指定規則、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則、看護師養成所指定規則で定める基準等により教育が施されており、加えて広く社会の要請に応じ、医療従事者たる医療専門職及びスポーツ指導者を育成することを目的とし、それを達成するため専門的な教育を行うことをその使命としています。

理学療法学科と作業療法学科の2学科では4年制の一環教育の観点から、学生に体系的に教育課程を編成し、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定める分類に基づいて授業科目を基礎科目、専門基礎科目、専門科目、選択必須科目に分類して実施しております(学則別表参照)。

この冊子は皆さんが作業療法学科の学生として有意義な学生生活を送るための手引きとなるよう作成されたものです。ぜひ熟読していただき、必要に応じて参照することによってより充実した学生生活を送ることを願っています。

なお、この冊子では学校生活についての説明が必ずしも全てにわたって網羅されているわけではありませんので、疑問や不明なことがあった場合は遠慮なく教職員に相談してください。

作業療法学科の教育理念・教育目標

本校の作業療法学科では学生の皆さんが将来「作業療法士」として保健・医療・福祉分野において貢献し、リハビリテーション理念の普及と発展に寄与できるようになる為、卒業時に以下の項目を達成できるように、教育理念と目標を掲げている。

教 育 理 念

1. ゆとりを生み出す教育を実践する。
2. 豊かな創造性と、人間愛をはぐくむ。
3. たゆまざる疑問への追求と、高い問題処理能力を養う。

教 育 目 標

1. 人を広く深く理解し、人と関わりあえるセラピストを育成する。
2. リハビリテーションの基本的な知識・技術を修得する。
3. 保健医療福祉チームの一員としての役割と責任を果たす能力を養う。
4. 専門職としての認識を深め、生涯学習を継続する姿勢を身につける。
5. 時代のニーズに応え、地域社会に貢献できる人材を育成する。

作業療法学科の3つのポリシー

I 卒業認定・高度専門士付与の方針(ディプロマ・ポリシー:DP)

作業療法学科では、所定の単位を取得し、以下の能力を身につけた者に対して、卒業を認定し、高度専門士の称号を付与する。

1. ひとが作業を通じて健康で幸福な生活を行うために、人を広く深く理解するための探求する能力が身につけることができる。
2. 作業療法の実践に必要な基本的知識と技能を修得することに加え、その人の課題を的確に捉え、解決するために必要な知識を統合できる能力を身につけることができる。
3. 対象者や様々な医療・介護職種と良好な人間関係を構築することができる人間性豊かなコミュニケーション能力を有し、職業人として責任のある行動ができる。
4. 作業療法の社会的役割を認識し、生涯探求していく姿勢を身につけることができる。
5. 卒業後、時代のニーズを理解し、地域社会に貢献できる人材として活動ができる。

II 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー:CP)

作業療法学科では、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」「専門関連分野」の4つの分野に分け、段階的、系統的に教育できるように科目を配置している。学修の成果は、学修期間内に修得すべき知識や技術、態度等を明示し、到達目標に向けた努力とその成果について客観的な評価を行う。

1. 基礎分野

作業療法に必要な豊かな人間性と倫理性、科学的、理論的倫理思考を育て、基盤となる資質や能力を身につけるために、基礎科目を設ける。

2. 専門基礎分野

作業療法の対象となる、疾病及び障害について、その予防と回復過程に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を培う。また、国民の健康医療福祉の推進のために作業療法士が果たすべき役割について学ぶとともに、地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を育成する。

3. 専門分野

作業療法の枠組みと理論を理解し、系統的な評価や治療、障害の予防に関する知識と技術を習得する。また、対象者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を習得し、問題解決能力を養う。

4. 専門関連分野

作業療法士として、個人や社会的ニーズの多様化に対応した臨臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践力を身につける。そして、向上心と研究心を持ち、地域社会の場で活かす能力を養う学習を行う。卒業後も自己の資質を高められ、生涯学習に対しての能動性を養う。

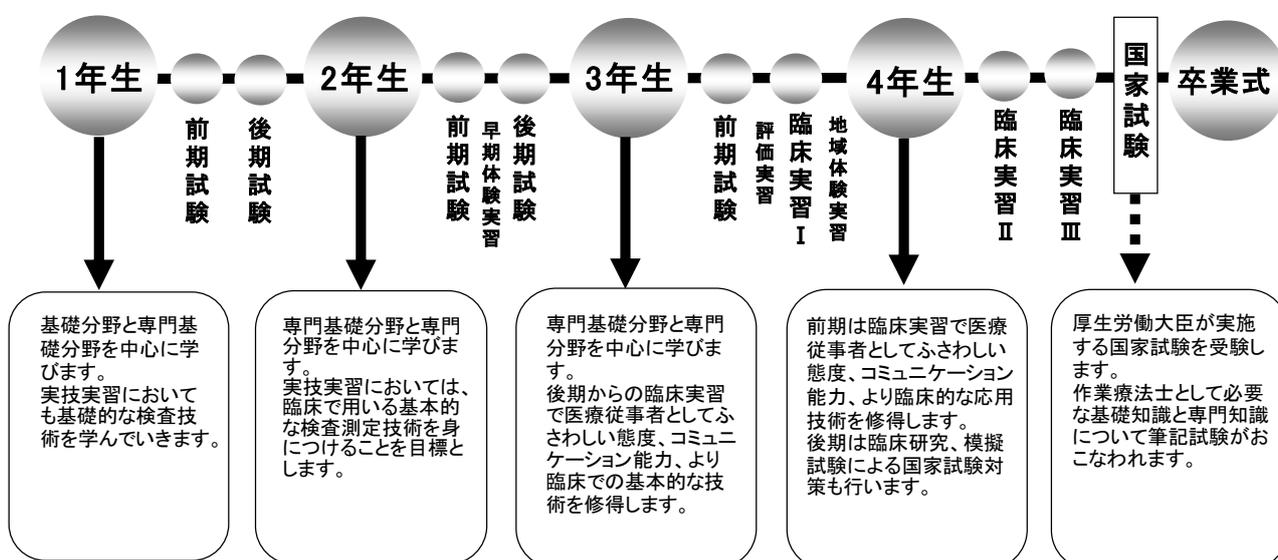
Ⅲ. 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー:AP)

作業療法学科では、卒業認定・高度専門士付与の方針を実現するため、以下の素養を有する人材を求める。

作業療法学科の求める人材像

「心」と「体」を支援できる『想像力と応用力』を備えた人で、明るく、前向きで好奇心旺盛な人。

作業療法学科 カリキュラムマップ



学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー:ASP)

I 学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー:ASP)

四国医療専門学校では、本校の教育理念に基づく各学科で定める「卒業認定・称号付与の方針」(ディプロマ・ポリシー:DP)で示された教育目標の到達度の把握、卒業認定・称号付与の方針、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー:CP)並びに「入学者受け入れの方針」(アドミッション・ポリシー:AP)の三つのポリシーに基づき、機関レベル(学校)、教育課程レベル(学科)及び科目レベル(授業・科目)の3段階で、学修成果の把握・評価を査定する方針を定める。

1. 機関レベル

学生の志望進路(就職率、資格・免許を活かした専門領域への就業率及び進学率等)から、学修成果の達成状況を査定する。

2. 教育課程レベル

学科の所定の教育課程における資格・免許の取得状況及び卒業要件の達成状況(単位修得状況・GPA)から、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を査定する。

3. 科目レベル

シラバスで提示された授業等科目の学修目標に対する評価及び学生による授業評価等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を査定する。

II 授業科目及び教育課程における学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー)

本校は、科目レベル及び教育課程レベルの学修成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準及び評価の実施方法を、「四国医療専門学校学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー)」を踏まえて、次のように定める。

1. 目的

- (1) 各学科のディプロマ・ポリシーに定める「学生が身につけるべき能力」に関する学修成果の把握・評価を行う。
- (2) 学修成果を把握・評価することで、学生自らが、学修目標を持ち、PDCAに取り組み、学修到達度を把握し、学生が自らの成長を実感できるようにする。
- (3) 学修成果を把握・評価することで、授業科目担当者及び学科としての教育の改善・向上に取り組み、教育の質を保証する。
- (4) 学修成果の把握・評価に関する情報を公開することにより、社会への説明責任を果たす。

2. 達成すべき質的水準

- (1) 授業科目の成績評価については、本校学則第 32 条に定められた評価基準によるものとし、授業科目について、達成すべき質的水準を成績評価の「可」(GP の「1」)以上とする。

成績評価	GP
秀(90~100点)	4
優(80~89点)	3
良(70~79点)	2
可(60~69点)	1
不可(59点以下)	0

- (2) 修得単位数については、学年ごとに達成すべき質的水準として、本校学則第 36 条(履修要綱第 4 条第 1 項)に定められた単位の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とする。
- (3) 卒業認定について、達成すべき質的水準として、本校学則第 38 条(履修要綱第 4 条第 2 項)に定められた出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を修得していることを原則とする。
- (4) その他、達成すべき質的水準として、各学科が定めるディプロマ・ポリシーを用いる。

3. 評価の実施方法

区分	入学前(入学直後) アドミッション・ポリシー	在学中 カリキュラム・ポリシー	卒業時 ディプロマ・ポリシー
機関レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・進路決定に関するアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の成績(GPA) ・退学率、休学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業率 ・就職・進学率 ・卒業時アンケート
教育課程レベル		<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の成績(GPA) ・退学率、休学率 ・授業評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業率 ・就職・進学率 ・卒業時アンケート
科目レベル		<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の成績(GPA) ・授業評価 	

カリキュラム

1. 授業科目

1) 授業科目の区分

本学校における学習活動は、授業科目の履修を中心として行われる。授業科目は定められた学年次に順序だてて配当されており、その授業科目の配当全体を教育課程(カリキュラム)という。

授業全体を教育課程から区分すると次のようになる。

【作業療法学科】

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

専門関連分野

【作業療法学科の教育内容・目標】

	教育内容	教育の目標
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	科学的・論理的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動を培う内容とする。生命倫理、人の尊厳を幅広く理解できるようにする。国際化及び情報化社会に対応できる能力を育成する。
専門基礎分野	人間の構造と機能及び心身の発達	人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解できるようにする。
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	健康、疾病及び障害について、その予防と回復過程に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を培う。
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	国民の保健医療福祉の推進のために作業療法士が果たすべき役割について学ぶ。 地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を育成する。
専門分野	基礎作業療法学	作業療法の枠組みと理論を理解し、系統的な作業療法を構築できる能力とともに、職業倫理を高める態度を養う。
	作業療法評価学	作業療法における評価の枠組みを理解し、心身機能と構造の評価に関する知識と技術を習得する。
	作業療法治療学	障害の予防と治療の観点から、種々の障害に必要な知識と技術を習得する。
	地域作業療法学	患者及び障害者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を習得し、問題解決能力を養う。
	臨床実習	社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践力を身につける。学内における臨床演習を行った後に、各障害、各病期、各年齢層を偏りなく行う。
専門関連分野		専門分野を中心として講義又は実習を行う。

作業療法学科 教育課程・単位数

区分	指定規則 単位数	授業科目	単位数	項目別 合計単位数	時間数	授業単位数			
						第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
基礎分野	科学的思考の 基盤	倫理学	2	16	30	2			
		数学	2		30	2			
		物理学	2		30	2			
		情報科学	2		30	2			
	人間と生活	英語	2		30	2			
		医学英語	2		30	2			
		コミュニケーション論	2		30	2			
		社会福祉論	2		30	2			
専門基礎分野	能 人 及 体 び の 達 心 構 造 身 の 発 機	解剖生理学Ⅰ	3	13	90	3			
		解剖生理学Ⅱ	3		90	3			
		解剖生理学実習	2		60	2			
		人間発達学	1		30	1			
		運動学	2		60	2			
		運動学演習	1		30		1		
		運動生理学	1		30		1		
		リハビリテーション医学	2		30	2			
	疾病と障害の 成り立ち 及び回復過程の 促進	病理学	1	30	1				
		臨床医学Ⅰ	2	60	2				
		臨床医学Ⅱ	2	60		2			
		臨床医学Ⅲ	2	60		2			
		臨床医学Ⅳ	2	60		2			
		臨床医学Ⅴ	1	30		1			
		臨床医学Ⅵ	2	60			2		
	保健医療福祉とリハビ リテーションの理念	リハビリテーション概論	2	30	2				
保健医療福祉とリハビリテーション		2	30			2			
専門分野	基礎作 業療 法 学	作業療法概論	1	15	30	1			
		基礎研究方法論	1		30	1			
		基礎作業療法実習Ⅰ	1		30	1			
		基礎作業療法実習Ⅱ	1		30	1			
		基礎作業療法実習Ⅲ	1		30	1			
		基礎作業療法実習Ⅳ	1		30		1		
		作業療法セミナーⅠ	2		60			2	
		作業療法セミナーⅡ	4		120				4
		臨床研究	3		90				3
	作業療法管理学	2	2	30				2	
	作 業 療 法 評 価 学	関節可動域検査法	1	30	1				
		徒手筋力検査法	1	30	1				
		基礎評価法	1	30		1			
		評価学実習Ⅰ	1	30		1			
		評価学実習Ⅱ	1	30			1		
	作 業 療 法 治 療 学	作業療法評価学Ⅰ	2	30		2			
		作業療法評価学Ⅱ	2	30		2			
		作業療法治療学Ⅰ	2	60		2			
		作業療法治療学Ⅱ	2	60		2			
作業療法治療学Ⅲ		2	60		2				
作業療法治療学Ⅳ		2	60		2				
作業療法治療学Ⅴ		2	60		2				
作業療法治療学演習		2	60			2			
日常生活活動		2	60		2				
日常生活活動実習		1	30		1				
作業療法技術論Ⅰ		2	30			2			
学 療 作 地 法 業 域	住環境学	2	30			2			
	地域リハビリテーション学	2	30			2			
	早期体験実習	1	45		1				
	臨床実習	8	360			8			
臨 床 実 習	地域リハビリテーション実習	1	45			1			
	評価実習	3	135			3			
	臨床実習Ⅰ	6	270			6			
	臨床実習Ⅱ	8	360			8			
	臨床実習Ⅲ	8	360			8			
	専 分 野 関 連	レクリエーションⅠ	1	30	1				
		レクリエーションⅡ	1	30		1			
基礎研究活動Ⅰ		1	30		1				
基礎研究活動Ⅱ		1	30			1			
指定規則科目 合計	101	年次別合計 合計	131	3,765	42	33	31	25	
					42	75	106	131	

四国医療専門学校 履修要綱

この要綱は、入学してから卒業するまでの学生の履修について、学則、その他の規程等を補足しながら特に注意しなければならない事項を規定する。

I. 学事について

1. 学年

学年については、学則第9条に規定している。

授業は、学事暦に従って行われる。

学年は、4月1日から翌年3月31日までとし、これを前期と後期の二期に分ける。

2. 学期

学期については、学則第9条に規定している。

学年の学期は、次のとおりであるが、学校長は、必要によりこれを変更することができる。

前期：4月1日から9月30日まで。

後期：10月1日から翌年3月31日まで。

3. 休業日

休業日については、学則第10条に規定している。

本校の休業日は、次のとおりとする。

- 1) 土曜日、日曜日
- 2) 国民の祝日に関する法律に規定されている休日
- 3) 創立記念日(10月25日)
- 4) 夏・冬・春季休業日(季節休業)

学校長が必要と認めるときは、休業日であっても授業または試験を行なうことができる。

- 5) 非常変災その他急迫の事情があるとき、又は教育の実施上特別の事情があるときは、臨時に授業を行わないときがある。

(1) 荒天時の対応

荒天のため、宇多津町または丸亀市に、「特別警報」「暴風警報」が午前7時00分に発令されている場合は、通学待機とし、午前10時00分においても継続されている場合は、その日は臨時休校とする。

午前10時00分までに解除された場合は、午後の授業は実施する。

- (2) 授業中に、「特別警報」「暴風警報」が発令された場合や、公共交通機関(JR等)に運休等の支障が生じるような場合には、教育活動を中止し下校させることがある。

- (3) 上記による対応を原則とするが、暴風警報以外の気象警報が発令された場合も含め、その状況により、学校長が別途判断することがある。

- (4) 感染症等の拡大の防止対策上、必要に応じて臨時休業することがある。

4. 授業等及び時限

教育課程、単位数及び授業の方法は、学則第12条に、始業及び終業時刻については、学則第14条に、それぞれ規定している。

- 1) 授業は、単位制度に基づいて行なわれ、講義、演習、実習、実技、臨床実習及び臨地実習があり、他に学生が出席を求められるものに、特別講義、補習、学校行事がある。
- 2) 授業の質の保証及び効果的な教育が確保できる場合は、授業の形態として対面によらない授業(以下、「遠隔授業」という。)を必要に応じて行うことができる。
ただし、遠隔授業の合計時間を全体の4分の3未満とする。
- 3) 授業は、1時限90分を原則とし、講義、演習、実習は、1時間を45分とする。
臨床実習は、同60分とし、臨地実習は、同45分(60分)とする。
授業時間の区分は、以下のとおりである。

区 分				
時 限	I	II	III	IV
時 間	9:00 ↓ 10:30	10:40 ↓ 12:10	13:00 ↓ 14:30	14:40 ↓ 16:10

(1) 鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科の臨床実習は、修業時間（10:40～16:10）以外及び休業日に行うことがある。

4) 休講・補習・特別講義・学校行事

(1) 休講及び時間割の変更

学校や担当教員、その他やむを得ない事情により、休講や授業時間割の変更を行うことがある。これについては、掲示板により通知する。

(2) 補習及び特別講義

授業時間が必要時間数に満たない場合には、補習を行うことがある。また、学校長が必要と認めた場合には、特別講義を行うことがある。これらについても掲示板により通知する。

(3) 球技大会、体育祭などの学校行事には、学生の健康増進、学生間の親睦のため出席が求められる。

II. 出席、補講、休学、退学、転部及び在籍期間などについて

1. 出席すべき日数

学年の学期期間で休業日以外は、出席しなければならない。

2. 授業の出席

1) 講義、演習、実習は、授業時間数の3分の2以上の出席が必要である。

2) 実技は、授業時間数の5分の4以上の出席が必要である。

3) 臨床実習及び臨地実習は、原則として必ず出席しなければならない。

(1) 鍼灸マッサージ学科及び鍼灸学科の臨床実習において、Ⅱ-5-3)のやむを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。

(2) 柔道整復学科の臨床実習は、実習時間を満たさなければならない。

(3) 理学療法学科及び作業療法学科の臨床実習において、Ⅱ-5-3)のやむを得ない理由での欠課は、5分の1の範囲で認めることがある。

(4) 看護学科の臨地実習は、実習時間を満たさなければならない。

<看護学科の臨地実習の履修について>

基礎看護学実習Ⅰの単位修得をしていない者は、基礎看護学実習Ⅱを履修することはできない。

基礎看護学実習Ⅱの単位修得をしていない者は、専門分野別実習を履修することはできない。

ただし、小児看護学実習Ⅰについては、この限りでない。

また、専門分野別実習の単位修得をしていない者は、統合実習を履修することはできない。

4) 臨床実習・臨地実習における、Ⅱ-5-3)のやむを得ない理由の対応は学科の判断に従うこと。

3. 授業中の心得

1) 講義・演習・実技・実習

以下の項目を遵守し、真摯な態度で授業に臨まねばならない。

(1) 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。

(2) 体調の急変等Ⅱ-5-3)のやむを得ない理由による早退や、教員の指示等特別な事情のない限り、教室を退出しないこと。

(3) スマートフォン等は、必ず電源を切って鞆等に入れておくこと。また、授業以外でも節度を守って使用すること。

(4) 担当教員の許可なしに、授業において写真撮影、録音、録画をしないこと。

(5) 担当教員の許可なしに、授業中に飲食をしないこと(ガムを噛むことを含む)。

(6) 私語や居眠りをしないこと。

(7) 実技・実習科目受講の際は、実技にみあった服装(白衣・ジャージ、学校指定の靴)とし、化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の毛の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめること。

(8) 鍼灸マッサージ学科及び鍼灸学科は、所定の道具も準備すること。

2) 臨床実習及び臨地実習

学生の学外実習が可能なのは実習施設の医療人育成への理解と指導者の熱意と患者の協力による

ことを十分認識して実習を行うために、以下の項目を遵守し、真摯な態度で臨まねばならない。

- (1) 実習委託先病院などと取り交わした実習委託契約書及び個人情報保護協定書等の遵守事項並びに守秘義務に従って行動する。
- (2) 学生として節度ある行動をとり、言葉遣いに注意し礼儀正しくする。
- (3) 患者に不愉快な印象を与えないように配慮すること。
- (4) 時間を厳守し、自己の存在をはっきりさせ、許可なく行動しない。事故については、すみやかに報告をする。
- (5) 実習委託先病院などでの実習時間中においては、スマートフォン等情報通信機器は使用しないこと。撮影は厳禁とする。また、控室においては、実習指導者及び引率教員の指示に従うこと。
また、実習時間外でも、ルール及び節度を守って使用すること。
- (6) 実習中知り得た情報は、個人情報保護法に基づき取り扱い、他言してはならない。
- (7) 服装は清楚で、印象の良い身だしなみを心がける。化粧、マニキュア、指輪、ピアス、ネックレスはしない。髪の毛の染色は控え、肩に付かないよう短くまとめる。
- (8) 感染に注意し、また伝播者にならないよう感染予防の基本を実習委託先病院などのマニュアルにそって励行する。
- (9) 実習中の事故については、すみやかに実習指導者に報告し指示を受ける。
- (10) 臨床実習及び臨地実習の詳細については、学科毎に実習前のガイダンス時に説明する。

4. 欠席、遅刻、早退及び欠課

欠席、遅刻、早退及び欠課については、学則第 21 条に規定している。

- 1) 欠席は、1日の授業を全て休んだ場合をいう。
- 2) 遅刻は、授業開始より 30 分以内に入室した場合をいう。
- 3) 早退とは、授業時間の 60 分以上出席し退出した場合をいう。
- 4) 欠課とは、出席時間が 60 分に満たない場合をいう。
- 5) 遅刻、早退は、同一科目 2 回を以ってその科目の 1 回の欠課として取り扱う。
- 6) 欠席、遅刻、早退及び欠課をするとき又はしたときは、それぞれの届を各学科の教務室に提出しなければならない。

5. 追実習、補講、再実習及び補習実習等

1) 追実習

Ⅱ-5-3)のやむを得ない理由により臨地実習を欠席したものは、追実習を受けることができる。

追実習を受ける者は、それぞれの届を各学科の教務室に提出し許可を得ることとする。

2) 補講、再実習及び補習実習

補講については、学則第 35 条に規定している。

- (1) 出席時間数がⅡ-5-3)のやむを得ない理由により、当該科目の定められた出席時間数に達しない者は、補講を受けなければならない。
 - ① 鍼灸マッサージ学科は、講義、演習は 3 分の 2、実技、臨床実習は 5 分の 4
 - ② 鍼灸学科は、講義、演習は 3 分の 2、実技、臨床実習は 5 分の 4
 - ③ 柔道整復学科は、講義、演習は 3 分の 2、実技は 5 分の 4、臨床実習は 5 分の 5
 - ④ 理学療法学科は、講義、演習、実習は 3 分の 2、臨床実習は 5 分の 4
 - ⑤ 作業療法学科は、講義、演習、実習は 3 分の 2、臨床実習は 5 分の 4
 - ⑥ 看護学科は、講義、演習は 3 分の 2、臨地実習は 5 分の 5
- (2) 補講の受講は、Ⅱ-5-3)のやむを得ない理由のみとし、「補講受講許可願」とその証明書等を各学科の教務室に提出し、学校長が認めた場合に限る。
- (3) 補講が認められた場合は、追試験のみ受験できる(本試験は受験不可)。
- (4) 補講料は、10,000 円 / 1 時限(90 分)とする。ただし、Ⅱ-5-3)のやむを得ない理由など、学校長が認めた場合は、補講料を減免することがある。
- (5) 臨床実習及び臨地実習の場合
 - ① 再実習
各実習期間内で実習単位の取得が不可の者は、長期休暇等を利用して、再実習を受けることができる。
ただし、「再実習願」を各学科の教務室に提出しなければならない。実習を長期に欠席した者は、再実習に準ずる。
再実習料は、5,000 円/日とする。
 - ② 補習実習
実習を欠席または欠課した者は、補習実習を受けることができる。
 - ③ 再実習及び補習実習を受ける者は、再実習料を学生総合窓口へ納付すること。

3) 公認となる授業等の欠席(やむを得ない理由)は、以下とする。

対象となるやむを得ない理由	理由を証明する書類
学校保健安全法施行規則(昭和33年文部省令第18号)18条に規定する感染症に罹患した場合	本校発行の出席停止書類 診断書等の罹患したことを証明する書類
忌引き	会葬礼状等親族が亡くなったことが確認できる書類
裁判員制度 (裁判員又は裁判員候補者に選任された場合)	業務に従事したことを証明する書類
公共交通機関の運行停止	遅延証明書等
学生の住まいが自然災害等により損壊し欠席した場合	当該地方自治体の発行する罹災証明書

上記を「やむを得ない理由」とし、理由を確認できる書類により判断するため所属学科に提出すること。その他やむを得ない理由と判断されれば、追実習及び追試験の受験の対象となる。ただし、原則として、その事情が判明した段階で所属学科等に事前の連絡をしなければならない。事後報告では認められない場合があるので、留意すること。

6. 忌引期間

- 1) 忌引は、欠課には含まれないが、それらを証明するもの(会葬礼状等)を必ず提出のこと。提出がなされない場合は欠課とする。
- 2) 学生の親族等の死去に伴う忌引の期間は、下記のとおりとする。(期間は連続とし、最大の日数である)

続柄	期間	続柄	期間
配偶者	10日	おじ・おば	1日
父母	7日	孫・曾祖父母	1日
子供	7日	配偶者父母	3日
祖父母	3日	配偶者祖父母	1日
兄弟姉妹	3日	配偶者兄弟姉妹	1日

遠隔地の場合は、旅行日として学校長判断により、2日以内の日数を認める場合がある。

7. 感染症等による出席停止

出席停止については、学則第23条に規定している。

下記の表に規定する感染症の場合は、出席停止とする。出席停止期間は、学校保健安全法施行規則に定める期間、医師の診断書にある期間、若しくは学校医の判断に従うものとする。

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。))及び特定鳥インフルエンザ(感染症法第6条第3項第6号に規定する特定鳥インフルエンザをいう。) ※ 上記に加え、感染症法第6条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症、及び同条第9項に規定する新感染症は、第一種の感染症とみなされる。
第二種	インフルエンザ(特定鳥インフルエンザを除く)、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。))であるものに限る。)、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

<出席停止期間の基準>

- 1) 第一種の感染症にかかった者については、治癒するまでの期間とする。
- 2) 第二種の感染症(結核及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く)にかかった者については、次の期間とする。
ただし、病状により学校医の他の医師において、感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
 - (1) インフルエンザ: 発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
 - (2) 百日咳: 特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。

- (3) 麻しん： 解熱した後 3 日を経過するまで。
 - (4) 流行性耳下腺炎： 耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで。
 - (5) 風しん： 発しんが消失するまで。
 - (6) 水痘： すべての発しんが痂皮化するまで。
 - (7) 咽頭結膜熱： 主要症状が消退した後 2 日を経過するまで。
 - (8) 新型コロナウイルス感染症： 発症した後 5 日を経過し、かつ、症状が軽快した後 1 日を経過するまで。
- 3) 結核及び髄膜炎菌性髄膜炎、第三種の感染症にかかった者については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。

※出席停止期間の算定の考え方

「〇〇した後△日を経過するまで」とした場合は、「〇〇」という症状が見られた日の翌日を第 1 日として算定する。

例えば、「解熱した後 2 日を経過するまで」の場合、月曜日に解熱－火曜日(解熱後 1 日目)－水曜日(解熱後 2 日目)－この間発熱がない場合－木曜日から出席可能となる。

第二種の各出席停止期間は基準であり、症状により医師の診断により判断する。

8. 休学

学生の休学については、学則第 22 条に規定している。

9. 復学

学生の復学については、学則第 24 条に規定している。

原則、復学の時期は、年度の始めとする。

10. 退学

学生の退学については、学則第 25 条に規定している。

11. 転学科

学生の転学科については、学則第 29 条に規定している。

12. 在籍期間

在籍期間については、学則第 30 条に規定している。

学生の在籍期間は、下記の表の年数を超えることができない。

学 科	在籍年数
鍼灸マッサージ学科、鍼灸学科、柔道整復学科	6 年
理学療法学科、作業療法学科、看護学科	8 年

Ⅲ. 学業成績などについて

単位の認定は、履修した科目に出席し、受験資格を得たものに対して行われる。

また、試験方法は、筆記試験が主であるが、授業科目によっては、口頭、レポート、実技などによって行われる場合もある。

1. 定期試験及びその他の試験(以下「定期試験等」という。)

試験については、学則第 32 条に規定している。

学期末の試験を定期試験といい、学期中に必要に応じて、授業科目担当教員が実施するものを含む。

- 1) 前期及び後期のなかで、随時試験を行うことがある。行った場合の評価は、定期試験等の評価に加えることができる。
- 2) 看護学科においては、定期試験ではなく、授業科目の終了の都度試験が行われる。

2. 受験資格

受験資格については、学則第 32 条に規定している。

- 1) 講義、実習、演習の受験資格
授業時間数の 3 分の 2 以上出席している者
- 2) 実技の受験資格

授業時間数の5分の4以上出席している者

3) 臨床実習及び臨地実習の成績判定資格

実習時間の5分の4以上の出席している者

※柔道整復学科、看護学科については、実習時間を満たす者

3. 追試験

追試験については、学則第33条に規定している。

1) II-5-3)のやむを得ない理由により定期試験等を欠席した者及び学科が認めた場合は、追試験を受けることができる。

その場合は90点を上限に採点する。

2) 受験料は、1科目あたり1,000円とする。ただし、II-5-3)のやむを得ない理由による追試験において受験料は発生しない。

3) 追試験を受ける者は、「追試験受験願」を期日までに、当該学科長、学生総合窓口を経由のうえ、学校長に提出し、許可を受けなければならない。

4) 追試験は、基本的に1回限りとする。ただし、追試験においても合格しない者は、学科会議での協議により再度試験を行うことがある。

4. 再試験

再試験については、学則第34条に規定している。

1) 定期試験等の成績が合格点に達しない者は、再試験を受けることができる。その場合は、60点を上限に採点する。

2) 再試験を受ける者は、別に定める受験料を添えて「再試験受験願」を期日までに、当該学科長及び学生総合窓口を経由のうえ、学校長に提出し、許可を受けなければならない。

3) 受験料は、1科目あたり1,000円とする。

4) 再試験は、基本的に1回限りとする。ただし、再試験においても合格しない者は、学科会議での協議により再度試験を行うことがある。

5. 試験にあたっての注意事項

1) 試験開始5分前には、定められた席に着席すること。

2) 試験開始時刻に遅刻した者は、受験することができない。ただし、公共交通機関のダイヤの乱れ等による場合は、遅延証明の提出を条件に、試験開始後15分までの遅刻を認めることがある。

3) 受験に際しては、必ず学生証を携帯すること。万一学生証を忘れてきた場合には、試験期間中に1回のみ、学生総合窓口にて、仮学生証の交付を受け代替とすることができる。仮学生証は、記載期間のみ有効とする。

4) 机上には、筆記用具及び持ち込みの認められたもの以外は置いてはいけない。

5) 試験開始後、原則、試験時間の半分を経過した後に退出することができる。ただし、一度退出した者は、再び入室できない。

6) 試験中に不正行為をした者は、退場を命ずる。直ちに当該学期の受験資格が与えられず、すでに受験した科目も無効とする。ただし、学外実習科目に関しては無効とする科目から除外される。

7) 答案用紙は必ず所定のものを用い、学年、学籍番号・氏名を記入しなければならない。答案用紙、問題用紙は持ち帰ることはできない。

8) 受験者が試験会場で次のような行為を行った場合、不正行為とみなされる。

(1) テキスト、ノート、参考書、辞書等の持ち込みが許可されている場合でも、試験時間中にそれらを他人に使用させたり、他人のものを使用したりすること。

(2) 筆記用具等を試験時間中に他人に使用させたり、他人のものを使用したりすること。

(3) 代人として受験すること及び代人を受験させること。

(4) 持ち込みを許可されていないテキスト、ノート、参考書、辞書等を使用したり、他人に使用させたりすること。

(5) あらかじめ机等に書き込んだり、又はカンニング・ペーパーその他試験に関する書き込みのある紙片・用具等を持ち込むこと。

(6) 他人の答案をのぞき見て写しとったり、写させたりすること。

(7) 試験内容に関する事項を口頭、紙片その他の手段により、他人に教えたり、教えさせたりすること。

(8) 電源の入ったスマートフォン等情報通信機器を机の上に置いたり、衣服のポケット等に入れて試験を受けること。(入室時には電源を切り、かばん等に入れておくこと。)

(9) 時計以外の機能をもつ時計(電卓機能、通信機能などの機能を備えた時計)を使用すること。

(10) 監督者の注意若しくは指示に従わないこと。

(11)その他、前各号に類する行為をすること。

6. 単位修得の認定と単位修得

試験の評価及び単位修得の認定については、学則第 32 条及び第 36 条に規定している。

1) 講義、実習等に必要な時間を修得しており、かつ、当該科目の成績において、60 点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。これを学校側からは、「単位修得の認定」、学生側からは、「単位修得」という。

2) 講義、演習、実習、実技の成績は、以下のとおりである。

秀……………90 点以上

優……………80 点以上 90 点未満

良……………70 点以上 80 点未満

可……………60 点以上 70 点未満

不可………60 点未満

3) 臨床実習及び臨地実習の成績評価

実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記(2)のように最終評価する。

※理学療法学科と作業療法学科は、実習前後の評価を臨床実習の成績評価に含めて成績評価する。

4) 学業成績を総合的に評価するための基準(客観的な指標方法)

(1) 学業成績を総合的に評価するための基準として、GPA(Grade Point Average)を用いる。

(2) GPA は、累積にて算定する。

(3) GPA の算定に当たっては、履修した各科目の評価に、GP(Grade Point)(以下「GP」という。)を割り当て、その平均を取ることとし、以下の数式により算定する。

(履修登録した GPA 対象科目の GP × その科目の単位数)の合計

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修登録した GPA 対象科目の GP} \times \text{その科目の単位数の合計}}{\text{履修登録した GPA 対象科目の単位数の合計}}$$

(4) GPA の対象科目は、学則別表(1～6)に定める授業科目のうち、成績評価で示すことのできる授業科目とする。

(5) GP の割り当てについては、学則第 32 条第 3 項に定める試験の評価(以下「成績評価」という。)に応じて、次表に定める GP を割り当てる。

成績評価	GP
秀(90～100 点)	4
優(80～89 点)	3
良(70～79 点)	2
可(60～69 点)	1
不可(59 点以下)	0

(6) GPA は、小数点以下第 3 位を四捨五入し、小数点以下第 2 位までを有効とする。なお、単位認定の認定科目、免除科目及び卒業要件に入らないカリキュラム以外の科目の単位は、GPA には算入しない。

5) 成績の通知

学生の成績結果は、前期、後期それぞれの成績集計後に、連帯保証人に郵送する。

IV. 進級、卒業の認定について

1. 進級の認定

進級の認定については、学則第 37 条に規定している。

進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議の議を経て、学校長が決定する。

また、進級の条件に補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。

2. 卒業の認定

卒業の認定については、学則第 38 条に規定している。

卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を修得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議の議を経て、学校長が決定する。

V. 褒賞について

学生の褒賞については、学則第 40 条に規定している。
詳細については、「四国医療専門学校表彰規程」による。

VI. 懲戒について

学生の懲戒については、学則第 41 条に規定している。
詳細については、「四国医療専門学校学生の懲戒に関する規程」による。

VII. 除籍及び復籍について

学生の除籍及び復籍については、学則第 26 条に規定している。

詳細については、「授業料その他の納付金滞納者に係る除籍及び復籍の取扱に関する規程」等による。

VIII. その他留意事項について

1. 掲示及び SNS による通知、連絡

学校からの学生への連絡は、原則として全て掲示又は SNS で通知する。

緊急の場合もありえるので、必ず朝夕の 2 回は各掲示板を見るようにしておくこと。また、掲示板の見落としに起因する責任は、学校側にはないので特に注意しておくこと。

2. 提出物

各種申請書、レポート、その他当該学科の教務室及び学生総合窓口から学生に提出物を求められたときは、必ず定められた期限内に提出しなければならない。

3. 不明な点は、当該学科教員及び学生総合窓口に問合せた上で、十分理解するように努めること。

4. 大学併修(通信教育)

大学の併修(通信教育)については、学則第 46 条に規定している。

本校では、看護学科は原則必須にて理学療法学科及び作業療法学科は任意にて、九州医療科学大学通信教育部と教育提携契約を締結している。履修方法等については、別に定める。

5. ここに定めない事項については、学校長の指示に従うものとする。

附 則

- 1 この履修要綱は、学則、その他の規程等に基づき、令和 4 年 12 月 13 日に制定し、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

施行後の要綱は、令和 5 年 4 月 1 日以降の入学生に適用し、令和 5 年 3 月 31 日以前の入学生については、各種届出及び申請様式以外は、なお従前の規程による。

附 則(令和 5 年 5 月 8 日一部改正)

- 1 この履修要綱は、令和 5 年 5 月 8 日から施行する。

附 則(令和 5 年 8 月 22 日一部改正)

- 1 この履修要綱は、令和 5 年 8 月 22 日から施行する。

施行後の要綱は、令和 5 年 4 月 1 日在籍学生に適用する。

附 則(令和 6 年 2 月 13 日一部改正)

- 1 この履修要綱は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

施行後の要綱は、令和 6 年 4 月 1 日在籍学生に適用する。

附 則(令和 7 年 2 月 13 日一部改正)

- 1 この履修要綱は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

施行後の要綱は、令和 7 年 4 月 1 日在籍学生に適用する。

大学併修制度

大学を卒業する為には、最低 124 単位以上の修得単位が必要です。本校理学療法学科では、九州医療科学大学との教育提携により本校を卒業した時点で、最大 60 単位が包括認定されるため、残り 64 単位以上を 4 年間で修得すれば「学士」の称号及び「社会福祉主事任用資格」が取得されます。なお、修得すべき 64 単位のうち 4 年間で 23 単位以上はスクーリングもしくはメディアによる単位を修得しなければなりません。

本校に入学する前に他の大学(短期大学)を卒業したものに対しては、大学の通信教育の全部または一部の履修を免除することがあります。

1. 学生の種類

通信教育で学ぶ学生は、正科生、科目履修生、特別履修生の 3 種類に分類され、何を目的として入学するかによって学生の種類が決定しますが、本校は九州医療科学大学通信教育部社会福祉学部スポーツ健康福祉学科正科生として入学手続きをとります。

学生の種類	
正科生	大学卒業資格取得を目的とする。
科目履修生	満 18 歳以上で、大学卒業資格取得を目的としない、希望科目のみを履修する。
特別履修生	満 18 歳以上で、大学入学資格をもたない者が、正科生としての入学資格を取得するための制度

2. 入学時期と出願期間

入学時期は春期入学となります。

本学合格と同時に大学の出願手続きを行います。

3. 選考方法

入学試験(書類審査等)を行い、入学志願書の志望理由および、その他出願書類により九州医療科学大学で総合的に選考され、出願期間の最終受付日から 1 週間後に可否通知が郵送されます。合格者には入学手続きに必要な書類(入学手続・学費などの振込み依頼書)が同封され、不合格になった者については、本校において指導の上、再度入学試験を受験することになります。

4. カリキュラム

通信教育部のカリキュラムは「基礎科目」、「専門教育科目」ともに豊富な科目を設置されており、一人ひとりの目的に応じた自由な履修選択が可能となっています。

詳しくは、九州医療科学大学通信教育部「学習のしおり」、2024 年度 1 年次入学生 通信教育部社会福祉学部スポーツ健康福祉学科カリキュラムまたはパンフレットのカリキュラムをご参照ください。

5. 学習を始めるにあたって

入学手続・学費等納入後「履修届」等を記入し郵送・提出することにより、主教材(履修する科目のテキスト・資料)が配布され学習開始となります。

九州医療科学大学通信教育部では、次の 4 つの授業形態があります。

1) テキスト科目(印刷授業)

テキスト教材を主として自己学習を随時進めていく科目です。自己学習の段階的な成果を見せるために、原則として 2 単位につき 1 回の添削課題が義務付けられ、この添削課題を提出し合格しなければ、最終的な科目単位認定試験を受けることができません。科目によっては添削課題の他にレポートなどを求められる場合もあります。添削課題の締め切り・課題返却日・科目単位認定試験は九州医療科学大学より郵送された日程表に従い、申込書を指定期日までに提出することにより受験ができます。

科目単位認定試験は春季・夏季・秋季・冬季の 4 回実施されます。つまり、テキスト科目については、年に 4 回の受験機会があります。試験は、択一式・レポートなどがあり、九州医療科学大学で定められています。1 日 1 科目 45 分 8 科目まで受験可能です。成績についても九州医療科学大学の定めによります。会場はスクーリング会場と同一会場となっていますが、本校については、提携校であるため、本校で受験することができ、この科目単位認定試験に合格することで科目の修了が認められます。

2) スクーリング科目(面接授業)

スクーリングの場所・日程は九州医療科学大学より郵送された日程表に従い、申込書を指定期日までに提出することにより受講ができます。

スクール、つまり学校で授業を受ける科目になり、スクーリング科目 2 単位につき 3 日間の集中的な講義が実施されます。原則 1 科目 3 日間です。本校はスクーリング会場を岡山会場または本校会場で実施しています。スクーリングの最終講義時には認定試験が実施されます。科目によってはスクーリング終了後にレポートを提出する場合があります。これらの試験やレポートに合格することで、その科目の修了となります。

3) テキスト・スクーリング科目(併用授業)

テキストによる授業とスクーリング授業を組み合わせることで、より効果的な理解と実践能力を身につける授業形態です。テキスト部分およびスクーリング部分の 2 回の認定試験を受験し、両方に合格しなければなりません。

4) テキスト・メディア科目(併用授業)

メディア授業は、インターネット、あるいは CD-R を利用して、先生の講義を聞きながら進めていくことになります。本校は視聴覚教室に設置されているパソコンをインターネットにアクセスして学習することもできます。講義は自宅のパソコンでも毎日順番に少しずつ見ていくこともできます。科目修了のためには、テキスト部分の科目認定試験に合格するとともに、メディア部分のレポートにも合格しなければなりません。

通信教育は家庭学習が主ですが、学生の負担を軽減するために、時間割の中にも組み込んでいます。

5) 科目履修期間

科目履修期間は 1 年間ですが、初年度中に科目ごとに定められた添削課題にすべて「合格」していれば、継続履修となり在学期間は科目認定試験を単位認定するまで何度でも受験可能となります。

6) 納付金

提携校のため次の下記のとおり納付金の一部が免除されます。

	入学検定料	入学金	科目登録料	授業料	スクーリング履修料	メディア履修料	CD-R 教材費
提携校	10,000	免除	免除	104,000/年間	4,500/ 1 単位	4,500/ 1 単位	3,000/ 1 科目

* CD-R 教材費はメディア科目を CD-R で受講する場合にのみ必要となります。

* 4 年間で約 540,000 円です。スクーリングの際の交通費・宿泊費等は個人負担となります。

* 納付時期等については、九州医療科学大学の指定する日までに、指定の方法にて納付してください。

7) 資格等

① 学士(社会福祉学)の学位

② 社会福祉主事(任用資格)

社会福祉主事(任用資格)は、各種行政機関で保護・援助を必要とする人のために、相談・指導・援助の業務をおこなう専門家であり、九州医療科学大学通信教育部「学習のしおり」に掲載されている社会福祉主事指定科目から 3 科目以上を履修し、単位を取得することで資格を得ることができます。任用資格なので、公務員などに採用され、実際に業務についた場合に限り初めて名乗ることのできる資格ですが、昨今では、社会福祉施設職員や民間企業(福祉系)での採用基準として準用されるケースもあります。

③ 作業療法士養成所における専任教員の資格(希望選択)

大学において教育学に関する科目を 4 単位以上修め、卒業したものは、現時点では作業療法士養成所専任教員の資格を取得することが可能です。

8) 学生相談

学習に関する事柄や事務手続きなどの相談事については随時受け付けております。

令和7年度 学事暦

前期

		月	火	水	木	金	土	日	
2025年 4月		1	2	3	4	入学式	5	6	4月
	7	8	9	10	11		12	13	
	14	15	16	17	18		19	20	
	21	22	23	24	25	球技大会	26	27	
	28	29	昭和の日	30					
5月	5	こどもの日	6	振替休日	7		8	9	5月
	12		13	14	15	16	17	18	
	19		20	21	22	23	24	25	
	26		27	28	29	30	31		
								1	
6月	2	3	4	5	6	7	8	9	6月
	9	10	11	12	13	14	15	16	
	16	17	18	19	20	21	22	23	
	23	24	25	26	27	28	29	30	
	30								
7月	1	2	3	4	5	6	7	8	7月
	7	8	9	10	11	12	13	14	
	14	15	16	17	18	19	20	21	
	21	海の日	22	23	24	25	26	27	
	28		29	30	31				
8月	4	5	6	7	8	9	10	11	8月
	11	山の日	12	13	14	15	16	17	
	18		19	20	21	22	23	24	
	25		26	27	28	29	30	31	
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9月
	8	9	10	11	12	13	14	15	
	15	敬老の日	16	17	18	19	20	21	
	22		23	秋分の日	24	25	26	27	
	29		30						

後期

		月	火	水	木	金	土	日	
10月				1	2	3	4	5	10月
	6	7	8	9	10	11	12	13	
	13	スポーツの日	14	15	16	17	18	19	
	20		21	体育祭	22	23	24	25	
	27		28	29	30	31			
11月	3	文化の日	4	5	6	7	8	9	11月
	10		11	12	13	14	15	16	
	17		18	19	20	21	22	23	
	24	振替休日	25	26	27	28	29	30	
12月	1	2	3	4	5	6	7	8	12月
	8	9	10	11	12	13	14	15	
	15	16	17	18	19	20	21	22	
	22	23	24	25	26	27	28	29	
	29	30	31						
2026年 1月	5	6	7	8	9	10	11	12	1月
	12	成人の日	13	14	15	16	17	18	
	19		20	21	22	23	24	25	
	26		27	28	29	30	31		
2月	2	3	4	5	6	7	8	9	2月
	9	10	11	建国記念の日	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	23	
	23	天皇誕生日	24	25	26	27	28	29	
3月	2	3	4	5	6	卒業式	7	8	3月
	9	10	11	12	13	14	15	16	
	16	17	18	19	20	春分の日	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	30	
	30	31							

四国医療専門学校 理学療法学科・作業療法学科自治会会則

第一章 総則

第1条 本会は四国医療専門学校理学療法学科・作業療法学科自治会と称す。(以下本会と称する。)

第2条 本会は四国医療専門学校の理学療法学科・作業療法学科の全学生を正会員とする。

第3条 本会は次の所在地に置く(香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁62-1)

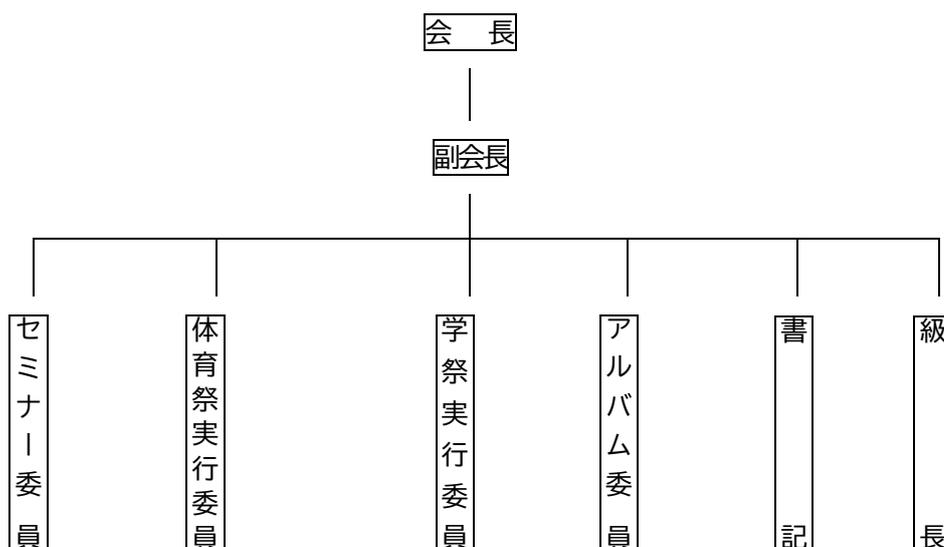
第二章 機関

第4条 本会に次の機関を置く。

1. 自治議会

(役員は任意に選出された自治会員及び各H・Rの級長で構成される。)

自治議会に以下の役職・委員会を設置する。



第5条 自治会役員は第2学年のH・Rより選出する。

第1節 自治総会

第6条 自治総会は毎年1回とし次の事項を審議する。

1. 予算、決算
2. 会則の改廃
3. その他必要な事項

第7条 自治総会は、正会員の2分の1以上の出席をもって成立する。

(総会における書面表決等)

第8条 やむをえない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。この場合、その正会員は総会に出席したものとみなす。

第2節 自治議会

第9条 本会は次のことを行う。

1. 会則の立案及び変更案の作成
2. 予算案及び決算案の作成
3. 学生会の議決事項の周知
4. その他

第10条 自治議会は、役員2分の1以上の出席をもって成立する。

第11条 自治委員の任期は4月1日より3月31日までの1年とする。

第3節 H・R

第12条 本会活動の基礎としてH・R学生会を置く。

第13条 H・Rに級長を置き、自治議会に参加する。

第4節 研究活動(セミナー)

第14条 セミナー委員は、セミナー発表会の準備・運営を行う。

第5節 アルバム

第15条 アルバム委員は、各行事において写真撮影を行う。

第6節 その他の事業

第16条 1年生の諸行事に関する事項(入学式準備・新入生歓迎会の企画・運営)

第17条 4年生の諸行事に関する事項(卒業式の準備・送別会の企画・運営)

第18条 臨床実習に関する事項(指導者会議後の懇親会、壮行会等の企画・運営)

第19条 生徒からの意見に関する事項(議題とするには正会員の3分の1以上の票が必要となる。)

第3章 会計

第20条 本会の経費は会費及び、その他の収入によって充てる。

第21条 本会の会費は、本会の活動目的を達成するために入学時に納入しなければならない。ただし、留年生においては会計役員が直接徴収する。

1. 理学療法学科・作業療法学科自治会費 5,000円×4年分

2. 留年生会費 5,000円×1年分

第22条 本会の会計は、一度納入すれば返却は認められない。

第23条 本会の決算は、毎会計年度終了後2ヶ月以内に自治議会で行い、総会において承認を得なければならない。

第24条 本会の予算割り当ては、毎年4月に自治議会で作案し、総会において承認を得なければならない。

第25条 当該会計年度の剰余金は次年度に繰り入れるものとする。

第4章 帳簿

第26条 本会に次の帳簿を置く。

1. 自治会則

2. 各役員名簿

3. 議事録

4. 会計簿

5. 備品台帳

6. その他

第5章 修正及び改正

第27条 本会則の修正及び改正の動議は自治会員の3分の1以上の要求がある場合認められる。

第28条 本会則の修正及び改正は、その動議が認められ、総会出席者の3分の2の賛成のある場合可決される。

第6章 会員の権利及び義務

第29条 自治総会及び自治議会において可決されたすべての事項に対して会員は忠実に実行する義務と責任を有する。

第7章 附則

第30条 本会則は平成18年4月1日よりこれを施行する。

第31条 本会則は平成21年4月1日一部改正により施行する。

シ ラ バ ス

倫理学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	2単位	30時間	必修	松田毅
8 授業概要 始めに倫理学の代表的な立場である、義務倫理、功利主義、徳倫理学を概観した後、環境倫理と医療倫理を中心に、応用倫理学の具体的問題を取り上げます。						
9 到達目標 倫理について反省的に考え、議論するための概念や方法を身につけ、具体的な倫理問題に向きあうことができるようにします。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	倫理学の基礎	倫理学の必要性、現代の倫理状況としての世俗化と価値の相対主義について理解します。				
第2回	幸福と正義	アリストテレスとホッブスの倫理学から幸福と正義の倫理学の考え方を理解します。□				
第3回	義務倫理と功利主義	□ 現代倫理学を代表する義務倫理・功利主義についてカントとミルに即して理解します。□				
第4回	徳倫理と応用倫理学	□ 徳倫理学の概要を生命倫理学、特に自己決定の原理を例に応用倫理学の考え方から理解します。				
第5回	環境倫理と公正	環境倫理に求められる「マキシミン」の原理をロールズの正義＝公正論に対する「自由至上主義」からの批判を参照しながら理解します。				
第6回	スポーツの倫理学	『応用哲学』12章のスポーツの規則とフェアプレー、11章のeスポーツの問題から応用哲学としての応用倫理学に慣れるようにします。				
第7回	生殖技術と身体	『応用哲学』6章の生殖技術の問題から医療の当事者の身体の倫理について理解します。				
第8回	生殖技術とルール	『応用哲学』7章の生殖技術の問題から「出自を知る権利」など、生まれた子どもの権利保護の問題について理解します。				
第9回	職業倫理としてのケアの倫理	患者・クライアントなどとの対人関係を含む職業(看護、福祉など)に求められるケアの倫理について徳倫理的観点から理解します。				
第10回	予防医療の倫理	『応用哲学』8章の先制医療の問題から「健康」の倫理とリスク論の基本について理解します。				
第11回	公衆衛生の倫理	アスベストによる長期の健康被害とワクチン摂取の問題から公衆衛生の倫理について理解します。				
第12回	気候変動と環境倫理	『応用哲学』1章と2章の気候危機と気候工学の問題から環境正義と予防原則について理解します。				
第13回	経済活動と環境倫理	『応用哲学』3章と4章の経済システムの複雑性と脱成長の問題から経済活動の環境倫理について理解します。				
第14回	人工知能・人工生命と科学技術の倫理	『応用哲学』9章と10章の人工主体、人工知能の問題を例に、科学技術の倫理について理解します。				
第15回	まとめ	授業全体の内容と学びを振り返るために、受講者が意見発表をします。				
11 学習方法 授業では配付資料とスライドによる講義をします。配付資料と教科書にはアクティブラーニングの課題があげられているので、配付資料や教科書を読み、課題について考えてみてください。毎回、小課題を授業後に提出していただきます。						
12 評価方法 毎回の小課題による授業の理解度(70%)と15回目の意見発表による到達度(30%)の状況を合わせて評価します。						
13 教科書			参考書			
授業時にハンドアウトを配布するとともに『応用哲学』(昭和堂)を用います。			授業時間内に適宜紹介します。			
14 学生への要望 アクティブラーニングにぜひ取り組んで見ましょう。						

数学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	2単位	30時間	必修	藤田和憲
8 授業概要 「統計学」の基礎を学習する。基本的な統計計算とデータ処理には、高校の数学Ⅰの単元「データの分析」の内容理解で間に合うので、前半では「データの分析」の復習をしながら基本統計量、相関などの基礎的事項を扱う。後半では二項分布、正規分布などを説明し、その応用として、区間推定、検定の初歩を扱う。						
9 到達目標 統計解析の説明に加えて、統計ツールでの実践処理も紹介し、基礎力・応用力の育成をめざす。						
10 授業計画			各時間で学ぶべきこと			
第1回	代表値・基本統計量Ⅰ		平均値、中央値、箱ひげ図			
第2回	代表値・基本統計量Ⅱ		偏差、偏差平方和、分散、標準偏差			
第3回	代表値・基本統計量Ⅲ		データを形式的に処理、度数分布			
第4回	相関と回帰Ⅰ		相関図、偏差の積和、共分散			
第5回	相関と回帰Ⅱ		相関係数、回帰直線			
第6回	相関と回帰Ⅲ		回帰直線の応用			
第7回	確率の基礎Ⅰ		順列、組合せ、確率、確率変数			
第8回	確率の基礎Ⅱ		離散型確率分布、確率変数の期待値・分散・標準偏差			
第9回	確率の基礎Ⅲ		二項分布とその応用、			
第10回	正規分布Ⅰ		連続型確率分布、標準正規分布、正規分布表			
第11回	正規分布Ⅱ		標準化、一般の正規分布とその確率計算			
第12回	正規分布Ⅲ		母平均の区間推定(大標本の場合)			
第13回	正規分布Ⅳ		母平均の検定			
第14回	t分布		母平均の区間推定(小標本の場合)			
第15回	カイ2乗分布		適合度検定			
11 学習方法 講義／演習						
12 評価方法 期末試験・出席状況・演習などを総合的に評価						
13 教科書			参考書			
計算力が身に付く確率・統計 出版社: 学術図書出版社 著者: 佐野公朗			授業時に紹介			
14 学生への要望 常時「教科書、ノート及び配布資料、電卓」を携帯すること。						

物理学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	2単位	30時間	必修	松田和典
8 授業概要 物理学((力学, 運動力学, 波動)について、物理学の発展を技術の進展と関連づけながら概観し、とくに、身体の運動学の基礎となる「テコ」についての静力学を、演習を交えながら学ぶ。						
9 到達目標 物理学の基本的な考え方(自然観)を養うことができる。						
10 授 業 計 画			各時間で学ぶべきこと			
第1回	物理学への誘い		物理学の分野を概観して、物理学の発展が技術の進展と密接不可分であることをみる。			
第2回	力とつり合い		静止している物体に働く力のつり合いおよび圧力について学びます。			
第3回	力の合成・分解とモーメント		2つ以上の力の合成と剛体を回転させる力について考えてみよう。			
第4回	力のモーメントつり合いと重心		テコがつり合うとはどういうことか、テコの種類、人体の骨格・関節・筋肉からなる運動器への応用について考える。			
第5回	位置・速度・加速度		加速度の考え方はどのようにして生まれたか、ガリレイとニュートンの系譜(自然観)をたどってみよう。			
第6回	動いている物体の力学(1)		動いている物体に働く力と運動の関係について考える。			
第7回	動いている物体の力学(2)		ニュートンの運動力学について学びます。			
第8回	運動量と衝突		物体が衝突する前後の運動量を考察することにより運動量保存について学びます。			
第9回	運動エネルギーと位置エネルギー		物体が自由落下するときのエネルギーを考察することによりエネルギー保存について学びます。			
第10回	仕事とエネルギー		力, 運動, 熱をエネルギーによって表し, 食物エネルギーと人間の活動について考えてみよう。			
第11回	円運動		円運動する物体に働く力と, 速度・加速度との関係を考える。			
第12回	単振動		バネの運動や振り子の運動と円運動との関係について考えてみよう。			
第13回	波		波動現象に共通する特徴(直進性と回折性)、そして媒質の存在について学ぶ。			
第14回	光と音		波動現象に共通する特徴(直進性と回折性)、そして媒質の存在について学ぶ。			
第15回	まとめ		この授業で学んできたことを振り返ります。			
11 学習方法 講義中心(なるべく演示実験をおこなう)						
12 評価方法 期末試験(筆記試験)						
13 教科書 「看護にいかす物理学」前田昌信著			参考書 「医療系の基礎としての物理」廣岡秀明著			
14 学生への要望 物理学は進展すると、知識と知識が脈絡を持って物語化していきます。その歴史的経緯をたどっていくと、とても楽しい物理学の学びになっていきます。疑問に思うことがあったら進んで質問をしてください。積極的に講義に参加することで、ますます楽しい物理学の学びになります。出来たら予習をして、質問を準備してください。						

情報科学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	2単位	30時間	必修	梅木佳子
8 授業概要 パソコン演習を通じて、パソコン操作に慣れ、スキルアップを図る。また、パソコン関連知識の充足を行う。						
9 到達目標 レポートや卒研作成、就職後に困らないように、パソコン操作が行え、事務処理能力を高める。						
10 授 業 計 画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1回	Windows10 セキュリティ&インターネット			Windows10の説明。インターネットの使用方法、および、ウィルスや個人情報などのセキュリティについて説明。		
第2回	Word入門1			文字入力、変換、ビジネス文書の基礎。		
第3回	Word入門2			図の挿入、ページ罫線など、書式の設定。および、ページ設定。		
第4回	Word応用1			SmartArt,表の挿入、グラフの挿入、段組み文書。		
第5回	Word応用2			長文の編集。目次や脚注、ページ番号など。		
第6回	Word応用3			便利な機能。		
第7回	Excel入門1			表計算の基礎、書式設定、簡単な関数。		
第8回	Excel応用1			様々な関数。		
第9回	Excel応用2			フィルターや集計。簡単なデータベース機能。ユーザー書式について。		
第10回	Excel応用3			グラフの作成。高度なグラフ		
第11回	Excel応用4			ユーザー定義の表示形式、条件付き書式など便利な機能。		
第12回	PowerPoint入門1			プレゼンテーション作成についての基礎。		
第13回	PowerPoint入門2			図や表の挿入、グラフの挿入について。		
第14回	PowerPoint応用1			アニメーションの設定、画面の切り替え効果について。 印刷、自動再生、プレゼンテーションの発表についての諸設定。		
第15回	テスト			テスト&解説。		
11 学習方法 講義／演習						
12 評価方法 出席率・授業態度(30%)、提出物&授業中の作成データ・テスト(40%)、テスト(30%)						
13 教科書			参考書			
情報リテラシー Windows 11 / Office 2021対応 FOM出版						
14 学生への要望 医療現場やその他の職場で、今やパソコンは必須。授業でのレポートや卒研発表、および、就職後に困らないように各自しっかりとパソコン操作を体得すること。教え合うのは可。ただし、作成データや課題、提出物のデータコピーは不可。減点、あるいは再提出の対象とする。データ保存用USBメモリを準備、授業時には、毎回教科書とUSBメモリを持参する。						

英語

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	2単位	30時間	必修	大嶋寛子
8 授業概要 総合的な英語運用力を習得するために、聞く、話す、読む、書くの4技能にわたる活動を行う。						
9 到達目標 医療・介護・健康系分野の全般にわたって基礎的な表現ができる英語力の習得をめざす。						
10 授 業 計 画						
第1回	イントロダクション	各時間で学ぶべきこと 英語学習一般及び医療・看護・介護系英語についてのガイダンスを受け、授業展開に必要な基本表現を学ぶ				
第2回	Chap 1 Polio and Vaccination	ポリオについての理解を深めるとともに、受診時の英語でのやり取りができるようにする				
第3回	Chap 2 A Doctor's Prescription	薬の処方箋についての理解を深めるとともに、診察時の英語でのやり取りができるようにする				
第4回	Chap 3 Barometric Pressure and Migraines	偏頭痛や気圧変化による頭痛に苦しんでいる人について薬に頼ることが必ずしも最善とは言えない場合もあることを理解する				
第5回	Chap 4 Internal Medical Exam	英語での薬の説明文についての理解を深めるとともに、内科診察時の英語でのやり取りができるようにする				
第6回	Chap 5 Colon Polyps	大腸で生じている異変が大腸癌に進行する可能性をもつ悪性のポリープについての理解を深める				
第7回	Chap 6 Respiratory Symptoms	SARS についての理解を深めるとともに、気管支鏡を用いての検査に関わる表現を身につける				
第8回	Review Test 1 / 中間テスト	Chaps 1-6 での学習の理解度を測り、各自の到達状況を把握する				
第9回	Chap 7 Diabetes	II 型糖尿病のリスクについて英語での理解を深めるとともに、それを表現できるようにする				
第10回	Chap 8 Coronary Arterial Problems	動脈疾患について理解を深めるとともに、定期検査関連の表現を身につけるようにする				
第11回	Chap 9 A Single Doctor's Office Visit and Health Insurance	アメリカにおける健康保険とホームドクターとのやりとりを理解するとともに、関連する表現を身につけるようにする				
第12回	Chap 10 Allergic Reactions	花粉症を含むアレルギー反応について、アレルゲンやアレルギー反応を抑える物質などについて理解する				
第13回	Chap 11 COVID-19	新型コロナウイルス(COVID-19)関連の英語表現やワクチンについての理解を深める				
第14回	Chap 12 Heartburn and Endoscopy	内視鏡検査や胸焼けなどについての理解を深めるとともに、関連表現を身につける				
第15回	Chap 13 Menopause	更年期以降の女性の身体的変化やホルモン治療についての理解を深めるとともに、関連する英語表現を身につける				
11 学習方法 演習：ペア学習・グループ学習を交え、インタラクション活動に重点をおいて授業を展開する。						
12 評価方法 出欠席・授業中の活動、及び中間・期末試験の結果を基に総合的に評価する。						
13 教科書			参考書			
CHECK-UP! Basic English for Nursing 金星堂 Akihiko Higuchi John Ttremarco			英和(英英)辞典(電子辞書可) <毎時間携行のこと>			
14 学生への要望 必ず準備をして授業に臨み、積極的に参加すること。						

医学英語

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1学年	後期	2単位	30時間	必修	宮崎刀一
8 授業概要 理学療法士・作業療法士に必要な医学的知識を英文にて習得する。また医学英語を通して、臨床に必要な知識を習得する。						
9 到達目標 理学療法士・作業療法士に必要な医学的知識を英文から学ぶことが出来る。また医学英語を通して、臨床に必要な知識を習得することが出来る。						
10 授 業 計 画			各時間で学ぶべきこと			
第1回	リハビリテーションのための人体の基礎知識		断面と方向、運動の基本用語、他			
第2回	リハビリテーションのための人体の基礎知識		関節可動域、肢位、他			
第3回	人体の構造		骨格系に関する用語を学ぶ。			
第4回	人体の構造		筋肉系に関する用語を学ぶ。			
第5回	人体の構造		神経系に関する用語を学ぶ。			
第6回	病気とリハビリテーション		骨折に関する用語を学ぶ。			
第7回	病気とリハビリテーション		慢性腰痛、関節炎に関する用語を学ぶ。			
第8回	病気とリハビリテーション		スポーツ外傷に関する用語を学ぶ。			
第9回	病気とリハビリテーション		パーキンソン病に関する用語を学ぶ。			
第10回	病気とリハビリテーション		脳卒中に関する用語を学ぶ。			
第11回	理学療法士・作業療法士のための医学英語基礎 1		脊髄損傷患者(ファン)の実体験に基づく長文からリハビリテーションのあり方を理解することと、基本的な医学用語について学習する。			
第12回	理学療法士・作業療法士のための医学英語基礎 2		脊髄損傷患者(ファン)の実体験に基づく長文からリハビリテーションのあり方を理解することと、基本的な医学用語について学習する。			
第13回	理学療法士・作業療法士のための医学英語基礎 3		脊髄損傷患者(ファン)の実体験に基づく長文からリハビリテーションのあり方を理解することと、基本的な医学用語について学習する。			
第14回	理学療法士・作業療法士のための医学英語基礎4		脊髄損傷患者(ファン)の実体験に基づく長文からリハビリテーションのあり方を理解することと、基本的な医学用語について学習する。			
第15回	理学療法士・作業療法士のための医学英語基礎5		脊髄損傷患者(ファン)の実体験に基づく長文からリハビリテーションのあり方を理解することと、基本的な医学用語について学習する。			
11 学習方法 講義						
12 評価方法 定期試験・小テスト・出欠席状況・授業態度から総合的な評価						
13 教科書			参考書			
リハビリテーションの基礎英語 メジカルビュー社						
14 学生への要望 講義に集中してよく聴くことが講義内容の理解を深めます。繰り返して学習することと、講義を休まないことが大切です。						

コミュニケーション論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	2単位	30時間	必修	山本茂喜 倉本由伽 (作業療法士)
8 授業概要						
<p>教育学を専門とする非常勤講師と病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、コミュニケーションについて講義します。医療職として必要なコミュニケーション能力を体験し、感じたり、考えたりしながら、人とうまく関わる能力を身につけることが出来る。</p>						
9 到達目標						
<p>対人関係の感性が養うことができる。良好なコミュニケーションと業務の遂行のために人間関係論を学ぶ。</p>						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	コミュニケーションについて	メッセージの共有 共有することの難しさ 共有しようとする意欲				
第2回	コミュニケーションの効果について	メッセージの影響 挨拶の効果 対人サービスと敬語 利用者満足 利用者に嫌われる言葉 利用者に喜ばれる言葉				
第3回	準言語的コミュニケーション	音の強弱、長短、抑揚 発語の速さ				
第4回	非言語的コミュニケーション	表情 目線 視線 動作 姿勢 装い				
第5回	アクティブリスニング	聞くと聴く 語調から聴く 表情から聴く 状況から聴く				
第6回	受容	審判的態度の弊害 価値観の類似性と多様性 対決と受容 価値判断の棚上げ 受容の実践				
第7回	共感	同情と共感 励ましと共感 共感の効果				
第8回	人間関係基礎論①	自己概念、対人関係と役割				
第9回	医療者を目指すために必要なこと	医療職の特性について知り、心身ともに健康な医療者として自分自身が成長するために必要な事柄について学ぶ。				
第10回	自分を知る	自分自身について理解するために、自己概念・自己肯定感について学ぶとともに性格診断を行い、対人援助者としての自己成長に必要な自身の課題を明確にする。				
第11回	他者から見た自分	他者から見た自分について知り、自己理解をさらに深めるとともに、人とよく知り合うための方法について具体的に学ぶ。				
第12回	自分の態度	「態度」について学び、いくつかの枠組みから自分自身の態度について考えるとともに、医療者として求められている態度について知る。				
第13回	スポーツコミュニケーション	対話型のコミュニケーションを学び、コーチング方法について学ぶ。				
第14回	人間の心を理解する	「自我状態(交流分析理論)」について学び、私たちの心の構成要素に関する理解を深め、表情や態度、言動から心の状態を理解する。				
第15回	対人コミュニケーション分析	対人コミュニケーションにおける3つの交流パターンについて理解し、対話からコミュニケーションを分析する方法を学ぶ。				
11 学習方法						
講義/演習/グループワーク						
12 評価方法						
受講態度と積極的にグループワークに参加することを重視する。課題内容も評価とする。						
13 教科書						
配布資料 参考書						
14 学生への要望						
<p>多くの知識を学び、資格試験に合格しても、対人援助ができない人は、珍しくありません。人と上手に関わることができなければ、専門知識を役立てることはできません。うまく関わる能力は、本を読んだり、講義を受けたりするだけでは身につけません。受身的に学ぶのではなく、体験を通して自ら主体的に学び、対人関係の感性を磨く中で、初めて手にすることができるのです。自身が体験し、感じたり、考えたりしながら、人とうまく関わる能力を身につけ、対人関係の感性が少しずつ養われていきます。本講義が皆さんに少しでも役立つならば、幸いです。</p>						

社会福祉論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
基礎分野	1学年	前期	2単位	30時間	必修	川田行雄
8 授業概要 これからの医療人は単に手技を提供するだけでなく、超高齢化社会を支える担い手としての役割がより一層期待されていることから、社会福祉固有の視点を理解し、専門職全体の質を向上させていくことを目的とする。						
9 到達目標 ①社会福祉の意義・理念を学ぶ。 ②社会福祉の法体系・制度・財政を知る。 ③社会福祉の遂行と専門職の必要性について理解する。 ④社会福祉の基礎としての医療・介護・住宅・雇用及び公的扶助など、社会保障制度全般の概要を学ぶ。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	オリエンテーション	15回の授業内容の概略を説明、予習・復習に役立たせる				
第2回	現代社会と福祉	①家族・地域社会の変化 ②福祉の課題を学ぶ				
第3回	社会福祉とは…社会福祉の範囲、社会福祉の歴史	①イギリス ②スウェーデン ③日本(戦前) ④アメリカ				
第4回	社会福祉の構造改革…戦後福祉の見直し 社会福祉の計画	①ゴールドプラン ②エンゼルプラン ③障害者プラン ④オレンジプラン				
第5回	社会福祉の法制度…福祉3法、6法、基本法	日本国憲法第三章 国民の権利と義務				
第6回	社会福祉の仕組み、行政機関、福祉施設	国、都道府県、市町村 第一線の福祉関係機関を学ぶ				
第7回	児童・青少年と家庭の福祉	①児童虐待 ②少年非行 ③エイズについて学ぶ				
第8回	現代福祉問題	①ひきこもり ②不登校 ③高校中退 ④母子福祉 ⑤母子保健 ⑥婦人保護 ⑦DV防止 ⑧ストーカー規制				
第9回	障害者の福祉	①身体障害 ②知的障害 ③精神障害 ④重症心身障害 ⑤発達障害				
第10回	高齢者の福祉、保健、介護	①施設福祉 ②在宅福祉 ③地域福祉 ④要介護認定者の状況				
第11回	公的扶助制度…生活保護法、事例研究	子どもの貧困率、障害者の貧困率、相対的貧困率				
第12回	社会福祉の担い手と職業倫理	専門職としての社会福祉従事者、その資格要件				
第13回	社会福祉援助技術	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、 ケアマネジメント、カウンセリング、サービスネットワーク				
第14回	社会福祉の民間活動 社会福祉の民間財源	社会福祉協議会、民生・児童委員協議会、NPO法人、共同募金会 共同募金、郵便 年賀はがき寄付金、公営競技益金による補助、利用者負担				
第15回	社会保障の充実	①社会福祉の予算 ②年金、医療、雇用、労災保険 ③育児・介護休業 ④住宅問題 ⑤社会保障給付費 ⑥国民負担率 ⑦法定雇用量				
11 学習方法 講義／演習						
12 評価方法 期末試験・出席状況・演習などを総合的に評価						
13 教科書 児童の福祉を支える(演習)社会的養護Ⅱ 萌文書林 吉 授業時に紹介 田真理 編者				参考書		
14 学生への要望 将来、医療人として患者・家族との信頼関係をつくる上で役立つので、福祉の心を身につけてください。						

解剖生理学 I (前期)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	前期	2単位/通年	60時間/90時間	必修	竹内義喜(医師)
8 授業概要 解剖学は、人体の正常な構造を明らかにする学問である。前期は、骨・靭帯、関節、組織学総論、末梢神経、自律神経の授業を行う。人体の各部位、各臓器の説明に加え、良く知られた病気などとの関連性も紹介していく。						
9 到達目標 解剖学はとかく平面的知識になってしまうが、立体的知識を身につけるように努力し、将来いろいろな学問に適応できる正確な人体の構造を修得する。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	人体の構成			基本的な解剖学用語および人体を構成する領域		
第2回	組織学総論(1)、骨格			細胞学、上皮組織、結合組織、筋組織、骨の種類・構造		
第3回	組織学総論(2)、頭蓋骨(1)			神経組織、頭蓋骨の形態・連結		
第4回	組織学総論(3)、骨格と関節、頭蓋骨(2)			骨細胞、骨の成長、関節の構造、蝶形骨		
第5回	神経系の構成、頭蓋骨(3)			神経細胞、グリア細胞、側頭骨・後頭骨・下顎骨		
第6回	神経系の情報伝達、脊柱(1)			シナプス、神経筋接合、頸椎		
第7回	脳神経(1)、脊柱(2)			I-IV・VI脳神経の形態、走行および機能、胸・腰・仙・尾椎		
第8回	感覚器系(1)、胸郭			眼球の構造、視神経との関連性、胸椎・肋骨・胸骨		
第9回	脳神経(2)、上腕の骨			V脳神経の形態、走行および機能、舌と味覚、上腕骨		
第10回	脳神経(3)、前腕・手の骨			VII・VIII脳神経の形態、走行および機能、橈骨・尺骨・手根骨・指骨		
第11回	感覚器系(2)、上肢帯の骨			聴覚器・平衡感覚器、鎖骨・肩甲骨		
第12回	脳神経(4)、骨盤			IX-XII脳神経の形態、走行および機能、骨盤を構成する骨および性差		
第13回	脊髄神経(1)、大腿の骨			デルマトーム、頸神経叢、腕神経叢、大腿骨		
第14回	脊髄神経(2)、下腿・足の骨			腰神経叢、仙骨神経叢、脛骨・腓骨・足根骨・中足骨・足の指骨		
第15回	脊髄神経(3)、骨の総括			交感・副交感神経系、骨、靭帯、関節のまとめ		
11 学習方法 初めての医学専門課程の授業であるため、医学用語の理解が難しいと思われる。授業に欠席することなく、納得が行くまで繰り返しノートや教科書を読むこと。						
12 評価方法 ペーパー試験						
13 教科書 分担解剖学1、2(金原出版) The Anatomy coloring book (廣川書店)				参考書		
14 学生への要望 まず欠席しないこと。さらに、理解できていないものを後回しにせず、その日のうちにノートや教科書により理解し終えることが望ましい。高校と比較にならないほどたくさんの方のことを覚えなければならないため、後回しにすると膨大な量の積み残しができてしまい処理できなくなる。日々の努力を怠らないことである。						

解剖生理学 I (後期)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位/通年	30時間/90時間	必修	竹内義喜(医師)
8 授業概要						
解剖学は、人体の正常な構造を明らかにする学問である。後期は、中枢神経系、消化器系、呼吸器系、心臓血管系、内分泌系、下肢の筋肉、泌尿器系、生殖器系の授業を行う。人体の各部位、各臓器の説明に加え、良く知られた病気などとの関連性も紹介していく。						
9 到達目標						
解剖学はとかく平面的知識になってしまうが、立体的知識を身につけるように努力し、将来いろいろな学問に適應できる正確な人体の構造を修得する。						
10 授 業 計 画						
						各時間で学ぶべきこと
第16・17回	中枢神経系(1)、筋収縮					脳室、髄膜、脳脊髄液、脳の動・静脈、筋の構造とはたらき
第18・19回	中枢神経系(2)、頭の筋					大脳皮質の機能的局在、大脳辺縁系、表情筋・咀嚼筋
第20・21回	中枢神経系(3)、体幹の筋(1)					大脳の神経回路、神経核、間脳、固有背筋・腹壁および鼠径部の筋
第22・23回	中枢神経系(4)、体幹の筋(2)					脳幹、小脳、脊髄、骨盤および会陰の筋
第24・25回	心臓血管系(1)、上肢の筋(1)					血液循環、動脈、静脈、肩甲骨周辺の筋
第26・27回	心臓血管系(2)、上肢の筋(2)					縦隔、心臓の内部構造、刺激伝導系、冠状動脈、上腕の筋
第28・29回	心臓血管系(3)、上肢の筋(3)					大動脈、上・下肢の動脈、消化管の動脈系、会陰の動脈、前腕の筋
第30・31回	心臓血管系(4)、上肢の筋(4)					上・下肢の静脈系、肝門脈系、奇静脈系、リンパ系、手と指の筋
第32・33回	呼吸器系(1)、下肢の筋(1)					鼻孔、副鼻腔、咽頭、喉頭、殿筋・梨状筋周辺・坐骨神経との関連性
第34・35回	呼吸器系(2)、消化器系(1)、下肢の筋(2)					肺、胸膜、口腔、歯、腹膜、食道～直腸、大腿後面の筋、内転筋群
第36・37回	消化器系(2)、下肢の筋(3)					肝臓、胆嚢、すい臓、大腿前面の筋、大腿三角、下腿前面・外側面の筋
第38・39回	泌尿器系、下肢の筋(4)					腎臓・尿管・膀胱の構造と機能、下腿後面の筋、足の筋
第40・41回	生殖器系、発生学、下肢帯の筋					男性・女性生殖器、人体の発生、内寛骨筋
第42・43回	内分泌系(1)、筋の総括(1)					内分泌液のはたらき、下垂体、視床下部、骨・筋・靭帯のまとめ
第44・45回	内分泌系(2)、筋の総括(2)					甲状腺、上皮小体、副腎、すい臓、骨・筋・靭帯のまとめ
11 学習方法						
初めての医学専門課程の授業であるため、医学用語の理解が難しいと思われる。授業に欠席することなく、納得が行くまで繰り返しノートや教科書を読むこと。						
12 評価方法						
ペーパー試験						
13 教科書						
			参考書			
分担解剖学1、2(金原出版) The Anatomy coloring book (廣川書店)						
14 学生への要望						
まず欠席しないこと。さらに、理解できていないものを後回しにせず、その日のうちにノートや教科書により理解し終えることが望ましい。高校と比較にならないほどたくさんの方のことを覚えなければならないため、後回しにすると膨大な量の積み残しができてしまい処理できなくなる。日々の努力を怠らないことである。						

解剖生理学Ⅱ（前期）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	前期	2単位/通年	60時間/90時間	必修	板野俊文
8 授業概要 人体を構成する各臓器の正常な機能を学習する。						
9 到達目標 各種の正常な数値の範囲を理解し、説明することができる。 恒常性とは何か、また恒常性はどのように維持されるのか、理解する。						
10 授 業 計 画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1・2回	生理学とは？	講義のオリエンテーション、生理学学習の意義、生理学の学習方法				
第3・4回	血液と体液	体液とは何か？ 血液の成分、赤血球の働き				
第5・6回	血液と体液	白血球、血小板の機能、止血、血液型				
第7・8回	循環器系	循環器系を構成する臓器の概要、心臓の機能				
第9・10回	循環器系	心刺激伝導系、心電図の概説、血圧とその調節				
第11・12回	呼吸器系	呼吸器系の構成、肺容量、ガス交換のしくみ				
第13・14回	消化と吸収	消化器系の構成および構造と機能の概説、栄養素と分解				
第15・16回	消化と吸収	消化酵素の機能、消化管機能の調節、消化酵素の分泌調節				
第17・18回	消化と吸収	消化酵素の分泌調節、吸収				
第19・20回	尿の生成と排泄	腎臓の概略、尿の生成				
第21・22回	尿の生成と排泄	体液の調節、血圧の調節、尿の排泄				
第23・24回	体温と代謝	エネルギー代謝、物質代謝				
第25・26回	体温と代謝	体温の調節、熱の産生と放散				
第27・28回	予備					
第29・30回	まとめと試験					
11 学習方法 講義／演習						
12 評価方法 出欠席・小テスト						
13 教科書				参考書		
最新リハビリテーション基礎講座 生理学 医歯薬出版						
14 学生への要望 講義を聴いて不明な部分は、インターネットで調べるなり、医学事典を用いて調べ、自分なりのノートを作成すること。						

解剖生理学Ⅱ（後期）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位/通年	30時間/90時間	必修	板野俊文
8 授業概要 人体を構成する各臓器の正常な機能を学習する。						
9 到達目標 各種の正常な数値の範囲を理解し、説明することができる。 恒常性とは何か、また恒常性はどのように維持されるのか、理解する。						
10 授 業 計 画						
第31回	内分泌	各時間で学ぶべきこと 内分泌の概念、ホルモンの種類				
第32回	内分泌	細胞内情報伝達系				
第33回	内分泌	ホルモンの分泌の調節、各種ホルモンの働き				
第34回	内分泌	生殖と生殖ホルモンの働き				
第35回	神経系の基礎	神経細胞の形態と機能、グリア細胞の分類と機能				
第36回	自律神経系	交感神経系と副交感神経系の分類と機能				
第37回	感覚	各種感覚器官の概説、視覚の構成成分と機能				
第38回	感覚	視覚の機能に関する実習、視野、半盲、眼底鏡検査				
第39回	感覚	聴覚、平衡感覚、体性感覚、味覚、嗅覚				
第40回	脳	中枢神経系の概説、大脳の形態と機能				
第41回	脳	小脳の形態と機能、大脳辺縁系、大脳基底核の形態と機能				
第42回	脳	睡眠と脳波				
第43回	筋収縮	筋収縮の機序				
第44回	運動の調節	不随運動の発生とその病態および治療				
第45回	まとめと試験					
11 学習方法 講義／演習						
12 評価方法 出欠席・小テスト						
13 教科書			参考書			
最新リハビリテーション基礎講座 生理学 医歯薬出版						
14 学生への要望 講義を聴いて不明な部分は、インターネットで調べるなり、医学事典を用いて調べ、自分なりのノートを作成すること。						

解剖生理学実習(前期)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	前期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	西井優子 (作業療法士)
8 授業概要						
<p>病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、骨・筋の触察に関する講義をします。学生が、対象者の身体に触れ評価・治療できるようにするために、解剖学的知識の習得とともに、生体に触れる経験を通して机上の知識を技術につなげることを目的とする。</p>						
9 到達目標						
<p>1年後期の関節可動域検査法、徒手筋力検査法、2年からの評価法、各治療学に必要な知識、技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体表面から骨を触知する技術を習得する。 2. 個々の筋肉が同定でき、その筋収縮を触知する技術を習得する。 3. 知識の習得・技術の向上に向けた真摯な取り組み、対象者への態度・身だしなみ・マナーを身につける。 						
10 授業計画						
第1回	シラバス説明 骨格標本の組み立て	各時間で学ぶべきこと 講義の内容についての説明を行う。骨格標本を用い、骨の形態及び連結について学ぶ。				
第2回	上肢の骨の触診(肩甲骨・肩関節)	肩甲骨・肩関節周辺におけるランドマークの触診技術を習得する。骨の動きと触診する位置に注意する。				
第3回	上肢の骨の触診(肘関節)	肘関節周辺におけるランドマークの触診技術を習得する。骨の動きと触診する位置に注意する。				
第4回	上肢の筋の触診(肩関節)	肩甲帯・肩関節周辺の筋について筋収縮の触診技術を習得する。筋の起始・停止、運動方向、触診位置に注意する。				
第5回	上肢の筋の触診(肘関節)	肘関節周辺の筋について筋収縮の触診技術を習得する。筋の起始・停止、運動方向、触診位置に注意する。				
第6回	上肢の骨の触診(手関節・手)	手関節周辺におけるランドマークの触診技術を習得する。骨の動きと触診する位置に注意する。				
第7回	上肢の筋の触診(手関節・手)	手関節周辺の筋について筋収縮の触診技術を習得する。筋の起始・停止、運動方向、触診位置に注意する。				
第8回	体幹の骨の触診	頭部・体幹におけるランドマークの触診技術を習得する。骨の動きと触診する位置に注意する。				
第9回	体幹の筋の触診	頭部・体幹周辺の筋について筋収縮の触診技術を習得する。筋の起始・停止、運動方向、触診位置に注意する。				
第10回	下肢の骨の触診(股関節)	股関節周辺におけるランドマークの触診技術を習得する。骨の動きと触診する位置に注意する。				
第11回	下肢の骨の触診(膝関節)	膝関節周辺におけるランドマークの触診技術を習得する。骨の動きと触診する位置に注意する。				
第12回	下肢の筋の触診(股関節)	股関節周辺の筋について筋収縮の触診技術を習得する。筋の起始・停止、運動方向、触診位置に注意する。				
第13回	下肢の筋の触診(膝関節)	膝関節の筋について筋収縮の触診技術を習得する。筋の起始・停止、運動方向、触診位置に注意する。				
第14回	下肢の骨の触診(足関節・足)	足関節・足趾周辺におけるランドマークの触診技術を習得する。骨の動きと触診する位置に注意する。				
第15回	下肢の筋の触診(足関節・足)	足関節・足趾の筋について筋収縮の触診技術を習得する。筋の起始・停止、運動方向、触診位置に注意する。				
11 学習方法						
説明を行ったうえで、学生同士で確認・練習を繰り返す、実技を主とする。						
12 評価方法						
出席状況・授業態度20%、レポート20%、実技試験60%とし、総合的に判定する。						
13 教科書						
参考書						
配布資料						
新・徒手筋力検査法 原著第10版						
14 学生への要望						
四肢が露出できる服装(Tシャツ、半パンなど)を準備してください。実技が中心の授業になります。繰り返し練習し、習得してください。						

解剖生理学実習(後期)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	倉本由加 (作業療法士)
<p>8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、骨・筋に関する講義をします。 学生が対象者の身体に触れ評価・治療できるようにするために、解剖学的知識の習得とともに、生体に触れる経験を通して机上の知識を技術につなげることを目的とする。</p>						
<p>9 到達目標 解剖生理学の基本知識を習得し、平面的な知識から立体的な知識の修得を目指す。</p>						
<p>10 授 業 計 画</p>				<p>各時間で学ぶべきこと</p>		
第1回	呼吸器系①	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (副鼻腔・咽頭・気管・肺・肺門など)				
第2回	呼吸器系②	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (副鼻腔・咽頭・気管・肺・肺門など)				
第3回	消化器系①	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (食道・胃・肝臓・胆嚢・膵臓・十二指腸・小腸・大腸・直腸など)				
第4回	消化器系②	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (食道・胃・肝臓・胆嚢・膵臓・十二指腸・小腸・大腸・直腸など)				
第5回	消化器系③	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (食道・胃・肝臓・胆嚢・膵臓・十二指腸・小腸・大腸・直腸など)				
第6回	腹膜	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (食道・胃・肝臓・胆嚢・膵臓・十二指腸・小腸・大腸・直腸など)				
第7回	泌尿器系	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (腎臓・尿管・膀胱・尿道など)				
第8回	生殖器系	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (精巣・精巣上体・精索・精巣・射精管、子宮・卵管・卵巣など)				
第9回	感覚器系①	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (眼球・内耳)				
第10回	感覚器系②	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (眼球・内耳)				
第11回	心血管系①	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (動脈系・静脈系・心臓の内部構造・胎児循環など)				
第12回	心血管系②	内蔵器の形状、人体における位置関係を確認する。 (動脈系・静脈系・心臓の内部構造・胎児循環など)				
第13回	中枢神経系①	脳の形状、人体における位置関係を確認する。 (大脳半球・間脳・脳幹・小脳など)				
第14回	中枢神経系②	脳の形状、人体における位置関係を確認する。 (大脳半球・間脳・脳幹・小脳など)				
第15回	中枢神経系③	脳の形状、人体における位置関係を確認する。 (中枢神経・末梢神経・自律神経など)				
<p>11 学習方法 講義/演習</p>						
<p>12 評価方法 出席状況、確認テスト、定期試験から総合的に評価</p>						
<p>13 教科書 「カラースケッチ解剖学」第4版 廣川書店 配布資料</p>				<p>参考書</p>		
<p>14 学生への要望 体の仕組みを理解する上で、解剖生理学は基本となる大切な科目です。 今後、各疾患について学ぶ上でこれらの科目の基礎となります。復習をしっかりとこなして下さい。</p>						

人間発達学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	西井優子 (作業療法士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、人間発達に関する講義をします。 学生が対象者に治療のかかわりができるようになるために、「人」として完成していく過程を知り、応用的に考えることができるようになることを目的とします。						
9 到達目標 2年生後期の臨床医学Ⅲ「小児科学」、作業療法治療学Ⅲ「小児の作業療法」に必要な基礎知識を学習する。 ①身体および精神機能の発達を胎生、新生児、乳幼児、児童期を通して学び、発達の連続性を理解する。 ②日常生活動作の獲得時期を動作ごとに知る。 ③小児の発達を横断的に理解しイメージをとらえることができる。(例:1歳の児がどの程度の発達状況か)						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	人間発達とは					
第2回	発達理論胎生期の発達			代表的な4つの発達理論について学ぶ 胎生期の発達について学ぶ		
第3回	新生児期・乳幼児期の発達① (姿勢反射・反応について)			姿勢反射・反応・原始反射について学ぶ		
第4回	新生児期・乳幼児期の発達② (運動発達について)			0～3か月の運動発達について学ぶ 4～6か月の運動発達について学ぶ		
第5回	新生児期・乳幼児期の発達③ (運動発達について)			7～9か月の運動発達について学ぶ 10～12か月の運動発達について学ぶ		
第6回	新生児期・乳幼児期の発達④ (運動発達について)			12～18か月の運動発達について学ぶ 姿勢反射反応と6歳までの発達		
第7回	復習					
第8回	新生児期・乳幼児期の発達⑤ (上肢機能の発達)			上肢機能・手指機能・協調運動について学ぶ		
第9回	新生児期・乳幼児期の発達⑥ 知覚・認知・言語・情緒・社会性の発達			情緒・社会性の発達について学ぶ		
第10回	新生児期・乳幼児期の発達⑦ 知覚・認知・言語・情緒・社会性の発達			情緒・社会性の発達について学ぶ		
第11回	新生児期・乳幼児期の発達⑧ (日常生活動作の獲得)			各機能の発達段階と日常生活動作の獲得を関連付けて理解する		
第12回	新生児期・乳幼児期の発達⑨ (日常生活動作の獲得)			各機能の発達段階と日常生活動作の獲得を関連付けて理解する		
第13回	学童期以降の発達発達課題			生涯発達の観点で人生をとらえ、発達課題について学ぶ		
第14回	発達障害			作業療法士の関わる代表的な小児疾患について、ここまでの授業内容と関連付けて紹介し、作業療法士の役割について考える。		
第15回	まとめ(1歳児について)					
11 学習方法 講義						
12 評価方法 出席状況・授業態度10%、毎時間の課題や小テストで90%とする。						
13 教科書				参考書		
『イラストで分かる人間発達学』 医歯薬出版 監修:上杉雅之						
14 学生への要望 各授業内容のつながりを理解しながら授業に臨んでください。						

運動学(前期)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	前期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	青木みゆき (作業療法士)
8 授業概要 病院で作業療法士として携わった経験を持つ教員が講義を行い、人間の身体運動について理解する。						
9 到達目標 関節・筋・神経の基礎的知識を学び、人間の身体運動(上肢の関節の運動、筋の作用)の知識を習得する。						
10 授業計画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	講義説明(運動学とは) 生体力学の基礎①		運動学授業の進め方を説明する。 身体運動の面と軸、基本肢位、体位と構えについて理解する。			
第2回	運動器の機能と構造①		骨の構造と機能を理解する。			
第3回	骨・関節・筋の構造と機能②		関節の構造と機能を理解する。			
第4回	骨・関節・筋の構造と機能②		筋の構造と機能を理解する。			
第5回	骨・関節・筋の構造と機能③		筋の構造と機能を理解する。			
第6回	神経系の構造と機能①		末梢神経系(体性神経・自律神経)及びシナプスについて理解する。			
第7回	神経系の構造と機能②		運動に関する中枢神経系の機構を理解する。			
第8回	反射		反射運動に関する種類、各反射の機序について理解する。			
第9回	感覚器の構造と機能		感覚の種類と伝導系を理解する。			
第10回	1～9回のまとめ(中間テスト)		生体の構造と機能をまとめ、理解度確認のためテストを実施する			
第11回	上肢帯と肩関節の運動		上肢帯と肩関節の骨格・関節・靭帯を理解する。			
第12回	上肢帯と肩関節の運動		上肢帯と肩関節の運動・作用する筋を理解する。			
第13回	肘関節と前腕の運動		肘関節と前腕の骨格・関節・靭帯・運動・作用する筋を理解する。			
第14回	手関節と手の運動		手関節と手の骨格・関節・靭帯を理解する。			
第15回	手関節と手の運動		手関節と手の運動・作用する筋を理解する。			
11 学習方法 講義、骨標本等利用						
12 評価方法 中間テスト・定期試験、出席状況により総合的に評価する。						
13 教科書				参考書		
『基礎運動学 第7版』医歯薬出版 必要に応じて資料を配布						
14 学生への要望 人の動きを理解する基礎となります。授業をしっかりと聞いて復習をしてください。						

運動学(後期)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	青木みゆき (作業療法士)
8 授業概要 病院で作業療法士として携わった経験を持つ教員が講義を行い、人間の身体運動について理解する。						
9 到達目標 人間の身体運動(下肢・体幹の関節の運動、筋の作用)の知識を習得する。また姿勢、歩行を含めた動作を理解する。						
10 授業計画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1回	上肢の運動のまとめ 下肢タイト股関節の運動			前期に行った上肢の運動についてまとめ、理解を確認する。 下肢帯と股関節の骨格・関節・靭帯を理解する。		
第2回	下肢帯と股関節の運動			下肢帯と股関節の運動・作用する筋を理解する。		
第3回	膝関節の運動			膝関節の骨格・関節・靭帯を理解する。		
第4回	膝関節の運動			膝関節の運動・作用する筋を理解する。		
第5回	足関節の運動			足関節の骨格・関節・靭帯を理解する。		
第6回	足関節の運動			足関節の運動・作用する筋を理解する。		
第7回	下肢の運動まとめ(中間テスト)			下肢の運動機能をまとめ、理解度確認のためテストを実施する。		
第8回	体幹の運動			脊柱の骨格、頸部の運動を理解する。		
第9回	体幹の運動			胸部の運動、呼吸の種類・筋活動を理解する。		
第10回	体幹・顔面の運動			腰部の運動及び顔面・頭部の運動を理解する。		
第11回	歩行			歩行周期・歩行の運動学的分析を理解する。		
第12回	歩行			歩行の筋活動分析・特殊な歩行・異常歩行を理解する。		
第13回	運動の制御・バランス制御			運動制御の概念・バランス制御について理解する。		
第14回	生体力学の基礎②			筋力と重力、身体とてこ、運動法則を理解する。		
第15回	運動学習			学習と記憶、運動技能、練習と訓練について理解する。		
11 学習方法 講義、骨標本等利用						
12 評価方法 中間テスト・定期試験、出席状況により総合的に評価する。						
13 教科書				参考書		
『基礎運動学 第7版』医歯薬出版 必要に応じて資料を配布						
14 学生への要望 人の動きを理解する基礎となります。授業をしっかりと聞いて復習をしてください。						

リハビリテーション医学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	2単位	30時間	必須	長尾亜紀子 (作業療法士)
8 授業概要 病院で作業療法士として携わった経験を持つ教員が講義します。						
9 到達目標 リハビリテーション医学の領域、治療の目的などの基礎について学び、主な対象疾患とリハビリテーション、生活支援について概説する。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	リハビリテーション医学の歴史		現代リハビリテーションへと発展してきた歴史的推移 リハビリテーション医療が求める目標			
第2回	リハビリテーション医学総論について学ぶ		日本でのリハビリテーション医療の総論			
第3回	医学的情報・ICF		心電図・画像診断・生理的検査など医学的情報を知る上での検査を理解する ICFの概要、コードを理解する			
第4回	リハビリテーション医療の計画と多職種連携		リハビリテーションを実施する上でのリスク管理について学ぶ			
第5回	PT・OT・STの違い		PT・OT・STの違いについて学ぶ			
第6回	義肢、装具、車いす、住環境と福祉用具・自助具		義肢・装具、福祉用具の種類について学ぶ			
第7回	ICUにおける早期離床・リハビリテーション		急性期、ICUにおけるリハビリテーションについて学ぶ			
第8回	心大血管疾患リハビリテーション		心大血管疾患を理解し、心大血管疾患に対するリハビリテーションを学ぶ			
第9回	呼吸器リハビリテーション		呼吸器疾患を理解し、呼吸器疾患に対するリハビリテーションを学ぶ			
第10回	廃用症候群のリハビリテーション		廃用症候群を理解し、廃用症候群に対するリハビリテーションを学ぶ			
第11回	糖尿病のリハビリテーション		糖尿病を理解し、糖尿病に対するリハビリテーションを学ぶ			
第12回	がん患者リハビリテーション		がんについて理解し、ガン患者に対するリハビリテーションを学ぶ			
第13回	まとめ		第1回から第12回までのまとめ			
第14回	レポート発表		調べ学習をしたものを発表する			
第15回	レポート発表		調べ学習をしたものを発表する			
11 学習方法 教科書と配布資料を中心に授業を行っていく。決められた項目に対して調べ、まとめ、人に伝える						
12 評価方法 中間テスト・定期試験・課題点・出欠席状況・授業態度から総合的な評価						
13 教科書			参考書			
リハビリテーション医学(MEDICAL VIEW)						
14 学生への要望 一年生では、大まかなリハビリテーションの医学について説明します。復習を必ずして授業に臨んで下さい。 教科書、配布した資料は自分で読みこなして理解するように心がけてください。						

病理学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	水津太
8 授業概要						
疾病の原因、病変の発現機序、それらの相互関係ないし因果関係を考察しつつ正しい疾病観と疾患の具体的概念について学ぶ。						
9 到達目標						
臨床現場における病理学の実情の理解と国家試験対策の準備を、合わせて年度終了までの目標とする。						
10 授 業 計 画						
第1回						
第1回～第10回 下記項目を順次行う。(教科書準拠)						
第2回 総論						
1. 病理学の領域						
第3回 2. 細胞・組織とその障害						
3. 再生と修復						
第4回 4. 循環障害						
5. 炎症						
第5回 6. 免疫とアレルギー						
7. 感染症						
第6回 8. 代謝異常						
9. 老化と老年病						
第7回 10. 新生児の病理						
11. 先天異常						
第8回 12. 腫瘍総論						
13. 生命の危機						
第9回 第11回～第15回 下記項目を順次行う。(教科書準拠)						
各論						
第10回 1. 循環器系 7. 腎・尿路系						
2. 呼吸器系 8. 生殖器系						
第11回 3. 歯・口腔系 9. 脳・神経系						
4. 消化器系 10. 運動器系						
第12回 5. 内分泌系 11. 感覚器系						
6. 造血器系						
第13回						
なお、可能であればいずれかの回に特別講義を入れる。						
第14回						
第15回						
11 学習方法						
講義						
12 評価方法						
出欠席・口頭発表・期末試験から総合的、立体的な評価						
13 教科書						
参考書						
配布資料						
カラーで学べる病理学 ニューヴェルヒロカワ						
14 学生への要望						
病理学は広い範囲を短時間で終わるを得ないため、必ず復習をする。可能なら予習もする。短時間でもよいから講義毎に必ずすることが必要。						

臨床医学 I (臨床心理学)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	網千代美 (臨床心理士)
8 授業概要 臨床心理学の基礎を学び、臨床現場での心理療法を学習する。 精神症状とその症状の背景のメカニズムを理解し、臨床心理的介入を学ぶ。						
9 到達目標 興味と関心を持って、国家試験対策に活かすことができる。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	知覚・認知			人間の環境からの情報処理の過程について学ぶ。		
第2回	記憶・思考・言語			記憶のメカニズム、思考過程、言語の発達について学ぶ		
第3回	社会・パーソナリティ			社会環境の認知の仕方、パーソナリティのとらえ方、テスト法を学ぶ。		
第4回	発達			人が生まれてから死にいたるまでの様々な心身の変化を理解する。		
第5回	臨床心理検査			臨床心理で使われているテストを紹介し、特徴及び解釈の仕方を学ぶ。		
第6回	神経症・不安障害			神経症から精神障害に映る根拠を理解する。 不安障害の種類を学ぶ。		
第7回	身体表現性障害・解離性障害			転換性障害のメカニズム、解離性障害の防御メカニズムを学ぶ。		
第8回	人格障害・摂食障害			パーソナリティ障害を学ぶ。拒食症と過食症の区別を学ぶ。		
第9回	統合失調症			統合失調症の概念の歴史、分類、予後を学ぶ。		
第10回	気分障害			気分障害の種類を知り、双極性障害とうつ病の違いを学ぶ。		
第11回	小児期の精神障害			知的障害・発達障害を学ぶ。		
第12回	老年期の精神障害			アルツハイマー型認知症と血管性認知症について学ぶ。		
第13回	力動精神療法			力動精神療法の概要を学ぶ。		
第14回	行動療法			行動療法の概要を学ぶ。		
第15回	カウンセリング			カウンセリングの概要を学ぶ。		
11 学習方法 講義						
12 評価方法 出欠席・期末試験						
13 教科書 臨床心理学 太田信夫 監修 北大路書房				参考書 図解雑学 臨床心理学 松原達哉 ナツメ社		
14 学生への要望 治療者としての臨床心理を身につけて、クライアントにはもちろんのこと、自分自身にも役立てて欲しい。						

臨床医学 I (精神医学)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	1学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	桜木章司(医師)
8 授業概要 リハビリテーションを行ううえで必要とされる精神科領域での疾病や障害について学ぶ。						
9 到達目標 リハビリテーションを行ううえで必要とされる精神科領域での疾病や障害に対する一般的理解を取得、理解を深める。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	精神医学概論(1)					
第2回	精神医学概論(2)		精神症状の現れ方、精神医学的面接			
第3回	診察と診断(1)		精神医学的診察(病歴聴取・現症把握)、身体的検査(脳波・画像検査・髄液検査・内科的諸検査)			
第4回	診察と診断(2)		心理・精神機能検査(知能検査・人格検査)			
第5回	精神症候学(1)		異常精神現象(知覚・思考・感情・意欲・自我・記憶・意識・見当識・知能・人格)			
第6回	精神症候学(2)		精神状態像(不安、恐怖、強迫、心気、神経衰弱、解離・転換、離人、うつ、躁、妄想)			
第7回	神経心理学(1)		失語、失行、失認			
第8回	神経心理学(2)		巣症状としての精神症状(前頭葉症候群、側頭葉症候群、頭頂葉症候群、後頭葉症候群)			
第9回	精神障害の原因、生物学、心理学に関する事項(1)		原因論(内因性、外因性、心因性)			
第10回	精神障害の原因、生物学、心理学に関する事項(2)		遺伝と精神医学			
第11回	精神障害の原因、生物学、心理学に関する事項(3)		精神現象の生物学的基礎(脳の局在機能、睡眠、生体リズム)			
第12回	精神障害の原因、生物学、心理学に関する事項(4)		心理学諸派と行動科学			
第13回	精神医学における疾病概念(1)		精神医学における疾病概念 疾患特性や関わり方について			
第14回	精神医学における疾病概念(2)		精神障害の分類(病院的分類、ICD、DSM)			
第15回	まとめ					
11 学習方法 講義						
12 評価方法 期末試験などを総合的に評価						
13 教科書 精神医学テキスト 改訂第4版 南江堂			参考書			
14 学生への要望 しっかりと講義を聞いて復習して下さい。						

リハビリテーション概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	1学年	前 期	2単位	30 時間	必修	松本嘉次郎 (作業療法士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、リハビリテーションの概念・理念・領域について学習する						
9 到達目標 リハビリテーションの社会における必要性を知る。 作業療法士・理学療法士・言語聴覚士の役割について理解する。						
10 授 業 計 画						
第1回	オリエンテーション リハビリテーションの理念の歴史の変遷			各時間で学ぶべきこと リハビリテーションの古代から近代までの流れをつかみ、リハビリテーションの理念とはどのように変化を遂げているのか理解する。		
第2回	リハビリテーションの理念の歴史の変遷			近代から現代、そして今後どのような形でリハビリテーションは変化していくのかを考える。		
第3回	ノーマライゼーション思想とIL運動			現代の思想につながった運動が、日本や世界のリハビリテーションの理念にどのような影響を及ぼしたかを学ぶ。		
第4回	リハビリテーションの考え方			リハビリテーションの基本となる考え方を知る。		
第5回	障害の意味と分類(ICF)			障害という意味を本質的に理解するようしていく。また、ICFとその考え方を学ぶ。		
第6回	障害別問題点の特徴(身体障害・知的障害)			各種障害により、日常生活の中でどのような問題が生ずるのかを理解する。(視覚障害、聴覚・音声・言語機能障害、内部障害)		
第7回	障害別問題点の特徴(精神障害・発達障害)			各種障害により、日常生活の中でどのような問題が生ずるのかを理解する。(精神障害、発達障害)		
第8回	老化による機能低下と廃用症候群			高齢者の生理学的な老いと廃用症候群、介護予防に関するリハビリテーションの必要性を理解する。		
第9回	リハビリテーションチームにおける各職種 の役割			リハビリテーション関連職種についての理解と役割について知る。		
第10回	予防とリハビリテーション			予防とリハビリテーションについての理解と役割を知る。		
第11回	リハビリテーションの領域 医学的、教育的リハビリテーション			リハビリテーションにおける各領域について理解する。		
第12回	リハビリテーションの領域 社会的、職業的リハビリテーション及び障害者ス ポーツについて			社会的・職業的リハビリテーションの領域を理解する。 障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。		
第13回	リハビリテーションの領域 社会的、職業的リハビリテーション及び障害者ス ポーツについて			社会的・職業的リハビリテーションの領域を理解する。 障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。		
第14回	地域包括ケアシステム			地域包括ケアシステムの概要について学ぶ。		
第15回	まとめ			全体のまとめを行う。		
11 学習方法 講義を中心に行い、グループワーク等も利用していく。						
12 評価方法 小テスト、レポート、定期試験を行い評価していく。						
13 教科書 配布資料			参考書			
14 学生への要望 入学しリハビリテーションを理解していく上で最も基本となる科目であるので、リハビリテーションの概要をしっかりと理解するようにしてください。						

作業療法概論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	大森大輔 (作業療法士)
8 授業概要 病院・施設等で作業療法士として経験を持つ教員が講義し、作業療法の発展してきた歴史や背景を知り、作業療法の概念や実践方法を学ぶ。						
9 到達目標 作業療法を、具体的により広い視点で理解する。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	作業・作業療法とは			作業療法にとっての”作業”の意味を理解する 作業療法の定義を理解する		
第2回	作業療法の適応範囲			作業療法の適応範囲を理解する 作業療法に関する法・制度・サービスを理解する		
第3回	専門職としての作業療法士			専門職としての作業療法士の備えるべき資質・適性と教育内容について理解する		
第4回	チームアプローチ			チームメンバーの役割とチームアプローチの大切さを理解する		
第5回	作業療法の歴史			作業療法の歴史を理解する		
第6回	作業療法の実際(身体機能分野)			身体機能分野における作業療法の概要を理解する		
第7回	作業療法の実際(精神機能分野)			精神機能分野における作業療法の概要を理解する		
第8回	作業療法の実際(発達過程分野)			発達過程分野における作業療法の概要を理解する		
第9回	作業療法の実際(高齢期分野)			高齢期分野における作業療法の概要を理解する		
第10回	作業療法の実際(地域分野)			地域分野における作業療法の概要を理解する		
第11回	作業療法の実際			高次脳機能・医療観察の作業療法、職業リハビリテーションの概要を理解する		
第12回	作業療法の周辺			作業量穂と関連する学問や職種について理解する		
第13回	作業療法の理論、モデル、ツール			身体・精神・発達など作業療法の理論とモデル・ツールについて理解する		
第14回	作業療法部門の管理及び研究法			職業倫理、記録と報告、診療報酬、リスク管理を学ぶ 研究の種類流れ倫理を理解する		
第15回	これからの作業療法			作業療法の現状と課題を理解する		
11 学習方法 講義 演習 グループワーク レポート提出						
12 評価方法 授業への参加状況・レポート・期末試験から総合的に評価						
13 教科書				参考書		
作業療法学ゴールドマスター 作業療法学概論 改訂第2版 MEDICAL VIEW 配布資料						
14 学生への要望 作業療法と作業療法士の基礎となる部分です。積極的に授業に臨むようにしてください。						

基礎研究方法論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	藤田和憲 山川公彦 (作業療法士)
8 授業概要 研究の重要性、研究の手法、実際、分析方法、論文作成、発表方法などを学習し、実際の研究内容を供覧すること、研究の意義の理解、的確な研究手法、論文作成、発表方法などを教授する。						
9 到達目標 研究手法・研究デザイン・分析方法など、研究に係る一連の手順とその方法が理解できる。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	オリエンテーション、研究の意義・方向性		研究の意義・将来展望を考える。			
第2回	研究の実際:実際の研究内容の供覧		実際の研究内容の復習			
第3回	統計的仮説検定の考え方		仮説設定, 有意水準, 棄却域			
第4回	統計的仮説検定 I・II		母平均の検定(両側検定、片側検定)			
第5回	統計的仮説検定 III・IV		t分布, 母平均の t 検定(両側検定、片側検定)			
第6回	統計的仮説検定 V・VI		カイ二乗分布, 適合度検定, 独立性の検定, 相関係数の検定			
第7回	分散分析 I・II		等分散の検定, 一元配置分散分析			
第8回	統計手法まとめ		各統計手法の再確認			
第9回	研究の必要性		職能団体としての位置づけ・役割と研究の必要性について理解する			
第10回	研究計画・準備・実施上のポイント		研究計画を理解する			
第11回	研究手法(質的・量的)		質的・量的研究の目的・着眼点について理解する			
第12回	研究デザインと証明水準		各研究デザインと証明水準について理解する			
第13回	データ処理の仕方		エクセルを用いたデータ処理及びグラフ作成の仕方を理解する			
第14回	評価尺度		名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比例尺度で使用できる統計について理解する			
第15回	発表・スライド作成・ポスター作成などの方法		発表の意義・手法の学習			
11 学習方法 講義						
12 評価方法 出欠席・期末試験からの総合的評価						
13 教科書 PT・OTのための臨床研究 はじめの一歩 羊土社			参考書 配布プリント			
14 学生への要望 作業療法の効果を示し社会的評価へとつなげるために、研究はますます重要になります。授業では、作業療法という専門職の研究・発展に必要な研究基礎知識を、量的研究と質的研究の両者から学びます。また、すでに発表された研究論文の読み方など研究の実際を学習します。						

基礎作業療法学実習 I (木工)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	中野昌万 (1級建築士)
8 授業概要						
<p>「木」は優れた性能を持っている上に入手しやすい素材です。木工品をつくるには、1「木」の性質や種類を知ること、2.道具の使い方を覚え「技術」を磨くこと、3.使いやすい「形」はどんなものかを考え表現すること、この3つの習得が必要です。授業では「木」「技術」「形(デザイン)」の概説をし、今後のリハビリや生活に役立つ木工品の作り方・選び方を学びます。</p>						
9 到達目標						
<p>1.「木」の性質や種類を知ることが出来る 2.道具の使い方を覚え「技術」を磨くことが出来る 3.使いやすい「形」はどんなものかを考え表現することが出来る</p>						
10 授 業 計 画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1回	リハビリ・生活と木工		リハビリや生活の中で使われる木工品を見て、なぜ「木」が使われているのか考察する。			
第2回	木工品をデザインする		人の五感に働きかける「木」の性能を知り、性能をうまく利用したリハビリ作品を考える。			
第3回	アイデアを「形」に表現する		アイデアスケッチから寸法を決める。作図例を参考に製図の読み方・描き方を学び、アイデアを作図する。			
第4回	材料と道具をそろえる		製作に必要な材料のそろえ方と、加工に必要な道具を調べ使い方を学ぶ。			
第5回	加工技術1:計測と墨付け		木工では「墨付け第一」と言われる。サンガネで正確に寸法を測り、木材に書き入れる技術を学ぶ。			
第6回	加工技術2:固定と切断		整った木工品を作るために、木材を寸法通りノコギリで切り取る技術を学ぶ。			
第7回	作品の墨付け		完成した作品を想像してパーツを「番付」し、「木表・木裏」を確認しながらサンガネ・ケビキなどで墨付けをする。			
第8回	加工技術3:穴掘り		ホゾ穴など、ノミやドリルを使って穴を掘る技術を学ぶ。釘や接着剤を使わない組み立てができるようになる。			
第9回	作品木材の切断・仮組み・修正		切断時の手順は正しいか確認しながら正確に切断する。パーツを揃えて仮組みし、不具合は修正する。			
第10回	加工技術4:仕上げ削り・面取り		平かんなを使って仕上げ削り、豆かんなを使って面取りをする技術を学ぶ。			
第11回	加工技術4:補足		かんなの調整方法を学ぶ。			
第12回	加工技術5:組み立て・仕上げ		加工した木材をきれいに組み立てる技術を学ぶ。			
第13回	加工技術6:塗装		「木」の性能を落とさない塗装の種類・方法を知る。			
第14回	作品の塗装		オイルフィニッシュの方法を学ぶ。			
第15回	まとめ		いままでの授業をふりかえり、木工品を使ったこれからのリハビリや生活での可能性について考察する。			
11 学習方法						
講義、実習作業						
12 評価方法						
授業態度、レポート、(実技)試験						
13 教科書						
授業態度、レポート、(実技)試験			参考書			
14 学生への要望						
<p>少し前まで木工品はあちこちで使われていましたが、最近はグッと減ってきました。しかし、木工の「木」の知識は、皆さんの健康や仕事のうえで一生役に立つことです。木工「技術」の習得には長い時間が必要で、この授業内では一部しかできません。が、いい木工品を見れば技術の深さがわかります。木工品の「形・デザイン」を考えることは、毎日の生活の中でこんなものが欲しいと思うことでいつでもできます。この授業で「木」に興味があれば、ひとつでも多くの木工品を使って下さい。</p>						

基礎作業療法学実習Ⅱ（陶芸）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	齊藤敏子
8 授業概要 ①作業療法における指導ができる能力を養う ②作業療法において心身共に相手と作る楽しさを学ぶ						
9 到達目標 陶芸の初歩的な技術、一般的な知識を習得できる。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	陶芸の歴史	陶芸産地の歴史と特徴を学ぶ。				
第2回	陶芸の使用道具	陶芸に使用する道具の名称を知り、使用方法を学ぶ。				
第3回	花瓶作り	ひも作りによって花瓶を作製する。片麻痺など疾患を想定し、片手動作での作り方を学ぶ。				
第4回	花瓶作り	知的障害を想定し、指導方法を考える。				
第5回	手まわしロクロ ぐい飲み作り	手まわしロクロの使用方法を学び、ぐい飲みを作製する。				
第6回	茶碗作り	手練りによって茶碗を作製する。片手動作にて行い、巧緻性向上の訓練方法を学ぶ。				
第7回	高台作り	作製した作品の高台を作る。				
第8回	コーヒーカップ、銘々皿作り	手練りによって行い、感覚障害へのアプローチについて学ぶ。				
第9回	電動ロクロ	土練り、菊練りの方法を学ぶ。				
第10回	電動ロクロ	土練り、菊練り、電動ロクロの使用にて、上肢機能訓練について考える。				
第11回	窯入れ	素焼き、本焼き時の窯の取り扱い方法を学ぶ。				
第12回	絵付け	筆を用い作品に絵付けを行う。作品を作りながらADL訓練について考える。				
第13回	釉薬付け	釉薬の種類について学ぶ。				
第14回	釉薬付け	釉薬の付け方を学ぶ。				
第15回	まとめ（反省会）	作業療法に陶芸を取り入れたらどのように配慮するかを検討する。				
11 学習方法 講義／実習／グループワーク						
12 評価方法 出欠席・期末試験・作品の数						
13 教科書 『やきものをつくる』				参考書		
14 学生への要望 陶芸技術を少しでも多く学びとってもらえること。そして、それを作業療法に楽しく生かせるようになること。						

基礎作業学実習Ⅲ(Activity)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	1学年	前期	1単位	30時間	必修	長尾亜紀子 西井優子 (作業療法士)
8 授業概要						
<p>病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、基本的な治療的作業に関する講義をします。 作業活動の治療的応用の可能性について理解するために、学生が実際に各種作業活動を体験し、作業分析の視点を持てるようにすることを目的とします。</p>						
9 到達目標						
<p>代表的な作業活動に対し、一般作業分析を行う。また、各作業技術を身につけ、対象者に応じて工夫することができる。</p> <p>①代表的な作業活動を体験する。 ②使用する道具の名称や材料・行程を知る。 ③作業活動の身体的・精神的作用について考える。</p>						
10 授 業 計 画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1回	一般的作業分析②	作業紹介(手工芸・他)	□	実際の作業活動を通じて、一般的作業分析を行う。 各作業の一般的特性を学ぶ。		
第2回	一般的作業分析②	作業紹介(手工芸・他)	□	実際の作業活動を通じて、一般的作業分析を行う。 各作業の一般的特性を学ぶ。		
第3回	作業実習(手工芸・他) 班に分かれ各作業順次実施			各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第4回	作業実習(手工芸・他)		□	各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第5回	作業実習(手工芸・他)			各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第6回	作業実習(手工芸・他)			各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第7回	作業実習(手工芸・他)			各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第8回	作業実習(手工芸・他)			各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第9回	作業実習(手工芸・他)			各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第10回	作業実習(手工芸・他)			各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第11回	作業実習(手工芸・他)			各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第12回	作業実習(手工芸・他)			各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第13回	作業実習(手工芸・他)			各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第14回	作業実習(手工芸・他)			各作業の使用道具・作業過程・注意事項確認しながら実践		
第15回	まとめ			各作業のうち1つを一般的作業分析を用い作業分析行う。		
11 学習方法						
講義／演習／グループワーク						
12 評価方法						
課題(作品・レポート)を主として、出席・授業態度などを加味し、総合的評価を行う。						
13 教科書						
『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 2 作業学』 MEDICAL VIEW				参考書		
14 学生への要望						
自ら経験を通して、指導方法や活動の工夫の仕方等を考えながら取り組んでください。						

関節可動域検査法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	山川公彦 (作業療法士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、関節可動域測定の方法について講義をします。 関節可動域検査法についての基礎的知識と基本的手技を主として学習する。						
9 到達目標 基本軸・移動軸・参考角度を理解し、健康人同士で基本的手技を実施できる。評価・測定する上で、対象者への配慮ができる。						
10 授 業 計 画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1回	関節可動域測定とは(関節とは)		関節の構造と機能、関節の障害について理解する。			
第2回	関節可動域検査法総論 (目的・検査のポイント・留意点)		関節可動域測定の意義について理解する。 身体の面と運動の軸、基本的肢位・測定上の注意点を理解する。			
第3回	関節可動域測定法(肩関節)		肩関節の解剖・運動学知識を学び、関節可動域測定法を学ぶ。			
第4回	関節可動域測定法(肩関節)		肩関節の解剖・運動学知識を学び、関節可動域測定法を学ぶ。			
第5回	関節可動域測定法(肩関節・肘関節)		肩関節・肘関節の解剖・運動学知識を学び、関節可動域測定法を学ぶ。			
第6回	関節可動域測定法(手関節・手指)		手指・指節間関節の解剖・運動学知識を学び、関節可動域測定法を学ぶ。			
第7回	関節可動域測定法(手指)		指節間関節の解剖・運動学知識を学び、関節可動域測定法を学ぶ。			
第8回	関節可動域測定法(股関節)		股関節の解剖・運動学知識を学び、関節可動域測定法を学ぶ。			
第9回	関節可動域測定法(膝関節・足関節)		膝関節・足関節の解剖・運動学知識を学び、関節可動域測定法を学ぶ。			
第10回	中間テスト		上肢・下肢の関節可動域測定確認実技テストを行う。			
第11回	関節可動域測定法(肩甲帯)		肩甲帯の解剖・運動学知識を学び、関節可動域測定法を学ぶ。			
第12回	関節可動域測定法(頸部)		頸部の解剖・運動学知識を学び、関節可動域測定法を学ぶ。			
第13回	関節可動域測定法(体幹)		体幹の解剖・運動学知識を学び、関節可動域測定法を学ぶ。			
第14回	関節可動域訓練の実際		関節可動域訓練に用いる運動を学び、その効果や目的を理解する。			
第15回	まとめ		後期授業の重要なポイントを理解する。			
11 学習方法 教科書、資料で関節の解剖・運動学的知識を養う。 関節可動域測定は、学生同士で演習を行い測定方法を身につける						
12 評価方法 中間試験・定期試験結果及び授業態度、出欠状況から総合的評価を行う。						
13 教科書 参考書 『PT・OTのための測定評価 ROM測定 第2版』三輪書店 『基礎運動学 第6版』医歯薬出版株式会社 配布資料						
14 学生への要望 人体の構造を予習して授業に臨み、学生間で復習をして確実に身につけてください。						

徒手筋力検査法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	磯谷晃一 (作業療法士)
8 授業概要						
<p>病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、作業療法に必要な検査及び測定等を指導します。 作業療法評価法の1つである徒手筋力検査法の基本的考え方と知識・手技を学ぶ。</p>						
9 到達目標						
<p>徒手筋力検査法の基本的考え方と知識・手技を学ぶことができる 判定基準を用い、測定した結果から各筋の筋力を判定できる。</p>						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	オリエンテーション、徒手筋力検査法の原理		手技の外観、筋力テスト段階を定める基準について理解する。			
第2回	頸筋・体幹筋の検査方法		頸筋・体幹筋の起始、付着、神経支配、運動方向について理解し、代償動作を含めた検査方法について学ぶ。			
第3回	肩甲帯・肩関節の検査方法		肩甲骨の動きについて復習する。肩甲帯周囲の起始、付着、神経支配、運動方向について理解し、代償動作を含めた検査方法について学ぶ。			
第4回	肩甲帯・肩関節の検査方法		肩関節周囲筋の起始、付着、神経支配、運動方向について理解し、代償動作を含めた検査方法について学ぶ。			
第5回	肘関節・前腕・手関節の検査方法		肘関節周囲筋の起始、付着、神経支配、運動方向について理解し、代償動作を含めた検査方法について学ぶ。			
第6回	肘関節・前腕・手関節の検査方法		前腕部・手関節周囲筋の起始、付着、神経支配、運動方向について理解し、代償動作を含めた検査方法について学ぶ。			
第7回	手指の検査方法		手指の機能解剖について復習する。手指筋の起始、付着、神経支配、運動方向について理解し、代償動作を含めた検査方法について学ぶ。			
第8回	手指の検査方法		手指筋の起始、付着、神経支配、運動方向について理解し、代償動作を含めた検査方法について学ぶ。			
第9回	中間のまとめ		前半の範囲を実技を含めて復習する。			
第10回	股関節の検査方法		股関節周囲筋の起始、付着、神経支配、運動方向について理解し、代償動作を含めた検査方法について学ぶ。			
第11回	股関節の検査方法		股関節周囲筋の起始、付着、神経支配、運動方向について理解し、代償動作を含めた検査方法について学ぶ。			
第12回	膝・足関節の検査方法		膝関節の機能解剖について復習する。膝関節周囲筋の起始、付着、神経支配、運動方向について理解し、検査方法について学ぶ。			
第13回	膝・足関節の検査方法		膝関節周囲筋の起始、付着、神経支配、運動方向について理解し、代償動作を含めた検査方法について学ぶ。			
第14回	脳神経支配の検査方法		臨床にて頻度が高い検査方法について学ぶ。			
第15回	まとめ		後半の範囲を実技を含めて復習する。			
11 学習方法						
講義・演習						
12 評価方法						
講義、小テスト、出席状況、授業態度						
13 教科書						
『新・徒手筋力検査法 第8版』 協同医書出版社			参考書			
14 学生への要望						
筋の起始、付着及び支配神経を必ず覚えるようにしてください。また、この授業では講義が中心に行いますが、評価学実習の授業と関連させた理解が必要です。しっかり学生同士で練習をして技術の取得をして下さい。						

レクリエーション I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門関連分野	1学年	後期	1単位	30時間	必修	作業療法学科教員 (作業療法士)
8 授業概要 1、2年生で小グループを作り、協力して清掃、ボランティア活動、体力測定、健康関係のレクリエーションなどを行い、実施内容について報告書を提出する。						
9 到達目標 清掃、ボランティア活動、体力測定、健康関係のレクリエーションなどを実施し、報告書を提出できる。						
10 授 業 計 画						
第1回	オリエンテーション(レクリエーション活動の意義、今後の予定説明)					
第2回	活動内容の検討及び予定案作成					
第3回	レクリエーション支援のプログラム立案					
第4回	レクリエーション支援のプログラム立案					
第5回	準備及び練習					
第6回	準備及び練習					
第7回	準備及び練習					
第8回	準備及び練習					
第9回	準備及び練習					
第10回	計画内容の実践					
第11回	計画内容の実践					
第12回	計画内容の実践					
第13回	実施内容についてのレポート作成					
第14回	実施内容についてのレポート作成					
第15回	実施内容についてのレポート作成・提出					
11 学習方法 演習/グループワーク						
12 評価方法 取り組み姿勢・実施内容・レポート内容からの全体評価を中心とするが、個別評価も含めて総合的に評価する。						
13 教科書 参考書						
14 学生への要望 小グループでの活動になりますので、他の班員のことを考えた行動をしてください。 実施先の迷惑にならないような活動を行うこと。						

運動学演習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	西井優子 (作業療法士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、人間の身体運動に関する講義をします。						
9 到達目標 運動学及びバイオメカニクスの基本的考え方を演習を通して理解する。 人の動作・行為について運動学やバイオメカニクスの知識を応用できるよう学習する。						
10 授 業 計 画						
第1回	バイオメカニクス	各時間で学ぶべきこと 授業の進め方の説明。 運動学とバイオメカニクスの定義				
第2回	バイオメカニクス	日常及び筋骨格系の動き・重心・ベクトル・てこについて演習形式で学習する。				
第3回	上肢帯及び上肢の解剖と運動	肩甲骨・肩・肘・手の運動のバイオメカニクスの視点を学習する。				
第4回	上肢帯及び上肢の運動実習	肩甲骨・肩・肘の運動のバイオメカニクスの視点を演習形式で学習する。				
第5回	手の解剖と運動、運動実習	手の運動のバイオメカニクスの視点を演習形式で学習する。				
第6回	下肢帯及び下肢の解剖と運動	骨盤・股関節・膝関節・足関節のバイオメカニクスの視点を学習する。				
第7回	下肢帯及び下肢の運動実習	骨盤・股関節・膝関節・足関節のバイオメカニクスの視点を演習形式で学習する。				
第8回	姿勢に関する実習	アライメントのチェック方法				
第9回	姿勢に関する実習	運動力学からみた姿勢制御、バランス、姿勢制御機構				
第10回	歩行に関する実習	正常歩行、異常歩行				
第11回	上肢・手の動作	リーチ・グリップ・リリースの運動機能について演習形式で学習する。				
第12回	日常生活動作の分析①	食事動作の運動機能について演習形式で学習する				
第13回	日常生活動作の分析②	更衣動作の運動機能について演習形式で学習する				
第14回	日常生活動作の分析③	トイレ動作の運動機能について演習形式で学習する				
第15回	まとめ					
11 学習方法 講義、実習						
12 評価方法 課題・レポート50%、定期試験40%、出席状況・授業態度など10%として、総合的に判定する。						
13 教科書 『基礎運動学第6版』 医歯薬出版株式会社						
14 学生への要望 演習にて身体の動きを体感していきます。積極的に動いて身体で覚えていきましょう。						

運動生理学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	前期	1単位	30時間	必須	宮本賢作
8 授業概要 作業療法を実施するにあたり運動や身体活動が身体に及ぼす影響や効果について十分に理解する必要がある。						
9 到達目標 運動や身体活動と器官の働きについて、また健康と体力についても学習する。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	運動と体力①			体力の定義、行動体力の構成、防衛体力の構成		
第2回	運動と体力②			健康と体力、健康に関連する体力要素		
第3回	運動と呼吸①			呼吸のメカニズム、肺の構造と機能、運動と外呼吸		
第4回	運動と呼吸②			運動と換気、肺におけるガス交換、ガスの運搬と内呼吸、呼吸の調節		
第5回	運動と循環①			心臓の機能、運動と心拍出量、心拍出量と酸素摂取量、運動と心拍数		
第6回	運動と循環②			血液循環、運動と血流再配分、動静脈酸素較差、血圧		
第7回	運動と筋肉①			筋肉の種類、骨格筋の構造、骨格筋の機能、筋収縮のメカニズム、筋力と筋パワー		
第8回	運動と筋肉②			筋線維の種類、筋力の調節、筋収縮のエネルギー		
第9回	運動と筋肉③			トレーニングと骨格筋		
第10回	運動と神経①			神経系の分類、神経機能の構造と機能、中枢神経系の構造と機能		
第11回	運動と神経②			末梢神経系の構造と機能、神経系による運動の調節		
第12回	運動と代謝①			運動と酸素、糖質代謝、脂質代謝、TCAサイクル		
第13回	運動と代謝②			呼吸商、エネルギー代謝、基礎代謝、安静時代謝、運動時代謝		
第14回	運動と環境			運動と体温、運動と気圧、水中運動		
第15回	運動とトレーニング			トレーニングの理論と原則		
11 学習方法 講義／ビデオ						
12 評価方法 出欠席・試験						
13 教科書 リハビリテーション運動生理学 メディカルビュー社				参考書 「運動生理学概論」石井・宮下 他 著 大修館		
14 学生への要望 学習効果を上げるためにも予習をして授業に望むこと。						

臨床医学Ⅱ（外科学）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	前期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	高橋謙一 中山直樹
8 授業概要 病院での理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、外科学に関する講義をします。 外科領域で重要なショックへの対応、麻酔と手術法の基本について学習する。臨床に必要な外科学の基礎と外傷、感染性疾患、炎症性疾患、腫瘍性疾患、代謝性疾患、神経学的疾患の病態とその治療について学ぶ。						
9 到達目標 外科的疾患の治療におけるリハビリテーションの重要性について理解を深める。						
10 授業計画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	外科学授業の概要	病歴聴取、視診、触診、四肢計測法について学ぶ。				
第2回	外傷総論	外科的損傷への対応、バイタルサインの判定、出血量の判定法と止血方法を学ぶ。				
第3回	創傷の処置、熱傷の治療	創傷の種類、治療過程、合併症、熱傷の深度分類とその症状、治療を学ぶ。				
第4回	輸血、輸液	輸血、不適合輸血、輸液、輸液ルート、その際の注意点について学ぶ。				
第5回	外科的治療法	麻酔の種類と合併症、各種外科的治療について学ぶ。				
第6回	消化器疾患(1)	消化器の症状、腹痛とその他の症状、栄養管理について学ぶ。				
第7回	消化器疾患(2)	肝疾患、膵疾患、イレウス、腹部外傷について学ぶ。				
第8回	消化器疾患(3)	胃疾患、十二指腸疾患の症状、治療について学ぶ。また消化器疾患の復習を行う。				
第9回	肺・胸郭疾患	肺・胸郭疾患などの特徴と治療について学ぶ。				
第10回	心臓・脈管	心臓・脈管などの特徴と治療について学ぶ。				
第11回	意識障害	意識障害などの特徴と治療について学ぶ。				
第12回	脳神経	脳神経などの特徴と治療について学ぶ。				
第13回	骨軟部腫瘍	骨軟部腫瘍などの特徴と治療について学ぶ。				
第14回	骨疾患	骨疾患などの特徴と治療について学ぶ。				
第15回	まとめ	前期授業の重要なポイントについて理解する。				
11 学習方法 教科書、資料、スライドなどで理解を深める。						
12 評価方法 出欠席・中間試験・定期試験から総合的評価を行なう。						
13 教科書 標準整形外科学 医学書院				参考書		
14 学生への要望 まず、一般外科的な創傷、熱傷、ショックなどへの対応、麻酔・手術の基本的知識を学ぶ。その上で消化器障害、循環障害、感染症、腫瘍、外傷の総論を学ぶ。外科学領域は急性期のリハビリテーションの現場での関連が非常に高いのでその病態と治療法に関しては十分に勉強していただきたい。						

臨床医学Ⅱ（整形外科学）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	川上翔平 (理学療法士)
8 授業概要 前期に学習した内容を理解した上に、脊柱・四肢各部位の先天奇形、中枢神経系疾患、感染症、炎症性疾患、代謝性疾患、腫瘍性疾患、外傷などの病態とその治療について学習する。						
9 到達目標 運動器疾患の治療にリハビリテーションが果たす役割について理解する。						
10 授 業 計 画						
第1回	運動器の先天性疾患	各時間で学ぶべきこと 全身骨格の形態と構造の先天性異常、このような疾患の整形外科的治療について学ぶ。				
第2回	関節の退行性疾患、特発性骨壊死症	変形性関節症、特発性大腿骨頭壊死症、ペルテス病などの病態と治療について学ぶ。				
第3回	脊椎脊髄疾患総論	脊椎脊髄の先天奇形、外傷、炎症、腫瘍などの特徴と治療について学ぶ。				
第4回	頸部疾患	頸椎椎間板ヘルニア、変形性頸椎症、後縦靭帯骨化症などの特徴と治療について学ぶ。				
第5回	腰部疾患	腰痛症の原因、その予防と治療、腰部椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の病態と治療について学ぶ。				
第6回	末梢神経損傷	末梢神経損傷と絞扼性神経障害の症状、治療法について学ぶ。				
第7回	まとめ1	脊髄・末梢神経について復習を行う。				
第8回	肩関節疾患	胸郭出口症候群、肩関節外傷、腱板損傷、肩関節脱臼、肩関節周囲炎などの特徴と治療について学ぶ。				
第9回	肘関節疾患	外反肘、内反肘、上腕骨外側上顆炎、肘内障などの特徴と治療について学ぶ。				
第10回	手指の疾患	手の先天異常、手指の変形、橈骨神経麻痺、尺骨神経麻痺、正中神経麻痺などの特徴と治療について学ぶ。				
第11回	まとめ2	上肢疾患について復習を行う。				
第12回	股関節疾患	先天性股関節脱臼、乳児股関節炎、ペルテス病、変形性股関節症、大腿骨頭壊死などの特徴と治療について学ぶ。				
第13回	膝関節疾患	内反膝、外反膝、反張膝、変形性膝関節症、半月板損傷、靭帯損傷、膝蓋骨脱臼の特徴と治療について学ぶ。				
第14回	足関節疾患	内反足、外反足、扁平足、外反母趾、骨端症などの特徴と治療について学ぶ。				
第15回	まとめ 3	下肢疾患について復習を行う。				
11 学習方法 教科書、資料、スライドなどを用いた講義 2回目の授業からは前回の授業の重要な点を復習する。まとめ1、2、3では、演習問題を行う。						
12 評価方法 出欠席・定期試験から総合的な評価を行う。						
13 教科書 標準整形外科学 医学書院			参考書			
14 学生への要望 整形外科学に関連する疾患はリハビリテーションの現場で頻度が非常に高いのでその病態と治療法に関しては十分に勉強していただきたい。後期は脊柱、四肢の部位別に重要な疾患について学習するので前期の総論的な知識を応用して学習してもらいたい。						

臨床医学Ⅲ(内科学)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	前期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	細川等(医師)
8 授業概要 幅広い内科学を具体的な症例を参考にして、疾患概念、病態、治療及び予後について学ぶ。 疾患を中心に幅広く学習しながら、診断的手技や、PT・OTが担当する疾患についても学ぶ。						
9 到達目標 疾患に対する治療及び予後を理解する。 疾患を中心に幅広く学習しながら、診断的手技や、PT・OTが担当する疾患について理解する。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	循環器疾患(1)	心臓血管系の構造と機能。循環器疾患の分類と原因について。				
第2回	循環器疾患(2)	循環器疾患の診断法、検査法、治療法。				
第3回	呼吸器疾患(1)	呼吸器系の構造と機能。呼吸器疾患の臨床症状とその病態生理。				
第4回	呼吸器疾患(2)	呼吸機能の検査法。主要呼吸器疾患の病態、検査法、治療。				
第5回	消化器疾患(1)	消化管の構造と機能。消化管疾患の症候とその臨床的意義。				
第6回	消化器疾患(2)	消化管疾患の診断法。各種消化管疾患の概念、病態、症状および治療法。				
第7回	肝胆膵疾患(1)	肝胆道系、膵臓の機能とその生理学的意義。肝胆膵疾患の症状と病態生理。				
第8回	肝胆膵疾患(2)	肝胆膵疾患の検査法とその意義。主な肝胆膵疾患の概念、病態、症状および治療。				
第9回	血液・造血器疾患(1)	血液の成分、性状、機能、造血組織の解剖と生理。血液造血器疾患の症候の理解。				
第10回	血液・造血器疾患(2)	血液疾患の検査法。代表的な血液疾患の概念、病態、治療と予後。				
第11回	代謝性疾患	糖代謝、脂質代謝、蛋白質代謝、ビタミンとビタミン欠乏症				
第12回	内分泌疾患	内分泌器官の理解とホルモンの機能。各種内分泌疾患の概念、病態、症状、治療法。				
第13回	腎・泌尿器疾患	腎臓の生理学的機能。検査法、各腎疾患の概念、病態、症状、治療法。				
第14回	膠原病、アレルギー疾患、免疫不全 免疫の理解	アレルギー膠原病の概念、各疾患の症状、治療法。				
第15回	感染症、中毒および環境要因による疾患 感染症の成立機転	細菌感染、寄生虫疾患の理解。				
11 学習方法 講義・レポート						
12 評価方法 出欠席・レポート・期末試験から総合的な評価						
13 教科書 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(医学書院)				参考書		
14 学生への要望 授業予定内容については、学習効果を上げるためにも予習をして授業に臨むこと。						

臨床医学Ⅲ(小児科学)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	池内優仁(医師)
8 授業概要 理学療法士、作業療法士が関わるが多い小児疾患を中心に学びます。						
9 到達目標 子どもと大人の違いが分かる。 小児疾患についての理解を深めることができる。 小児疾患に興味を持てるようにする。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	小児科学概論Ⅰ	成育医療、小児の成長・発達				
第2回	小児科学概論Ⅱ	小児の栄養、保健、新生児マススクリーニング、予防接種				
第3回	小児疾患の診断と治療	小児の検査法、治療法、子どもとくすり、水分補給、子どもの救急医療				
第4回	新生児・未熟児疾患Ⅰ	周産期に関する用語、出生時の評価、新生児仮死、アプガースコア、新生児黄疸、核黄疸				
第5回	新生児・未熟児疾患Ⅱ	低出生体重児、呼吸窮迫症候群、脳室周囲白質軟化症、頭蓋内出血、未熟児網膜症				
第6回	先天異常と遺伝病Ⅰ	遺伝子、常染色体優性遺伝、常染色体性劣性遺伝、染色体				
第7回	先天異常と遺伝病Ⅱ	染色体異常、21トリソミー、18トリソミー、ターナー症候群、心奇形、CATCH22、先天代謝異常症、フェニルケトン尿症				
第8回	神経・筋・骨疾患Ⅰ	脳の先天奇形、脳性麻痺、てんかん、精神遅滞、発達遅滞				
第9回	神経・筋・骨疾患Ⅱ	進行性筋ジストロフィー、重症筋無力症、発育性股関節脱臼、骨形成不全症				
第10回	循環器疾患	先天性心疾患、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、チアノーゼ、ファロー四徴症				
第11回	呼吸器疾患	上気道炎、気管支炎、肺炎、酸素療法、人工換気療法				
第12回	感染症	麻疹、風しん、溶連菌感染症、百日咳、結核、無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、インフルエンザ脳症				
第13回	消化器、内分泌疾患	腸重積症、ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症、O-157感染、B型肝炎、クレチン症、1型糖尿病				
第14回	その他の小児疾患Ⅰ	血液の成分、貧血、白血病、アレルギー、自己免疫疾患、川崎病				
第15回	その他の小児疾患Ⅱ	急性腎炎、腎不全、神経芽細胞腫、網膜芽細胞腫、心身症、重症心身障害児、子どもの目と耳の異常				
11 学習方法 教科書、資料を使って講義						
12 評価方法 試験、受講態度						
13 教科書 標準理学療法学・作業療法学 小児科学				参考書		
14 学生への要望 しっかりと講義を聞いて復習して下さい。						

臨床医学Ⅳ(脳神経外科学)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	外部講師(医師)
8 授業概要 リハビリテーションの対象として、脳神経外科疾患の頻度は高い。実際の臨床例も交えながら、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などについて学ぶ。						
9 到達目標 リハビリテーションスタッフに必要な脳神経外科の知識を整理・習得する。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	診察・診断	医療面接、神経系の診察、				
第2回	主要症候	意識障害、頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア、脳浮腫、頭痛、けいれん				
第3回	検査	単純X線、CT、MRI、血管撮影				
第4回	治療	インフォームドコンセント、薬物療法、手術治療、血管内治療、放射線治療、リハビリテーション				
第5回	脳腫瘍	総論、神経膠腫、髄膜腫、下垂体腺腫、聴神経腫瘍、頭蓋咽頭腫				
第6回	脳血管障害1	くも膜下出血				
第7回	脳血管障害2	脳内出血 脳虚血性脳血管障害				
第8回	脳血管障害3	もやもや病、脳静脈洞血栓症、リハビリテーション				
第9回	頭部外傷	分類、発生機序、診断、治療、				
第10回	先天奇形	神経管閉鎖不全、大脳の奇形、後頭蓋窩の奇形、頭蓋縫合早期癒合症				
第11回	水頭症	水頭症総論、小児水頭症				
第12回	炎症性疾患	脳膿瘍、硬膜下膿瘍、硬膜外膿瘍				
第13回	機能的外科	難治性疼痛、不随意運動				
第14回	脊椎・脊髄疾患	脊椎・椎間板障害、脊髄腫瘍、脊椎・脊髄損傷				
第15回	末梢神経の外科	末梢神経損傷、絞扼性神経障害、胸郭出口症候群				
11 学習方法 講義						
12 評価方法 小テストと定期試験にて行う。						
13 教科書 講義当日に資料を配布する。				参考書		
14 学生への要望 難しい分野ですが、PT・OTが脳神経外科疾患に関わる頻度は高いです。この機会にしっかりと学習してください。						

臨床医学Ⅳ(神経内科学)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	國重誠(医師)
8 授業概要 神経内科学のうち、理学療法・作業療法を学ぶ学生に必要な性の高い項目を学ぶ。						
9 到達目標 神経内科学領域の医学用語・略語を理解、説明できる。理学・作業療法に必要な神経・筋の機能的解剖学、主要な神経・筋疾患の病態を理解する。神経内科学的検査所見、診断と治療、リハビリテーション・介護方針を理解し、適切な理学・作業療法の施術ができる						
10 授 業 計 画						
第1回	講師自己紹介。神経内科総論；神経内科は精神科やメンタルヘルス科、心療内科とは違います。神経系の構造と機能；全体像、ニューロンとグリア、大脳、間脳、脳幹、小脳、脳動脈系。					
第2回	脳血管障害；脳梗塞、アテローム血栓性、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、一過性脳虚血発作(TIA)、頸動脈狭窄症、脳幹・小脳梗塞。					
第3回	脳出血；被殻、視床、橋、小脳、皮質下出血。脳動脈瘤。クモ膜下出血。脳動静脈奇形(AVM)。もやもや病(Willis動脈輪閉塞症)。					
第4回	頭蓋内圧亢進、うっ血乳頭、脳浮腫、脳ヘルニア。高次脳機能障害、Broca失語、Wernicke失語。脳静脈系。内頸動脈海綿静脈洞ろう。脳静脈洞血栓症。脳脊髄液。水頭症。正常圧水頭症(NPH)。脳卒中予防10カ条、克服10カ条					
第5回	運動と感覚の伝導路、錐体路、痙性麻痺、弛緩性麻痺、筋萎縮、線維束性収縮、腱反射、Babinski徴候。錐体外路症状；不随意運動DVDビデオ供覧(振戦、ミオクローヌス、舞蹈運動、バリスム、アテトーシス、ジストニア)。表在感覚、深部感覚。自律神経系(交感神経、副交感神経)。Horner症候群。起立性低血圧。神経因性膀胱。					
第6回	12の脳神経(嗅いで見る動く車の三つの外、顔で聞いて舌で迷って副、舌下)。三叉神経痛。顔面神経麻痺。内科的診察、とくに神経内科的診察法のDVDビデオ供覧。					
第7回	脊髄。末梢神経系。脱髄性疾患；多発性硬化症。急性散在性脳脊髄炎(ADEM)。橋中心髄鞘崩壊症(CPM)。					
第8回	運動ニューロン病(筋萎縮性側索硬化症(ALS)。脊髄性筋萎縮症(SMA)。球脊髄性筋萎縮症(BSMA、KAS))。良性限局性筋萎縮症。ALSの病状から介護までのビデオ供覧					
第9回	パーキンソン病(Parkinson disease; PD)。パーキンソン症候群。ハンチントン病(Huntington disease; HD)。					
第10回	パーキンソン病の症候、リハビリのためのパーキンソン体操のDVDビデオ供覧					
第11回	脊髄小脳変性症(SCD)、多系統萎縮症(MSA)；オリブ橋小脳萎縮症(OPCA)遺伝性、線状体黒質変性症(SND)、Shy-Drager症候群(SDS)。皮質性小脳萎縮症(CCA)。Machado-Joseph病(MJD; SCA3)。進行性麻痺(PSP)。亜急性脊髄連合変性症					
第12回	筋ジストロフィー(Duchenne型(DMD)、Becker型(BMD))。肢帯型(LGMD)、顔面肩甲上腕型(FSH)。筋強直性ジストロフィー(MyD)。ミトコンドリア脳筋症(CPEO、KSS)。周期性四肢麻痺。重症筋無力症(MG)。Lambert-Eaton筋無力様症候群(LEMS)。傍腫瘍性(神経)症候群。Guillain-Barre症候群(GBS)。Fisher症候群。慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー(CIDP)。Charcot-Marie-Tooth病(CMT)。糖尿病性ニューロパチー。絞扼・圧迫性ニューロパチー；手根管症候群。					
第13回	Alzheimer型認知症、脳血管性認知症、Lewy小体型認知症(DLB)。Binswanger病。前頭側頭型認知症(FTD;Pick病)。改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)とMini Mental State Examination(MMSE)、時計描画検査の実践DVD供覧。					
第14回	髄膜炎(細菌性、結核性、真菌性、無菌性)。脳膿瘍。単純ヘルペス脳炎。インフルエンザ脳症。亜急性硬化性全脳炎(SSPE)。プリオン病；Creutzfeldt-Jakob病(CJD)。てんかん。片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛。					
第15回	脳性麻痺(CP)。母斑症。奇形。頭部外傷、腫瘍。慢性硬膜下血腫。意識障害。脳死。検査。Wernicke脳症。					
11 学習方法 講義。教科書の図表。パワーポイントスライドのプリント。DVDビデオ。簡単な小テスト。グループワーク。						
12 評価方法 主に期末試験(国試形式＋記述式)で評価するが、講義の出欠席、小テスト、レポート、受講態度なども考慮する。						
13 教科書			参考書			
「病気がみえるvol.7 脳・神経 改訂版」；MEDIC MEDIA。 パワーポイントスライドの要点のプリントを配布する			「ベッドサイドの神経の診かた 改訂版」；南山堂 「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野：神経内科学 改訂版」；医学書院			
14 学生への要望 上記の症候・疾患の理解と説明ができるように学んでほしい。ここで学んだ事を実践に生かし、医師や他のメディカル職員などとチームワークで全人的医療を行い、患者さんは勿論のこと、患者さん家族、同僚、他職員からも感謝される療法士になってほしい。						

臨床医学Ⅴ(救急医療学)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	前期	1単位/通年	30時間	必修	早山敏弘 (理学療法士)
8 授業概要						
災害現場、急性期医療、訪問リハビリなどの現場でセラピストに必要な救急医療の知識や技術を学びます						
9 到達目標						
異常な状態が気づき初期対応ができる。急変時の初期対応ができる。 バイタルの基本的な知識と異常時の初期対応ができる。						
10 授 業 計 画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1回	セラピストに必要な救急医療の知識(総論)			セラピストに求められる救急医療や急変時の対応法についての総論		
第2回	災害医療現場での救急医療			災害現場におけるセラピストの活動		
第3回	急性期(ICU、HCUなど)、訪問リハビリにおける救急医療			急性期から生活期での臨床現場で起こりうる緊急事態など		
第4回	セラピストに必要な急変の知識①			危険な胸痛の見分け方		
第5回	セラピストに必要な急変の対応方法①			胸痛が生じたときの対応方法		
第6回	セラピストに必要な急変の知識②			めまいの原因、血圧の基礎知識		
第7回	セラピストに必要な急変の対応方法②			めまいが生じたときの対応方法、血圧測定		
第8回	セラピストに必要な急変の知識③			不整脈・心電図の基礎知識		
第9回	セラピストに必要な急変の対応方法③			不整脈が生じたときの対応方法、脈拍測定		
第10回	セラピストに必要な急変の知識④			危険な息切れの見分け方		
第11回	セラピストに必要な急変の対応方法			息切れが生じたときの対応方法、パルスオキシメーターの使い方		
第12回	セラピストに必要なリスク管理(まとめ)			急変前の前兆を見逃さないための方法		
第13回	一次救命処置			心肺停止状態や窒息時の対応方法		
第14回	救急法①			手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた実技方法を学びます。		
第15回	救急法②			手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた実技方法を学びます。		
11 学習方法						
講義、実技、グループワーク、小テスト						
12 評価方法						
実習態度、実習課題、筆記試験など総合的に評価します						
13 教科書						
			参考書			
実践！離床完全マニュアル2 慧文社 日本離床学会 編者 曷川元						
14 学生への要望						
本講義で+A1:N55は座学だけではなく実技やグループワークを多く取り入れて行います。実践的な内容も含むため少し難しいところもあるかもしれませんが、医療現場だけでなく普段から使えるような急変時の対応も多く学ぶことができます。また、臨床実習で頻回に使うバイタル測定なども含みますので臨床実習や就職以降も役立つ内容となっていますのでぜひ繰り返し復習してください。講義中は聴講するだけでなく積極的に質問やディスカッションを行いましょ。						

精神医学各論

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	桜木章司 (医師)
8 授業概要 リハビリテーションを行ううえで必要とされる精神科領域での疾病や障害に対する一般的理解を取得、理解を深める。						
9 到達目標 精神科領域での疾病や障害に対する一般的理解を取得、理解を深めることが出来る						
9 授業計画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	精神医学各論(1)		統合失調症の概念と症状			
第2回	精神医学各論(2)		統合失調症の経過と治療法			
第3回	精神医学各論(3)		気分障害(感情障害)の概念と症状(躁状態とうつ状態)			
第4回	精神医学各論(4)		気分障害の経過と治療法			
第5回	精神医学各論(5)		器質性精神障害(器質性精神症候群)の概念と症状			
第6回	精神医学各論(6)		認知性疾患(アルツハイマー型認知症)の経過と治療法			
第7回	精神医学各論(7)		認知性疾患(脳血管型認知症)の経過と治療法			
第8回	精神医学各論(8)		認知性疾患(Pick病等)の経過と治療法			
第9回	精神医学各論(9)		てんかんの概念とその症状、診断(脳波)			
第10回	精神医学各論(10)		てんかんの分類と治療法			
第11回	精神医学各論(11)		薬物依存の概念と症状(身体依存と精神依存)			
第12回	精神医学各論(12)		薬物依存(アルコール関連障害等)の経過と治療法			
第13回	精神医学各論(13)		神経症の概念と症状			
第14回	精神医学各論(14)		その他の精神疾患の概念と症状 原因と症状の関係性			
第15回	まとめ					
10 学習方法 講義						
11 評価方法 期末試験から総合的評価						
12 教科書 『精神医学第5版』 文光堂				参考書		
13 学生への要望 しっかりと講義を聞いて復習して下さい。						

基礎作業学療法学実習Ⅳ(人と作業)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	長尾亜紀子 (作業療法士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が講義をします。 ひとと作業の関わりを学び、作業分析の考え方を学び、一般作業分析を経験する。						
9 到達目標 ひとと作業の関わりを学び、作業分析の考え方を理解する。 一般作業分析ができるようになる。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	「作業」とは何か考える		自己の作業を考察できる			
第2回	「作業」とは何か考える		自己の作業を考察できる			
第3回	「作業」とは何か考える		作業の概念を理解できる			
第4回	「作業」とは何か考える		作業の概念を理解できる			
第5回	「作業」とは何か考える		作業の分析方法を知ることが出来る			
第6回	一般的作業分析①-1		実際の作業活動を通じて、一般的作業分析を行う。			
第7回	一般的作業分析①-2		実際の作業活動を通じて、一般的作業分析を行う。			
第8回	一般的作業分析②-1		実際の作業活動を通じて、一般的作業分析を行う。			
第9回	一般的作業分析②-2		実際の作業活動を通じて、一般的作業分析を行う。			
第10回	一般的作業分析③-1		文献を通じて、一般的作業分析を行う。			
第11回	一般的作業分析③-2		文献を通じて、一般的作業分析を行う。			
第12回	一般的作業分析③-3		文献を通じて、一般的作業分析を行う。			
第13回	作業科学理論を知る①		作業科学理論を調べてまとめることが出来る			
第14回	作業科学理論を知る②		作業科学理論を調べてまとめることが出来る			
第15回	作業科学理論を知る②		しらべた作業科学理論を発表する			
11 学習方法 講義／演習／グループワーク						
12 評価方法 出欠席・レポート・作品・授業の取り組み方・期末試験から総合的評価を行う。						
13 教科書				参考書		
『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 2 作業学』 MEDICAL VIEW 必要に応じて資料を配布する。						
14 学生への要望 自ら経験することにより、指導方法や活動の工夫の仕方等を考えていること。						

基礎評価法

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	磯谷晃一 (作業療法士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、作業療法士が行う基本的な検査・測定の方法について講義をします。基礎評価法では、患者の基礎的な情報の種類と収集法、各種検査・測定の意味と方法に関して実演を交えて教授する。						
9 到達目標 1年次の解剖学、運動学、生理学の知識を整理しながら基本的な検査・測定の方法や障害の判定基準を理解する。						
10 授 業 計 画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1回	総論(評価の意義・目的・過程)			評価のプロセスを理解し、評価の意義・目的を学ぶ。		
第2回	総論(評価の時期と目的・記録)			評価の構成要素を理解し、評価の進め方、障害像の把握の仕方について学ぶ。		
第3回	バイタルサインのみかた			今生きている徴候(脈拍・血圧・体温・呼吸)を理解する。 脈拍・血圧・体温・呼吸の測定法を学ぶ。		
第4回	形態測定			四肢周径・長径計測の意義・目的を学び、計測上の注意事項を理解する。		
第5回	形態測定			四肢周径・長径の測定方法を学ぶ。		
第6回	感覚検査			感覚の分類、検査の目的・手順を学ぶ。 各感覚の伝導路を理解する。		
第7回	感覚検査			各感覚の検査方法を学ぶ。 障害部位の推察・解釈法を学ぶ。		
第8回	反射検査			反射の定義・反射弓・種類・判定法を理解する。 実際に検査をおこない、障害部位の推察・解釈法を学ぶ。		
第9回	筋緊張検査			筋トーマスの生理学的知識を深め、意義・目的を学ぶ。 実際に検査をおこない、検査結果の解釈を学ぶ。		
第10回	片麻痺運動機能検査			中枢神経系の運動障害の特徴を理解する。 演習により、片麻痺機能テストを学ぶ。		
第11回	協調性検査			協調運動について理解を深める。 協調性検査法を学び、障害部位の推察・解釈法を学ぶ。		
第12回	関節可動域検査			様々な肢位で、関節可動域検査ができるよう学ぶ。		
第13回	筋力検査			種々の機器を使用し、様々な筋力測定法を学ぶ。		
第14回	脳神経領域の検査			各脳神経の機能・役割を理解する。 各脳神経核、伝導路を理解する。		
第15回	脳神経領域の検査			各脳神経の検査法を学ぶ。 障害部位の推察・解釈法を学ぶ		
11 学習方法 講義・演習						
12 評価方法 試験結果及び授業態度・出欠状況から総合的評価をおこなう。						
13 教科書 『作業療法評価法 第3版』 医学書院 参考書 必要に応じて資料を配布						
14 学生への要望 検査方法だけでなく、その結果の解釈が出来るようバックグラウンド(基礎的知識)の学習も大切。 学習効果を上げるためにも予習・復習をすることが大切です。						

評価学実習 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	松本嘉次郎 (作業療法士)
8 授業概要 病院で作業療法士として携わった経験を持つ教員が実習を通し、評価の実技を繰り返し行い、評価技術の習得・向上を目指す。						
9 到達目標 各評価の意義を理解し、実施・記録できる						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	評価の意義とその目的		評価の意義を確認し、作業療法の過程での意味づけを理解する			
第2回	バイタルサイン・形態測定		バイタルサイン・形態測定の意義を理解し、方法を獲得する			
第3回	関節可動域検査		関節可動域検査の意義を理解し、方法を獲得する			
第4回	筋力検査		筋力検査の意義を理解し、方法を獲得する			
第5回	感覚検査・痛みの検査		感覚検査・痛みの検査の意義を理解し、方法を獲得する			
第6回	反射・反応検査		反射・反応検査の意義を理解し、方法を獲得する			
第7回	協調性検査		協調性検査の意義を理解し、方法を獲得する			
第8回	片麻痺検査・筋緊張検査		片麻痺検査・筋緊張検査の意義を理解し、方法を獲得する			
第9回	脳神経検査検査		脳神経検査の意義を理解し、方法を獲得する			
第10回	整形疾患的・協調性検査		整形疾患的検査と協調性検査の意義を理解し、方法を獲得する			
第11回	投影検査		アジマバッテリーの意義、方法を理解できる			
第12回	認知機能検査		前頭葉検査の意義、方法を理解できる			
第13回	精神症状検査		陽性症状、陰性症状、うつ症状に対する検査の意義、方法が理解できる			
第14回	面接①		インタビュー面接の意義、具体的方法を理解、実施できる			
第15回	面接②		作業面接の意義、具体的方法を理解、実施出来る			
11 学習方法 講義・実技						
12 評価方法 提出物・実技試験から総合的に評価						
13 教科書			参考書			
『標準作業療法学 作業療法評価学』医学書院			『理学療法評価法』金原出版			
14 学生への要望 授業予定に沿い予習をして授業にのぞむこと。他の授業で使用した資料・ノートなど授業の進行に合わせて準備しておくこと。また、作業療法士として評価を行う上で基盤となる実習です。検査方法を十分理解し、的確に実践できるようにしましょう。						

作業療法評価学 I (身体障害)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	2単位	30時間	必修	山川公彦 (作業療法士)
8 授業概要 病院で作業療法士として携わった経験を持つ教員が講義し、作業療法の評価に関する知識及び技法を、理論・演習を通して学習する						
9 到達目標 作業療法における評価の意義と基本的な評価法を理解する						
10 授 業 計 画						
第1回	作業療法における評価の位置づけ	各時間で学ぶべきこと 作業療法評価の目的は何か、なぜ評価が重要なのか 作業療法では何を評価するのか				
第2回	作業療法評価とは①	評価の進め方、作業療法評価の流れ 評価に対する心得				
第3回	作業療法評価とは②	記録と報告 記録を書くときの原則、記録の方法				
第4回	評価の基本と技術①	面接 面接は何のためにするのか、基本的な進め方				
第5回	評価の基本と技術②	観察 観察はどのように行うのか、観察の留意点など				
第6回	評価の基本と技術③	他部門や家族からの情報収集 情報の収集について、種類など				
第7回	精神機能の評価	対人関係の観察と評価 コミュニケーションの観察と評価				
第8回	精神機能の評価	気分調査表(The Mood Inventory) SDS(うつ病自己評価尺度)				
第9回	摂食と嚥下	嚥下の位相(phase)と期(stage)とは 摂食・嚥下障害: 球麻痺と仮性球麻痺の特徴				
第10回	摂食と嚥下	嚥下障害の評価				
第11回	社会生活	社会生活の評価は何をみるのだろうか 社会生活の評価にはどんな種類、方法があるのだろうか				
第12回	職業前評価, 就労	就労と作業療法、評価				
第13回	作業遂行能力、MTDLP	カナダ作業遂行モデル(CMOP)およびカナダ作業遂行測定(COPM)、 MTDLP(生活行為向上マネジメント)				
第14回	Assessment of Motor and Process Skills (AMPS)	AMPSとは AMPS実施手順				
第15回	QOL(quality of life) 具体的な評価尺度	QOLの評価では何をみるのだろうか ICFの作業療法評価への活用				
11 学習方法 講義 演習						
12 評価方法 授業への参加状況 提出物 筆記試験より総合的に評価						
13 教科書			参考書			
作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法評価学(改訂第2版)			配布プリント			
14 学生への要望 多くの評価項目を学ぶので、予習をして授業に臨む必要がある。						

作業療法評価学Ⅱ（精神障害）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	2単位	30時間	必修	前田悠志 (作業療法士)
8 授業概要 精神科作業療法の治療的な意味を伝える 精神科における作業療法評価の方法、技能を理解する。						
9 到達目標 精神科作業療法の治療的な意味を知ることが出来る。 精神科における作業療法評価の方法、技能を理解することが出来る。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	精神保健・医療・福祉・作業療法の歴史と今後の展望					
第2回	精神保健・医療・福祉・作業療法の歴史と今後の展望					
第3回	対象となる精神疾患の基礎的な知識と治療法					
第4回	対象となる精神疾患の基礎的な知識と治療法					
第5回	作業療法評価実践の基本的視点 ①					
第6回	作業療法評価実践の基本的視点 ①					
第7回	作業療法評価実践の基本的視点 ②					
第8回	作業療法評価実践の基本的視点 ②					
第9回	急性期作業療法の考え方と評価 ①					
第10回	急性期作業療法の考え方と評価 ①					
第11回	急性期作業療法の考え方と評価 ②					
第12回	急性期作業療法の考え方と評価 ②					
第13回	退院支援の考え方と評価・実践					
第14回	退院支援の考え方と評価・実践					
第15回	評価の実践のまとめ					
11 学習方法 講義 演習						
12 評価方法 期末試験から総合的、立体的な評価						
13 教科書				参考書		
『精神障害と作業療法』 三輪書店				『精神障害作業療法』 医歯薬出版株式会社		
14 学生への要望						

作業療法治療学 I (内部障害)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	青木みゆき (作業療法士)
8 授業概要 病院で作業療法士として携わった経験を持つ教員が内部障害の作業療法について講義する。						
9 到達目標 呼吸器・循環器・糖尿病・がんの作業療法の考え方、かかわり方について理解し、内部障害の作業療法実践のための基礎知識を習得する。						
10 授業計画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	内部障害とは バイタルサインとリスク管理		内部障害疾患の種類を知り、作業療法の役割を学ぶ。作業療法中に起こりうる事故を把握し、リスク管理の方法を理解する。			
第2回	呼吸器疾患の作業療法①		呼吸機能の解剖、呼吸器疾患の病態を学ぶ。			
第3回	呼吸器疾患の作業療法②		呼吸器疾患の作業療法評価を学ぶ。			
第4回	呼吸器疾患の作業療法③		呼吸器疾患への作業療法アプローチを学ぶ。			
第5回	循環器の作業療法①		循環機能の解剖、循環器疾患の病態を学ぶ			
第6回	循環器の作業療法②		循環器疾患の作業療法評価を学ぶ。			
第7回	循環器の作業療法③		循環器疾患の作業療法アプローチを学ぶ。			
第8回	内分泌代謝疾患の作業療法①		糖尿病の病態を学ぶ。			
第9回	内分泌代謝疾患の作業療法②		糖尿病の作業療法評価を学ぶ。			
第10回	内分泌代謝疾患の作業療法③		糖尿病及び合併症の作業療法アプローチを学ぶ。			
第11回	悪性腫瘍の作業療法①		悪性腫瘍の病態について学ぶ。			
第12回	悪性腫瘍の作業療法②		悪性腫瘍の作業療法評価及びアプローチについて学ぶ。			
第13回	悪性腫瘍の作業療法③		悪性腫瘍の作業療法評価及びアプローチについて学ぶ。			
第14回	サルコペニア・下部尿路機能障害の作業療法		サルコペニアの概念について理解する。下部尿路障害の種類を知り、リハビリテーションの役割を理解する。			
第15回	まとめ		内部障害の作業療法について役割を再確認する。			
11 学習方法 講義						
12 評価方法 出席状況、課題レポート、定期試験にて総合的に評価する。						
13 教科書				参考書		
『身体障害作業療法学2 内部疾患編』 羊土社 必要に応じて資料を配布						
14 学生への要望 呼吸器・循環器等の解剖学、生理学及び疾患の病態を予習して授業に臨んで欲しい。						

作業療法治療学 I (神経筋疾患)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	後 期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	磯谷晃一 (作業療法士)
8 授業概要: 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、神経筋疾患の病態や症状・リハビリテーションの考え方を講義をします。 代表的な神経筋疾患のリハビリテーションと専門職としての関りについて学習する。						
9 到達目標 神経筋疾患の病態や症状を理解し、リスク管理を踏まえた治療プログラム・支援を立案できる。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	総論			神経筋疾患の概論		
第2回	筋疾患			進行性筋ジストロフィー症について各筋ジストロフィー毎の特徴や方法を知る		
第3回	筋疾患			進行性筋ジストロフィー症について各筋ジストロフィー毎の特徴や方法を知る		
第4回	神経筋接合部疾患			重症筋無力症についてのアプローチ方法を知る		
第5回	脱髄疾患			ギランバレー症候群について特徴と治療方法を知る		
第6回	脱髄疾患			多発性硬化症について特徴と治療方法を知る		
第7回	変性疾患			筋萎縮性側索硬化症について特徴と生活支援について知る		
第8回	変性疾患			パーキンソン病について特徴と生活支援について知る		
第9回	変性疾患			脊髄小脳変性症について特徴と治療方法を知る		
第10回	変性疾患			多系統萎縮症について特徴と治療法を知る		
第11回	失調症に対するリハビリテーション			失調症で基本的な重り負荷などの技術について理論と方法を知る		
第12回	失調症に対するリハビリテーション			失調症の生活支援について知る		
第13回	難病医療と支援技術について			難病支援のネットワークについて知る 難病支援で利用される科学技術や利用できる医療保健・介護保健について知る		
第14回	筋疲労と過用症候群			作業療法治療場面においてリスク管理を知る		
第15回	総括					
11 学習方法 講義・グループワーク・口頭発表						
12 評価方法 試験結果及び授業態度・出欠状況から総合的評価をおこなう。						
13 教科書				参考書		
『病気がみえる 脳・神経 Vol7』 MEDIC MEDIA				『神経・筋疾患のマネージメントー難病患者のリハビリテーション』 医学書院		
14 学生への要望 小児科学・神経内科学で取り上げられる内容と関連の深い科目です。復習をしっかりとしてください。						

作業療法治療学Ⅱ（切断と義肢）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	小野 泉 (作業療法士)
8 授業概要 体験型の授業構成により知識を深める。また、国家試験問題の出題傾向に則した講義内容をディスカッションを通じた授業進行を行う。						
9 到達目標 この科目では義肢、主に義手について術後管理から社会復帰までの過程を作業療法士の視点から理解を図る。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	義肢学総論		義肢の歴史、義手の役割、切断者・義肢に対する作業療法士の役割			
第2回	義手装着体験 切断と術後管理		義手の機能限界を体験することで、補装具の役割を理解する 切断原因やISO・AAOSの分類を理解する			
第3回	補装具交付基準と分類 義手の構造と機能 ①		義手の分類を知る 肩・上腕義手の構造と機能 構成要素と働きを理解する			
第4回	義手の構造と機能 ②		前腕・手義手の構造と機能 構成要素と働きを理解する			
第5回	作業療法評価法		臨床で用いられる評価方法を理解する 学生同士でpt・th役を演じながら実習体験を行う			
第6回	義手の作業療法訓練過程		義手装着前訓練・装着訓練の理解			
第7回	義手のチェックアウト ①		前腕義手の検査方法を実技実習と合わせて経験する			
第8回	義手のチェックアウト ②		肩・上腕義手の検査方法を実技実習と合わせて経験する			
第9回	仮義手トレーニングの利点		仮義手とは何か、その利点と効果を理解する			
第10回	体外力源義手(筋電義手) 筋電義手の操作体験		体外力源義手の理解と構造・機能を知る			
第11回	筋電義手の操作方法と指導方法		操作原理と理解 筋電信号採取とトレーニング方法を経験する			
第12回	小児切断と・奇形		小児切断の特徴 義手を使わない・義手を使った訓練アプローチ			
第13回	切断患者の社会復帰支援		義手を最大限に活用し社会復帰に対する支援法を考える			
第14回	幻肢と幻肢痛		幻肢と幻肢痛の理解とOTトレーニング			
第15回	切断と義肢のまとめ 国家試験問題の出題傾向		国家試験問題を解き出題傾向と対策を行う			
11 学習方法 講義 / 実習						
12 評価方法 期末試験						
13 教科書			参考書			
『作業療法学全書改訂第3版 作業療法技術学1 義肢装具学』 協同医書出版			『切断と義肢』医歯薬出版 『義肢装具のチェックポイント学第7版』医学書院			
14 学生への要望 この講義・実習は広範囲にわたる。授業計画をもとに教科書・配布される資料等を事前に読み、疑問を持って授業に参加するよう希望する。授業中自由に質問し、クラス全体がディスカッションが出来る明るいクラスを作りたい。						

作業療法治療学Ⅱ（神経損傷）

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位／通年	30時間/ 60時間	必修	西井優子 (作業療法士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、神経損傷(脊髄損傷・末梢神経損傷)に関する講義をします。各傷害の病態と症状を理解し、疾患別に基本的な評価と作業療法を学びます。また、障害レベルに応じたADLへの影響について理解を深めます。						
9 到達目標 各傷害の病態と症状を理解し、障害レベルに応じたADLへの影響について理解する。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	末梢神経損傷の概要		末梢神経の解剖学・生理学の復習し、病態とその症状について学ぶ			
第2回	末梢神経損傷の回復過程		末梢神経損傷の解剖学的回復と機能的回復について学ぶ			
第3回	末梢神経損傷の評価		末梢神経損傷の作業療法評価とその意義について学ぶ			
第4回	末梢神経損傷の作業療法		末梢神経損傷の作業療法			
第5回	頸髄症について		頸髄症の概要を知り、症状・評価について学ぶ			
第6回	テスト		末梢神経損傷の内容でテストを行う			
第7回	脊髄損傷の概要・評価		脊髄損傷の評価法を学ぶ			
第8回	脊髄損傷の合併症		脊髄損傷での各レベルに応じた起居動作を理解し、その介入法を学ぶ			
第9回	脊髄損傷の動作訓練		脊髄損傷での各レベルに応じた移乗動作・車いすの操作を理解し、その介入法を学ぶ			
第10回	脊髄損傷の動作訓練		脊髄損傷での各レベルに応じた食事動作・更衣動作を理解し、その介入法を学ぶ			
第11回	脊髄損傷の動作訓練		脊髄損傷での各レベルに応じた入浴・排泄動作を理解し、その介入法を学ぶ			
第12回	脊髄損傷の生活関連動作		脊髄損傷での各レベルに応じた生活関連動作を理解し、その介入法を学ぶ			
第13回	グループワーク		事例検討・グループワーク			
第14回	当事者による講義		スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ活動現場に出かけ障がい者とのふれあいを通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性・意義・価値を学ぶ。			
第15回	まとめ					
11 学習方法 講義／実技						
12 評価方法 出席状況・授業態度10%、レポート・提出物10%、中間試験40%、期末試験40%とし、総合的に判定する。						
13 教科書				参考書 『脊髄損傷理学療法マニュアル』 文光堂		
14 学生への要望 脊髄・末梢神経について、解剖学・生理学で学習した内容を復習し、理解したうえで講義に臨んでください。						

作業療法治療学Ⅲ(運動器疾患)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位/ 通年	30時間/ 60時間	必修	西井優子 (作業療法士)
8 授業概要						
<p>病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、運動器疾患に関する講義をします。 学生が対象者を評価し治療できるようになるために、解剖学的知識につなげて運動器疾患について理解し、その基本的な治療過程やリスク、作業療法について知ることを目的とする。</p>						
9 到達目標						
<p>運動器疾患の治療過程とリスクを理解し基本的な作業療法を実施できる。</p> <p>①治療過程とリスクを理解する。 ②各疾患に応じて評価項目を列挙できるようになる。 ③運動器疾患で使用される評価と基本的な作業療法を身につける。</p>						
10 授 業 計 画						
						各時間で学ぶべきこと
第1回	運動器疾患総論1					組織再生及び修復過程を理解する。
第2回	運動器疾患総論2					運動器疾患の一般的評価を理解する。
第3回	運動器疾患総論3					運動器疾患の一般的治療を理解する。
第4回	骨折(上腕骨近位端骨折)					上腕骨近位端骨折について病態と評価・治療を理解する。
第5回	骨折(橈骨遠位端骨折)					橈骨遠位端骨折について病態と評価・治療を理解する。
第6回	骨折(大腿骨頸部骨折)					大腿骨頸部骨折について病態と評価・治療を理解する。
第7回	人工関節について					人工関節の構造と機構、適応について理解する。
第8回	骨折(腰椎椎体骨折)					腰椎椎体骨折について病態と評価・治療を理解する。
第9回	頸部疾患・腰部疾患□					代表的な頸部疾患・腰部疾患について理解する。 神経根症と頸髄症の違いを知り、評価・治療について理解する。
第10回	肩周囲の外傷 (肩関節周囲炎、腱板損傷)					肩関節障害の病態と評価・治療について理解する。
第11回	手の外科(屈筋腱損傷)					腱損傷の病態と評価・治療について理解する。
第12回	関節リウマチ□					関節リウマチの病態及び評価・治療について理解する。
第13回	熱傷□					熱傷の病態及び評価・治療について理解する。
第14回	グループ学習・演習					外傷に対して、評価項目を列挙し、評価の意義を理解する。
第15回	まとめ					運動器障害に対する作業療法について大切なポイントを復習する。
11 学習方法						
講義・一部実技						
12 評価方法						
レポート・提出物35%、期末試験60%、出席状況・授業態度など5%とし、総合的に判定する。						
13 教科書						
参考書						
リハ実践テクニック ハンドセラピー(メジカルビュー)						
14 学生への要望						
一年次に学習した解剖学・運動学をしっかり復習し、並行してある整形外科学の授業をよく聴いて授業に臨んでほしい。						

作業療法治療学Ⅲ(小児)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	長尾亜紀子 (作業療法士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が講義をします。 小児に対する作業療法についての基礎知識及び、介入を学習する。						
9 到達目標 ①人間発達や発達心理学、運動発達学など正常発達概論を再認識する。 ②子供に対する各疾患の理解をする。 ③治療理論につなげて、疾患別作業療法を考える。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	正常発達概論			正常発達を振り返り、発達について整理する		
第2回	正常発達概論			正常発達を振り返り、発達について整理する		
第3回	各疾患別の作業療法			脳性麻痺の作業療法について学ぶ		
第4回	各疾患別の作業療法			脳性麻痺の作業療法について学ぶ		
第5回	各疾患別の作業療法			脳性麻痺の作業療法について学ぶ		
第6回	各疾患別の作業療法			重症心身障害児の作業療法について学ぶ		
第7回	各疾患別の作業療法			知的障害、ダウン症の作業療法について学ぶ		
第8回	各疾患別の作業療法			知的障害、ダウン症の作業療法について学ぶ		
第9回	各疾患別の作業療法			発達障害の作業療法について学ぶ		
第10回	各疾患別の作業療法			発達障害の作業療法について学ぶ		
第11回	各疾患別の作業療法			発達障害の作業療法について学ぶ		
第12回	各疾患別の作業療法			発達障害の作業療法について学ぶ		
第13回	各疾患別の作業療法			発達障害の作業療法について学ぶ		
第14回	各疾患別の作業療法			発達障害の作業療法について学ぶ		
第15回	まとめ					
11 学習方法 講義/ディスカッション/グループワーク/実技等						
12 評価方法 試験、授業態度、出席状況、提出物により総合評価とする						
13 教科書				参考書		
ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版						
14 学生への要望 正常発達について復習しておいてください。 授業前には教科書の該当場所を読むなどの予習をしておいてください。 提出物を多めに予定しています。能動的に取り組んでください。						

作業療法治療学Ⅳ(高齢者)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	大森大輔 (作業療法士)
8 授業概要: 病院や施設等での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、高齢期に多い疾患や高齢者の特徴・対応の仕方・リハビリテーションの考え方などを講義をします。						
9 到達目標: 高齢者の特徴および疾患についての理解を深め、作業療法アプローチ法を習得する。 高齢者作業療法に必要な実践的スキルを習得する。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	高齢社会とは		高齢者の定義・高齢化率上昇の要因とその背景について学ぶ。			
第2回	高齢期の課題・社会制度		現代社会における高齢者の問題を理解し、わが国の高齢者福祉対策を学ぶ。			
第3回	高齢期の特徴「老化」		高齢者の生理的・身体的・心理的特徴を学ぶ。			
第4回	高齢期の疾患①		高齢者の生理的・身体的機能低下により引き起こされる疾患を理解する。			
第5回	高齢期の疾患②		高齢者の心理・精神機能低下により引き起こされる疾患を理解する。			
第6回	高齢期に多い疾患		高齢者によくみられる疾患を理解する。			
第7回	認知症		認知症の定義・分類・症状を理解する。			
第8回	高齢期作業療法の実践① 「評価・目標設定・基本的枠組み」		高齢者の一般評価項目や評価ツールを理解し、問題点の抽出や問題点の改善に向けて、目標設定の方法を学ぶ。			
第9回	高齢期作業療法の実践②「身体領域」		身体面へのアプローチについて調べ、理解を深める。			
第10回	高齢期作業療法の実践②「身体領域」		身体面へのアプローチについて調べ、理解を深める。			
第11回	高齢期作業療法の実践③「精神領域」		精神面へのアプローチについて調べ、理解を深める。			
第12回	高齢期作業療法の実践③「精神領域」		精神面へのアプローチについて調べ、理解を深める。			
第13回	援助者のための一般的注意事項① 「リスク管理」		高齢者のリスクを予測・予防するための知識を学ぶ。			
第14回	援助者のための一般的注意事項② 「対応・援助方法」		高齢者の尊厳や時代背景を踏まえた対応・援助法を学ぶ。			
第15回	高齢者を取り巻く人々		家族・他職種・他機関・地域の人々との連携の重要性を学ぶ。			
11 学習方法 講義・グループワーク・口頭発表						
12 評価方法 試験結果(70%)及び授業態度・出欠状況・課題提出(30%)から総合的評価をおこなう。						
13 教科書			参考書			
『標準作業療法学 高齢期作業療法学 第2版』医学書院 配布プリント						
14 学生への要望 高齢者に対する理解を深めるため予習・復習をしっかりとしてください。						

作業療法治療学Ⅳ(CVA)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	大森大輔 (作業療法士)
8 授業概要 病院等で作業療法士として経験を持つ教員が講義し、脳血管障害を理解し、作業療法に必要な知識・技術について学習する。						
9 到達目標 ・脳血管障害の症状、高次脳機能障害を理解する ・脳血管障害に対する作業療法評価の知識・技術について理解する ・脳血管障害の症状に応じた治療を理解する						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	脳血管障害とは	脳血管障害者の現状、医療機関や施設での治療の方向性について理解する。				
第2回	脳の役割・種類・画像診断・治療	脳の解剖学の復習、画像診断について学ぶ。				
第3回	脳血管障害による障害	主症状及び障害を身体機能や精神機能別に理解する。				
第4回	一次障害、二次障害	脳血管障害の誘因となる障害、一次障害、二次障害の状態を理解する。				
第5回	作業療法評価(1)	身体機能評価を中心に学習する。				
第6回	作業療法評価(2)	精神機能評価を中心に学習する。				
第7回	作業療法アプローチ急性期(1)	急性期治療の流れ、リスク管理を理解する。				
第8回	高次脳機能障害とは	総論				
第9回	注意障害の評価と治療	注意障害が生じる脳内メカニズムを理解する。その上で注意障害に対する評価、治療を理解する。				
第10回	記憶障害の評価と治療	記憶障害が生じる脳内メカニズムを理解する。その上で記憶障害に対する評価、治療を理解する。				
第11回	失認の評価と治療	失認が生じる脳内メカニズムを理解する。その上で失認に対する評価、治療を理解する。				
第12回	失行の評価と治療	失行が生じる脳内メカニズムを理解する。その上で失行に対する評価、治療を理解する。				
第13回	遂行機能障害の評価と治療	遂行機能障害が生じる脳内メカニズムを理解する。その上で遂行機能障害に対する評価、治療を理解する。				
第14回	失語の評価と治療	失語が生じる脳内メカニズムを理解する。その上で遂行機能障害に対する評価、治療を理解する。				
第15回	まとめ					
11 学習方法 講義／演習／グループワーク						
12 評価方法 出欠席・作品・授業の取り組み方・期末試験から総合的評価を行う。 各講義後の確認試験(30%)、評価実技(10%)と期末試験(60%)から総合的評価を行う。						
13 教科書 標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 配布資料				参考書		
14 学生への要望 講義前後で脳機能の解剖を再度確認してください。 聴講後は復習をして理解するようにして下さい。						

作業療法治療学Ⅴ(疾患別精神障害)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	村上 太気 (作業療法士)
8 授業概要						
<p>病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が講義します。 各精神疾患に対する治療方法を中心に学びます。</p>						
9 到達目標						
<p>各精神疾患に対する特性を理解し、評価、治療方法、集団の用い方の理解ができる 事例を用い、治療・援助(治療・援助計画と治療・援助技術)の再焦点化することが出来る</p>						
10 授 業 計 画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1回	精神障害リハビリテーションと作業療法について			精神科作業療法の治療構造が理解できる		
第2回	精神障害者の入院治療と作業療法			入院形態、退院支援等の理解が出来る		
第3回	精神障害者の地域生活支援			リハビリ支援、家族支援、社会資源の活用、デイケア、デイナイトケア、生活障害について理解できる		
第4回	精神科作業療法における理論1			精神分析、認知神経科学の考え方と作業療法の関係が理解できる		
第5回	精神科作業療法における理論2			精神分析、認知神経科学の考え方と作業療法の関係が理解できる		
第6回	精神科作業療法の評価 見立てについて			精神症状、認知機能、ADL等の評価について理解できる		
第7回	精神科作業療法の治療計画, 作業選択, 時間, 結果の見方			治療計画を立て、作業種目が選択できる 作品から心理状態が読み取れる		
第8回	統合失調症の作業療法			統合失調症患者に対する評価、目標、治療計画の立案の理解が出来る		
第9回	統合失調症の作業療法			統合失調症患者に対する評価、目標、治療計画の立案の理解が出来る		
第10回	感情障害の作業療法			うつ病性障害患者に対する評価、目標、治療計画の立案の理解が出来る		
第11回	感情障害の作業療法			双極性障害患者に対する評価、目標、治療計画の立案の理解が出来る		
第12回	摂食障害に対する作業療法			摂食障害の患者に対する評価、目標、治療計画の立案の理解が出来る		
第13回	神経症性障害に対する作業療法			不安障害・心身症の患者に対する評価、目標、治療計画の立案の理解が出来る		
第14回	アルコール依存症に対する作業療法			アルコール依存症の患者に対する評価、目標、治療計画の立案の理解が出来る		
第15回	まとめ			1-14回までの振り返り		
11 学習方法						
講義／演習／グループワーク／発表						
12 評価方法						
レポート、発表、定期試験において評価						
13 教科書						
標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学 第3版				参考書		
14 学生への要望						
<p>疾患の症状などについては教科書をよく読み理解してください。イメージしにくい時などは積極的に質問してください。 授業内容は多少変更する場合があります。</p>						

作業療法治療学Ⅴ(精神障害)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	河野誠 (作業療法士)
8 授業概要 精神障害についての理解を深める。精神科作業療法の実際について学び、実践力な力をつける。						
9 到達目標 精神科作業療法に必要な実践的スキルを修得する。						
10 授 業 計 画			各時間で学ぶべきこと			
第1回	心の働きを理解し用いる作業療法					
第2回	思考と感情の働きを理解し用いる作業療法					
第3回	集団及び自己の治療的利用を体験する作業療法 実践とフィードバック					
第4回	心と体の関わりを理解し用いる作業療法					
第5回	集団及び自己の治療的利用を体験する作業療法 実践とフィードバック					
第6回	残存する精神的健康を活性化する作業療法					
第7回	集団及び自己の治療的利用を体験する作業療法 実践とフィードバック					
第8回	人間関係を癒す作業療法					
第9回	集団及び自己の治療的利用を体験する作業療法 実践とフィードバック					
第10回	疾患、障害特性と作業療法					
第11回	集団及び自己の治療的利用を体験する作業療法 実践とフィードバック					
第12回	急性期、回復期、維持期における作業療法					
第13回	集団及び自己の治療的利用を体験する作業療法 実践とフィードバック					
第14回	事例検討					
第15回	試験					
11 学習方法 講義 演習 グループワーク レクリエーション実践						
12 評価方法 出欠席・レポート・口頭発表・末期試験から総合的評価						
13 教科書			参考書			
講師作成の資料を中心に授業を進める。			『精神障害と作業療法第2版』 三輪書店			
14 学生への要望 授業予定内容に関しては、各自が実践を通してスキルアップをはかっていきます。各自の担当に関しては、入念な計画準備を行い授業に臨むこと。						

日常生活活動(前期)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	磯谷晃一 (作業療法士)
8 授業概要 病院・施設等で作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活活動について講義、実演します。						
9 到達目標 ADL、APDLの概念や範囲を理解し、ADL評価の意味と目的を理解する。 日常生活活動の動作分析ができ、作業療法士として支援の方法を理解する。						
10 授業計画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	ADLの概念と範囲		リハビリにおけるADLの位置づけ、ADLの概念・範囲			
第2回	動機づけ理論		対象者のADLを能動的に活動するための理論			
第3回	ADL評価①		評価の位置づけ・目的・ポイント			
第4回	ADL評価②		評価表アクティブラーニング			
第5回	基本動作①(寝返り・起き上がり)		寝返り・起き上がりの動作分析			
第6回	基本動作①(寝返り・起き上がり)		寝返り・起き上がりアクティブラーニング			
第7回	基本動作②(移乗動作)		移乗動作の動作分析			
第8回	基本動作②(移乗動作)		移乗動作アクティブラーニング			
第9回	リハビリテーション支援機器(歩行補助具)		移動補助具(杖・歩行器)について講義とアクティブラーニング			
第10回	リハビリテーション支援機器(車いす)		移動補助具(車椅子・リフター他)について講義とアクティブラーニング			
第11回	排泄動作①		排泄動作の動作分析			
第12回	排泄動作②		排泄方法と介入方法			
第13回	食事動作①		食事動作の動作分析とアクティブラーニング			
第14回	整容、入浴、更衣動作		整容、入浴、更衣動作の動作分析とアクティブラーニング			
第15回	まとめ		リハビリにおけるADLの位置づけを再確認する。			
11 学習方法 講義、演習(アクティブラーニング)						
12 評価方法 出席状況、講義ごとの確認試験(20%)、実技確認(20%)、定期試験(60%)から総合的に評価						
13 教科書				参考書		
『PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版』羊土社 配布資料						
14 学生への要望 この授業を通して生活とはどういうものか自分の生活と照らし合わせながら学習してください。						

日常生活活動(後期)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	倉本由伽 (作業療法士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活活動について講義、実演をします。						
9 到達目標 各疾患における日常生活上の特性を理解し、疾患にあった作業療法支援技術の習得する。 日常生活における作業療法士の役割について理解する。						
10 授業計画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	疾患別のADL 脳卒中①	片麻痺のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法(起居動作)				
第2回	疾患別のADL 脳卒中②	片麻痺のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法(起居動作)				
第3回	疾患別のADL 頸髄損傷①	脊髄損傷のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法				
第4回	疾患別のADL 頸髄損傷②	脊髄損傷のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法				
第5回	疾患別のADL 骨関節疾患	骨・関節形態障害のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法				
第6回	疾患別のADL 呼吸器疾患	呼吸器障害のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法				
第7回	疾患別のADL 心疾患	循環器障害のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法				
第8回	疾患別のADL 神経筋疾患	パーキンソン病・ALS・SCDのADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法				
第9回	疾患別のADL 認知症①	認知症のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法				
第10回	疾患別のADL 認知症②	認知症のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法				
第11回	各領域の臨床におけるADL評価・介入の特徴と事例 身体障害	身体障害領域におけるADLの特徴とその具体例、評価や介入のポイント				
第12回	各領域の臨床におけるADL評価・介入の特徴と事例 精神領域	精神領域におけるADLの特徴とその具体例、評価や介入のポイント				
第13回	各領域の臨床におけるADL評価・介入の特徴と事例 発達領域	発達領域におけるADLの特徴とその具体例、評価や介入のポイント				
第14回	各領域の臨床におけるADL評価・介入の特徴と事例 老年期領域	老年期領域におけるADLの特徴とその具体例、評価や介入のポイント				
第15回	授業のまとめ	各授業の振り返りをおこない、知識の整理				
11 学習方法 講義/演習						
12 評価方法 出席状況、確認テスト、定期試験から総合的に評価						
13 教科書				参考書		
ゴールドマイスターテキスト「日常生活活動学(ADL)」 メジカルビュー社 配布資料						
14 学生への要望 各疾患を理解し、根拠に基づく指導ができるよう学習してください。						

日常生活活動実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	後期	1単位	30 時間	必修	大森大輔 (作業療法士)
8 授業概要 病院等で作業療法士として経験を持つ教員が実習を通し、基本的な疾患に対する基本動作の介助法を知る						
9 到達目標 各動作の分析方法を知る。福祉用具・自助具についての知識、使用方法を知る。						
10 授 業 計 画			各時間で学ぶべきこと			
第1回	ADL総論復習	基本的な起居動作の介助法,基本的な移乗動作の介助法				
第2回	ADL総論復習	基本的な杖歩行・車椅子移動の方法				
第3回	ADL総論復習	基本的な食事・排泄・更衣・入浴				
第4回	福祉用具の説明	福祉用具の説明と使用方法について知る				
第5回	中枢疾患における基本動作(片麻痺)	片麻痺のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法(起居動作)				
第6回	中枢疾患における食事動作(片麻痺)	片麻痺のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法(食事動作)				
第7回	中枢疾患におけるトイレ・入浴動作(片麻痺)	片麻痺のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法(トイレ・入浴)				
第8回	中枢疾患におけるADL動作(脊髄損傷)	脊髄損傷のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法				
第9回	運動器疾患(THA・TKA・上下肢骨折)	骨・関節形態障害のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導法				
第10回	運動器疾患(リウマチ)	リウマチのADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法・介助方法				
第11回	疾患別のADL 心疾患	循環器障害のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法				
第12回	中枢疾患におけるADL動作(パーキンソン病)	パーキンソン病のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法(起居動作・セルフケア)				
第13回	中枢疾患におけるADL動作(ALS)	ALS・SCDのADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導方法				
第14回	認知症におけるADL動作	認知症のADL障害の原因・指導上の留意点・具体的指導法				
第15回	授業のまとめ	各授業のまとめを行う				
11 学習方法 実技/班毎のグループワーク						
12 評価方法 実技試験・レポート						
13 教科書			参考書			
「日常生活活動学(ADL)」(改訂第2版)メジカルビュー社						
14 学生への要望 前期のADL総論の復習と後期ADL各論で学習した内容を実技演習となります。疾患を理解し模擬患者を演じ作業療法士役は学習した指導方法を実際に行う						

早期体験実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	2学年	前期	1単位	45時間	必修	実習指導者 2年生担任
<p>8 授業概要</p> <p>施設や病院の役割を理解し、そこで勤務している作業療法士や職員の業務や技能を知る。 また、医療人・社会人としての自覚を促し、患者や利用者とのコミュニケーションが取れること。 さらに、臨床実習指導者の指導の下に一連の作業療法や施設の流れを学習する。</p>						
<p>9 到達目標</p> <p>施設や病院の役割を理解し、そこで勤務している作業療法士や職員の業務や技能を知ることができる。 また、医療人・社会人としての自覚を促し、患者や利用者とのコミュニケーションが取れること。 さらに、臨床実習指導者の指導の下に一連の作業療法や施設の流れを学習することができる。</p>						
<p>10 授 業 計 画</p> <p> </p> <p>早期体験実習開始前(5時間)</p> <p>学内にてオリエンテーション及び卒業生の講話を聴講。 OSCE(コミュニケーション及びバイタルチェック)を行う。</p> <p> </p> <p>早期体験実習(8時間×5日=40時間)</p> <p>5日間を1施設、計6日間学外臨床実習指導者の指導監督の下で見学体験実習を行い、経験記録をまとめる。</p>						
<p>11 学習方法</p> <p>実習</p>						
<p>12 評価方法</p> <p>OSCE、出席状況、実習状況、学校への提出物等にて総合的に評価する。</p>						
<p>13 教科書</p> <p style="text-align: right;">参考書 「実習の手引き」</p>						
<p>14 学生への要望</p> <p>詳細は実習の手引きを参照すること。 服装・頭髪・爪等身だしなみや言葉遣いに留意すること。</p>						

レクリエーションⅡ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門関連分野	2学年	後期	1単位	30時間	必修	作業療法学科教員 (作業療法士)
8 授業概要 1、2年生で小グループを作り、協力して清掃、ボランティア活動、体力測定、健康関係のレクリエーションなどを行い、実施内容について報告書を提出する。						
9 到達目標 清掃、ボランティア活動、体力測定、健康関係のレクリエーションなどを実施し、報告書を提出できる。						
10 授 業 計 画						
第1回	オリエンテーション(レクリエーション活動の意義、今後の予定説明)					
第2回	活動内容の検討及び予定案作成					
第3回	レクリエーション支援のプログラム立案					
第4回	レクリエーション支援のプログラム立案					
第5回	準備及び練習					
第6回	準備及び練習					
第7回	準備及び練習					
第8回	準備及び練習					
第9回	準備及び練習					
第10回	計画内容の実践					
第11回	計画内容の実践					
第12回	計画内容の実践					
第13回	実施内容についてのレポート作成					
第14回	実施内容についてのレポート作成					
第15回	実施内容についてのレポート作成・提出					
11 学習方法 演習/グループワーク						
12 評価方法 取り組み姿勢・実施内容・レポート内容からの全体評価を中心とするが、個別評価も含めて総合的に評価する。						
13 教科書 参考書						
14 学生への要望 小グループでの活動になりますので、他の班員のことを考えた行動をしてください。 実施先の迷惑にならないような活動を行うこと。						

基礎研究活動 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門関連分野	2学年	前期	1単位	30時間	必修	作業療法学科教員 (作業療法士)
8 授業概要 基礎研究方法論で学んだ知識を基に、研究の実際場面にて、研究の題目の選定、目的の考え方、方法の手法、結果の解釈、考察論法、結論のまとめ方などと、論文の実際書き方、実践的な発表の仕方を教授する。						
9 到達目標 理学療法・作業療法に関わる研究手法が実践できる。 理学療法・作業療法に関わる論文作成と研究発表の手順とその方法が理解でき、実践できる。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	オリエンテーション・研究課題の明確化・研究関連論文の通読			文献的考察		
第2回	研究課題の明確化・研究題目の決定			研究課題の着眼点		
第3回	研究目的の明確化・研究計画の立案			研究目的の重要性		
第4回	研究方法の試行・予備研究①			実際の研究の予備演習		
第5回	予備研究②			実際の研究の予備演習		
第6回	本研究①			実際の研究の意義・内容		
第7回	本研究②			実際の研究の意義・内容		
第8回	研究データの集積			研究データの取り込み方のポイント		
第9回	研究データの集積解析			研究データの解析・統計処理方法		
第10回	研究論文の作成①			研究論文の構成・書き方のポイント		
第11回	研究論文の作成②			研究論文の構成・書き方のポイント		
第12回	研究発表のためのスライド作成①			研究発表手法の重要点		
第13回	研究発表のためのスライド作成②			研究発表手法のポイント		
第14回	研究発表予演会			研究発表の熟練		
第15回	総まとめ			総復習		
11 学習方法 演習						
12 評価方法 出欠席・論文作成・論文発表からの総合的評価						
13 教科書				参考書		
「リハ研究の進め方・まとめ方」 医歯薬出版株式会社 作業療法研究法 第2版 医学書院						
14 学生への要望 研究の実際の中では、研究の意義・本質などに関して授業を通して理解するように努力してください。						

臨床医学Ⅵ(薬理学)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	3学年	前期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	喜井達夫 (薬剤師)
8 授業概要 医療用医薬品についての知識を現場(臨床)での使い方に重点を置いて解説する。 現場に汎用される医薬品の使用目的、使用法、その薬品の作用や出現頻度の高い副作用について説明する。						
9 到達目標 医療用医薬品についての知識を現場(臨床)での使い方に重点を置いて理解する。 現場に汎用される医薬品の使用目的、使用法、その薬品の作用や出現頻度の高い副作用についての知識を広める。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	薬理学概要1			医薬品の分類、特性、作用・副作用、薬物の動態等		
第2回	薬理学概要2			医療用医薬品の現場での使われ方、カルテ記載、慣用表現、略号、最近の話題等		
第3回	中枢神経系作用について 麻薬について					
第4回	不眠症、不安・神経症治療薬			BZD系薬剤の特徴		
第5回	統合失調症、気分障害治療薬			抗精神病薬の昔と今、抗そう病薬		
第6回	てんかん治療薬、パーキンソン病治療薬			使われ方、作用、副作用		
第7回	認知症、アルツハイマー病治療薬					
第8回	末梢神経系作用薬について					
第9回	抗炎症薬について			NSAIDs、ステロイドの話		
第10回	ステロイド剤の使用法			副作用について重点的に		
第11回	抗リウマチ剤について			前回の続きから生物学的製剤、最近の話題		
第12回	骨粗鬆症治療薬			治療薬およびビタミン剤からホルモン剤の話題		
第13回	血液に作用する薬剤			抗血栓・抗血液凝固剤について		
第14回	生活習慣病治療薬について			糖尿病、高血圧、高脂血症治療薬		
第15回	総括			まとめとして試験の話、演習問題		
11 学習方法 講義						
12 評価方法 期末試験(筆記試験)						
13 教科書				参考書		
系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 第13版 医学書院 参考・補足として講義ごとに資料を配布します。						
14 学生への要望 PT, OTの専門分野ではありませんが、担当患者はもとより現場では新旧問わず多種多様な薬剤が使われています。服用法、副作用の出現頻度の高い薬剤等、短い時間ですが出来るだけ多く、また簡潔に講義をしたいと考えています。「何かの折、現場で役立つ知識」として覚えてください。						

臨床医学Ⅵ(栄養学)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	3学年	前期	1単位/通年	30時間/60時間	必修	津村哲司
8 授業概要 食品成分と生体内での機能発現について学ぶ。 各症状・疾患における栄養状態とその対策について解説し、リハビリテーションとの関連性について学ぶ。						
9 到達目標 食品成分と生体内での機能発現について理解できる。 各症状・疾患における栄養状態とその対策について理解し、リハビリテーションに役立てることができる。						
10 授 業 計 画			各時間で学ぶべきこと			
第1回	栄養学ガイダンス		講義の進め方の説明および栄養学習得に必要な基礎知識を学ぶ			
第2回	基礎科学		第1回に引き続き、栄養学習得に必要な基礎知識を学ぶ			
第3回	糖質について		糖質の構造・分類、機能性について学ぶ			
第4回	糖質について		糖質の代謝について学ぶ			
第5回	脂質について		脂質の構造・分類、機能性について学ぶ			
第6回	脂質について		脂質の代謝について学ぶ			
第7回	タンパク質について		タンパク質の構造・分類、機能性について学ぶ			
第8回	タンパク質について		タンパク質の代謝について学ぶ			
第9回	味覚教育		栄養は口から取り入れるもので、正常な味覚があることで健康を維持できていることを学ぶ。			
第10回	糖尿病について		糖尿病と糖質摂取の関連性について学ぶ			
第11回	肥満および高脂血症について		肥満および高脂血症と脂質摂取の関連性について学ぶ			
第12回	腎疾患について		腎疾患とたんぱく質摂取の関連性について学ぶ			
第13回	高血圧について		高血圧とナトリウム・カリウムの関連性について学ぶ			
第14回	骨粗鬆症について		骨粗鬆症とビタミンDおよびカルシウムの関連性について学ぶ			
第15回	総括		まとめとして試験の話、演習問題			
11 学習方法 講義						
12 評価方法 定期試験(筆記試験)／レポート／出欠席						
13 教科書 わかりやすい栄養学 改訂6版 三共出版			参考書 配布資料			
14 学生への要望 日常的に摂取している食品を「健康を支える食」としてとらえ、食品成分と生体内での機能発現についてより深く理解して欲しい。 また、各疾患に対する栄養療法とリハビリテーションとの関連について理解を深めて欲しい。						

保健医療福祉とリハビリテーション

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	3学年	前期	2単位	30時間	必須	福家亜希子 長尾亜紀子 (作業療法士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が講義をします。 保健医療福祉における作業療法を理解し実践ができるための概要を紹介する。						
9 到達目標 ・保健医療福祉における作業療法を理解する ・実践ができるための概要を理解する						
10 授 業 計 画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1回	地域における発達支援(発達障害の早期発見に向けての取り組み)			社会サービスなど現状について学び、作業療法士にできることを考える。		
第2回	地域における発達支援(障害者総合支援法における公的サービス)			障害児の療育支援として公的サービスを学び、現状を理解する。		
第3回	地域における発達支援(特別支援教育と作業療法)			小学校・中学校を中心に教育現場で行われる学習支援について学ぶ。		
第4回	地域における発達支援(特別支援教育と作業療法)			小学校・中学校を中心に教育現場で行われる学習支援について学ぶ。		
第5回	地域における発達支援(家族支援)			マルトリートメントについての現状を知り、支援の方法を学ぶ		
第6回	障害者の生活支援			障害者の生活支援の仕組みと現状を理解する。		
第7回	障害者の生活支援			障害者の生活支援の仕組みと現状を理解する。		
第8回	障害者の就労支援			障害者雇用促進の仕組みと現状を理解する。 職業生活の実現・安定の為に必要な条件を知る。		
第9回	障害者の就労支援			障害者雇用促進の仕組みと現状を理解する。 職業生活の実現・安定の為に必要な条件を知る。		
第10回	チームアプローチ			チームアプローチの必要性を理解し、機能と手順を確認する。		
第11回	精神保健医療福祉における作業療法のかかわりについて					
第12回	精神保健医療福祉における作業療法のかかわりについて					
第13回	精神保健医療福祉における作業療法のかかわりについて					
第14回	精神保健医療福祉における作業療法のかかわりについて					
第15回	まとめ					
11 学習方法 講義/ディスカッション/グループワーク						
12 評価方法 試験、授業態度、出席状況、提出物により総合評価とする						
13 教科書 PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版				参考書		
14 学生への要望 思考力・発+A1:N55表力を養うための課題を小グループ形式で行います。						

作業療法セミナー I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	2単位	60時間	必修	作業療法学科教員
8 授業概要						
3年次時点での、作業療法士として基本的な知識・技術について教科にとらわれずに総合的な学習を行うことで知識の整理をはかる。						
9 到達目標						
作業療法士として必要な基本的知識・技術について総合的な学習を行い、知識の整理をはかることができる						
10 授 業 計 画						
<p>今まで学習した内容(専門基礎科目及び専門科目)を再学習し、知識を整理する。 国家試験の過去問題・教員の作成した練習問題をもとに、各自で学習ノートを作成する。</p> <p>専門基礎科目及び専門科目の内容で、計3回程度試験を行う。 出題範囲:基礎科目、専門基礎科目及び専門科目で学習した作業療法に必要な基本的な知識・技術 出題形式:マークシートを用いた選択形式 問題数:1回当たり専門基礎科目100問、専門科目100問の計200問 フィードバック:1回ごとの試験に対して分野ごとの正解率、問題の解説等を通して、教員より学生の学習について指導する。 出題内容をもとにして学習内容の振り返り。 グループワークでのインプット・アウトプットを通して理解を深める。</p>						
11 学習方法						
演習						
12 評価方法						
出席状況、学習状況、授業内で実施する試験にて判定していく。						
13 教科書						
			参考書			
教科書・プリントを中心に学習を進める						
14 学生への要望						
復習をしっかりと行うこと						

評価学実習Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	磯谷晃一 (作業療法士)
8 授業概要 各疾患の検査・測定に関し、脳画像、レントゲン画像、動作分析画像等も使用し理解を深められるよう講義します。基礎評価法及び臨床医学の知識を基盤として、作業療法場面で遭遇する頻度の高い疾患を取り上げ、疾患別の評価方法を学ぶ。						
9 到達目標 作業療法場面で遭遇する頻度の高い疾患に対する評価項目を列挙できる。 作業療法事例集を通じて、評価結果の解釈・問題点の整理ができる。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	オリエンテーション 脳血管障害の評価・画像の診方		疾患別評価の意義と目的を理解する。 脳血管障害に対する評価項目を理解し、脳画像の診方も学ぶ。			
第2回	脳血管障害の評価演習		BRS等の基本的評価の実技を行いながら、ICFとの関連を理解する。			
第3回	片麻痺患者の動作分析		移乗等の動画を見ながら見方を学ぶ			
第4回	関節リウマチの評価		ランズバリー分類、スタインブロッカー分類等、RAに用いる基本的評価項目を理解する。			
第5回	関節リウマチの評価演習		RAに用いる基本的評価の実技を行いながら、ICFとの関連を理解する。			
第6回	パーキンソン病の評価		Yahrのステージ、4大症候の評価等、パーキンソン病に用いる基本的評価項目を理解する。			
第7回	パーキンソン病の評価		パーキンソン病に用いる基本的評価の実技を行いながら、ICFとの関連を理解する。			
第8回	脊髄小脳変性症の評価		失調症状等、脊髄小脳変性症に用いる基本的評価項目を理解し、実技を行いながら、ICFとの関連を理解する。			
第9回	末梢神経損傷症の評価		知覚検査、冠名サインとスクリーニングテスト等の基本的評価項目を理解し、実技を行いながら、ICFとの関連を理解する。			
第10回	骨折(上腕・大腿骨頭部骨折)の評価		骨折の分類、画像の診方と治療法、術後の合併症等評価項目及び、評価実技を理解する。			
第11回	高次脳機能障害の評価		WAIS-R、コース立方体、三宅式記憶力検査、BIT、TAT等の評価項目を理解し、実技を行いながら、ICFとの関連を理解する。			
第12回	認知症の評価		HDS-R、MMSE、障害高齢者の日常生自立度判定等の評価項目を理解し、実技を行いながら、ICFとの関連を理解する。			
第13回	統合失調症の評価		行動観察、作業面接、興味チェックリスト、一般職業適性検査等の評価項目を理解し、実技を行いながら、ICFとの関連を理解する。			
第14回	気分障害の評価		行動観察、作業面接、興味チェックリスト、一般職業適性検査等の評価項目を理解し、実技を行いながら、ICFとの関連を理解する。			
第15回	まとめ					
11 学習方法 講義・実習						
12 評価方法 疾患別評価について口頭及び実技試験を行う。						
13 教科書 『標準作業療法学 作業療法評価学』 医学書院			参考書 配布プリント			
14 学生への要望 知識を実技で確認していくので、授業時間だけでなく積極的な実技練習が必要である。						

作業療法治療学演習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	2単位	60時間	必修	小松博彦 山川公彦 (作業療法士)
8 授業概要 病院等で作業療法士として経験を持つ教員が演習を通し、作業療法で用いられる、手技的な技術の獲得。						
9 到達目標 機能障害から各疾患でのアプローチを考え、基本的なアプローチ方法を各個人で行うことができる。						
10 授 業 計 画						
						各時間で学ぶべきこと
第1・2回	精神障害に対する作業療法とは 精神障害における作業療法士の役割					回復段階の理解を深める その人らしさとは何か
第3・4回	統合失調症の治療プログラム					各回復段階における治療プログラムの立案が出来る
第5・6回	感情障害の治療プログラム					各回復段階に適した治療プログラムの立案が出来る
第7・8回	アルコール依存症の治療プログラム					離脱症状を踏まえた治療プログラムが立案出来る
第9・10回	摂食障害、人格障害の治療プログラム					疾患の特性を踏まえた治療プログラムが立案出来る
第11・12回	各疾患における作業療法アプローチ					グループで考えた症例に対する治療プログラムの発表とディスカッション
第13・14回	各疾患における作業療法アプローチ					グループで考えた症例に対する治療プログラムの発表とディスカッション
第15・16回	動きとリハビリテーションの基礎、対象者の 診かた					ストレッチングの実技
第17・18回	関節拘縮に対するアプローチ					感覚障害の違いと感覚障害についてのアプローチ
第19・20回	筋力強化の方法					筋力強化の基本理論と方法 グループでのディスカッション
第21・22回	筋力強化の作業療法アプローチ					グループで考えた症例に対する治療プログラムの発表とディスカッション
第23・24回	感覚障害における作業療法					感覚障害の違いと感覚障害についてのアプローチ 実技
第25・26回	各疾患のリスク管理					身体障害、内部障害、感染症などのリスク管理
第27・28回	各疾患における作業療法アプローチ					各個人に症例を振り分け評価及びプログラム作成し、発表
第29・30回	全体のまとめ(総復習)					復習及びまとめ
11 学習方法 講義／演習／グループワーク／発表						
12 評価方法 レポート、発表、定期試験において評価						
13 教科書 参考書 PT/OTビジュアルテキスト身体障害作業療法学I『骨関節・神経疾患編』 羊土社 編集:小林隆司						
14 学生への要望 これまでに+A1:N55学習してきた内容が必要になります。各講義で学んだことを基本に作業療法として応用していくので、きちんと理解してから講義に望んでください。						

作業療法技術論 I (作業分析)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	2単位	30時間	必修	長尾亜紀子 (作業療法士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、基本的な治療的作業に関する講義をします。						
9 到達目標 ・実習に向けて基本的態度、臨床技能、臨床思考過程についてケーススタディを通して以下のことができるようになる ①問題点を挙げ治療計画を立てる②Activityを評価への応用や補助手段、運動パターンの再学習に利用できる③治療において綿密な仮説検証作業ができる						
10 授 業 計 画			各時間で学べべきこと			
第1回	作業療法推論	対象者をイメージしてMTDLPを活用した作業療法推論を学ぶ				
第2回	作業療法推論	対象者をイメージしてMTDLPを活用した作業療法推論を学ぶ				
第3回	ケーススタディ	与えられたケースの情報をICFにまとめる				
第4回	ケーススタディ	予後予測をしたうえで短期目標・長期目標を立てる				
第5回	ケーススタディ	目標達成が出来る為の訓練プログラム、支援方法を論文、参考書などを基に立案する				
第6回	ケーススタディ	立案したプログラムを実施するための準備を行う				
第7回	実技発表 治療デモンストレーション	レジюме・治療器具を作製準備し、治療発表を行う(1ペア30～40分) 全員でディスカッション 質疑応答 ハンドリング指導				
第8回	実技発表 治療デモンストレーション	レジюме・治療器具を作製準備し、治療発表を行う(1ペア30～40分) 全員でディスカッション 質疑応答 ハンドリング指導				
第9回	実技発表 治療デモンストレーション	レジюме・治療器具を作製準備し、治療発表を行う(1ペア30～40分) 全員でディスカッション 質疑応答 ハンドリング指導				
第10回	実技発表 治療デモンストレーション	レジюме・治療器具を作製準備し、治療発表を行う(1ペア30～40分) 全員でディスカッション 質疑応答 ハンドリング指導				
第11回	実技発表 治療デモンストレーション	レジюме・治療器具を作製準備し、治療発表を行う(1ペア30～40分) 全員でディスカッション 質疑応答 ハンドリング指導				
第12回	実技発表 治療デモンストレーション	レジюме・治療器具を作製準備し、治療発表を行う(1ペア30～40分) 全員でディスカッション 質疑応答 ハンドリング指導				
第13回	実技発表 治療デモンストレーション	レジюме・治療器具を作製準備し、治療発表を行う(1ペア30～40分) 全員でディスカッション 質疑応答 ハンドリング指導				
第14回	実技発表 治療デモンストレーション	レジюме・治療器具を作製準備し、治療発表を行う(1ペア30～40分) 全員でディスカッション 質疑応答 ハンドリング指導				
第15回	実技発表 治療デモンストレーション	レジюме・治療器具を作製準備し、治療発表を行う(1ペア30～40分) 全員でディスカッション 質疑応答 ハンドリング指導				
11 学習方法 講義 グループワーク 口頭発表 実技練習 治療発表 ロールプレーイング レジюмеの作成 治療器具の作成						
12 評価方法 授業の出欠 実技試験(50%) レポート・レジюме提出(30%) 治療目的に合った治療器具の作成(10%) 積極的にディスカッション(10%)に参加できたかなどを基に総合的に判断						
13 教科書			参考書 各種論文など			
14 学生への要望 ペーパーバイシエントに対して深く考えることが出来るように日頃から調べ学習や推論力を鍛えておいてください。また、担当ケースだけでなく、他学生の発表を聞きながら自ら学びとる姿勢を見せる事。積極的に実技練習を行うことが必要です。						

作業療法技術論Ⅱ(ハンドセラピー)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	2単位	30時間	必修	西井優子 (作業療法士)
8 授業概要						
<p>病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、ハンドセラピーに関する講義をします。 手の外傷に対する作業療法の理解を深めるために、手の機能について知り、splintを作成を体験する。</p>						
9 到達目標						
<p>手の機能を理解し、手の外科における代表的な疾患のハンドセラピーを実践できるようになる。。</p> <p>①手の外科における代表的な疾患の評価・治療を習得する。 ②手の外科における代表的な疾患に使用されるsplintを理解する。 ③基本的なsplintの作成・チェックアウトを習得する。</p>						
10 授 業 計 画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1回	概論(手の機能、ハンドセラピーについて)		手の機能や役割について理解する			
第2回	概論(手の外科における評価)		ハンドセラピーの評価を学ぶ			
第3回	概論(手の外科における治療)		ハンドセラピーの治療を学ぶ			
第4回	骨折各論①		手根骨骨折について学ぶ			
第5回	骨折各論②		手指骨骨折について学ぶ			
第6回	腱損傷①		屈筋腱損傷について学ぶ			
第7回	末梢神経損傷①		正中神経・橈骨神経・尺骨神経損傷について学ぶ			
第8回	機能再建①		機能再建について学ぶ			
第9回	機能再建②		腱移行術に対するハンドセラピー評価・治療プログラムを学ぶ			
第10回	切断指		再接着指に対する術後管理と治療プログラムを学ぶ			
第11回	ハンドスプリント総論		} ハンドスプリントを作成し、チェックアウトを行う			
第12回	ハンドスプリント演習①					
第13回	ハンドスプリント演習②					
第14回	ハンドスプリント演習③					
第15回	復習・総括					
11 学習方法						
講義／演習／グループワーク						
12 評価方法						
課題・提出物・レポート40%、授業態度・出席状況10%、期末試験50%として総合的に評価						
13 教科書						
動画で学ぼうPTOTのためのハンドセラピー				参考書		
14 学生への要望						
整形外科学・作業療法治療学Ⅲ「運動器疾患」との関連が深い科目のため、運動学・解剖学まで振り返り復習しておいてください。						

作業療法技術論Ⅲ(マネジメント)

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3 学年	前 期	2単位	30 時間	必修	大森大輔 (作業療法士)
8 授業概要						
<p>病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が講義をします。 高齢者や障害者個々にとって「意味のある作業」を見出し、利用者自身による行動計画の作成の経験をする。 利用者自身の作業遂行度や満足度を確認できるようになる。</p>						
9 到達目標						
<p>MTDLPが出来るまでの経緯を理解できる。 高齢者や障害者個々にとって「意味のある作業」を見出す経験が行える。 模擬症例を通してMTDLPの各シートの作成の経験する。</p>						
10 授 業 計 画						
				各時間で学ぶべきこと		
第1回	生活行為向上マネジメントの経緯			生活行為向上マネジメントの必要性和今後の可能性を確認する。 作業とは何か、「ひと」の作業遂行の質、自分らしい作業の連続、人-環境-作業の相互関係、生活を構成する作業について理解する。		
第2回	生活行為障害とは何か			生活における作業の意味と生活行為障害について理解する。		
第3回	生活行為向上マネジメントとは			生活行為向上マネジメントの特徴と活用について理解する。 生活行為向上マネジメントの流れを確認し、プログラムの立案の方法を理解する。		
第4回	生活行為向上マネジメントツール活用			生活行為聞き取りシート、興味関心チェックシート の使用経験		
第5回	事例: Case1			ICF、生活行為アセスメント演習シート、生活行為課題分析シートの使用経験		
第6回	事例: Case1			ICF、生活行為アセスメント演習シート、生活行為課題分析シートの使用経験		
第7回	事例: Case1			生活行為向上プラン演習シートの使用経験		
第8回	事例: Case1			生活行為向上プラン演習シートの使用経験		
第9回	事例: Case1			まとめ		
第10回	事例: Case2			具体的なケースに対して生活行為向上マネジメントツールを導入する。		
第11回	事例: Case2			具体的なケースに対して生活行為向上マネジメントツールを導入する。		
第12回	事例: Case2			具体的なケースに対して生活行為向上マネジメントツールを導入する。		
第13回	事例: Case2			具体的なケースに対して生活行為向上マネジメントツールを導入する。		
第14回	事例: Case2			具体的なケースに対して生活行為向上マネジメントツールを導入する。		
第15回	まとめ			全体のまとめ		
11 学習方法						
講義/ディスカッション/グループワーク						
12 評価方法						
試験、授業態度、出席状況、提出物により総合評価とする						
13 教科書						
参考書						
作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント 改訂 第4版 日本作業療法士協会						
14 学生への要望						
生活行為向上マネジメントは、「やりたいこと」を「できる」ようにして、いきいきとした地域生活を継続するための支援ツールです。概要を理解した上で、演習形式で授業を行い、臨床活動の場で活用していけるようにしていきましょう。						

応用作業演習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	1単位	30時間	必修	3年生担任 外部講師
8 授業概要 作業療法関連分野の専門知識・技術を高める。						
9 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・標準感染予防について理解する ・吸引について理解し、経験をする ・多職種連携について理解する ・障害者スポーツについて理解する ・最新の作業療法について知ることが出来る 						
10 授業計画						
第1回	感染予防			各時間で学ぶべきこと 標準予防策について学ぶ		
第2回	吸引操作について			吸引の基本理論を学ぶ。		
第3回	吸引操作について□			デモ人形を使い、吸引方法を実践する。		
第4回	特別講義□			初級障がい者スポーツ指導員養成に関わる講座		
第5回	特別講義□			スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質(1.5h)		
第6回	特別講義□			障がい者スポーツ推進の取り組み(1.5h)		
第7回	特別講義□			各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫(3h)		
第8回	特別講義□			全国障害者スポーツ大会の概要(1.5h)		
第9回	多職種連携			作業療法の特徴を他職種に伝える		
第10回	多職種連携			多職種の理解を深め、チーム医療のについて学ぶ		
第11回	関連分野研修会参加			日本作業療法学会に参加し、見聞を広める		
第12回	関連分野研修会参加			日本作業療法学会に参加し、見聞を広める		
第13回	関連分野研修会参加			日本作業療法学会に参加し、見聞を広める		
第14回	関連分野研修会参加			日本作業療法学会に参加し、見聞を広める		
第15回	総括			まとめ		
11 学習方法 講義						
12 評価方法 定期試験・出欠席状況・授業態度から総合的な評価						
13 教科書				参考書		
14 学生への要望 最近の作業療法の動向や関連した領域を学ぶ機会になります。臨床に役立てれるように積極的に授業に参加してください。						

住環境学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	2単位	30時間	必修	山川公彦 (作業療法士) 中野晶万 (1級建築士)
8 授業概要 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、住環境分野について講義をします。福祉と住環境の知識をリハビリテーションへ活かすために、より幅広く確実な知識を学習する。各専門職と連携して具体的な解決策を提案できる能力を身につける。						
9 到達目標 福祉と住環境の知識をリハビリテーションへ活かすために、より幅広く確実な知識を学ぶことが出来る各専門職と連携して具体的な解決策を提案できる能力を身につけることが出来る						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	高齢者を取り巻く社会状況と住環境		社会状況と住環境について理解する。			
第2回	障害者を取り巻く社会状況と住環境		社会状況と住環境について理解する。			
第3回	福祉住環境コーディネーターの役割と機能		福祉住環境コーディネーターの職業倫理について理解する。			
第4回	障害のとらえ方と自立支援のあり方		障害のとらえ方、リハビリテーションと自立支援を理解する。			
第5回	高齢者の心身の特性について		身体的特性、心理と精神的特性について理解する。			
第6回	相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方		相談援助の進め方、連携、住環境整備の進め方を理解する。			
第7回	住環境整備の共通基本技術Ⅰ		「段差の解消」「床材」「手すり」「建具」「スペース」への配慮。			
第8回	住環境整備の共通基本技術Ⅱ		「収納」、「色彩・証明計画、インテリア」、「冷暖房」、への配慮。			
第9回	生活行為別福祉住環境整備の手法Ⅰ		「玄関」「廊下・階段」「トイレ」「浴室」の能力に適應する手法。			
第10回	生活行為別福祉住環境整備の手法Ⅱ		「更衣」「洗面」「整容」「調理と食事」等の能力に適應する手法。			
第11回	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識		建築図面が読めて柱や敷居など住宅構造が分かる。			
第12回	在宅生活における福祉用具の活用		福祉用具の意味と適應、生活行為別の活用。			
第13回	住まいの基礎知識1		住宅の計画・敷地環境、間取り、かたち、予算・工期。			
第14回	住まいの基礎知識2		図面を読み、描く。スペース確保の秘策一壁、柱を取り外す。			
第15回	住まいの基礎知識3		新築や増築での制限とは。住まいに関する法律のこと。			
11 学習方法 講義・演習						
12 評価方法 講義、小テスト、出席状況、授業態度						
13 教科書 福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 東京商工会議所				参考書 福祉住環境コーディネーター検定試験2級過去問題集 日本能率協会マネジメントセンター		
14 学生への要望 授業聴講後は検定試験に向けて問題集などを利用して自己学習をしてください。また、臨床実習にて住宅改修の知識は求められますので、特に疾患別福祉住環境整備については理解するようにしましょう。						

地域リハビリテーション学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3学年	前期	2単位	30時間	必修	倉本由伽 (作業療法士)
8 授業概要: 病院での作業療法業務に携わった経験を持つ教員が、地域包括ケアシステム・介護保険に関する講義をします。諸サービスや介護保険制度などを学びながら、地域リハビリテーションにおける作業療法士の役割や考え方について学ぶ。						
9 到達目標: 実践例を通して地域リハビリテーションを理解し、介護保険制度や介護予防などについて興味を持つことができる。地域における、作業療法士の役割や考え方について関心をもてる。						
10 授 業 計 画			各時間で学ぶべきこと			
第1回	地域リハビリテーションの概要と歴史		地域リハビリテーションの考え方について学ぶ。 個別活動期から現在の地域リハビリテーションの歴史を学ぶ。			
第2回	地域作業療法に必要な制度および連携の知識		介護保険導入の背景、理念・目的を学ぶ。			
第3回	介護保険制度について(制度の概要)		介護保険制度の仕組みやサービス内容・課題について学ぶ。			
第4回	介護保険制度について(本県における介護保険制度の実施状況)		香川県下の介護保険実施状況・高齢化率等を全国的な傾向と比較検討し、香川県下の状況を学ぶ。			
第5回	地域包括ケアシステムとは		地域包括ケアシステムの概要・制度について学ぶ。 現状について学ぶ。			
第6回	地域リハビリテーションの諸サービス (在宅リハビリテーション諸サービス1)		介護予防事業、通院・通所サービスについて学ぶ。			
第7回	地域リハビリテーションの諸サービス (在宅リハビリテーション諸サービス2)		訪問サービス、入院・入所サービスについて学ぶ。福祉用具貸与、購入費支給、住宅改修費支給制度について学ぶ。			
第8回	介護予防事業について(制度の概要・作業療法士に求められる介護予防)		介護予防重視型システムの全体像について学ぶ。			
第9回	身体領域の訪問作業療法		訪問リハビリテーションの概要・制度・役割について学ぶ。			
第10回	身体領域の通所系作業療法		通所リハビリテーションの概要・制度・役割について学ぶ。			
第11回	介護老人保健施設における作業療法		介護老人保健施設の概要・制度・現状について学ぶ。 (介護老人保健施設の概要・実際の作業療法)			
第12回	精神領域の地域作業療法		精神領域の地域作業療法の制度・現状について学ぶ。			
第13回	認知症の人と家族を支える地域作業療法		当事者の方と家族を取り巻く、概要・制度・現状について学ぶ。			
第14回	学校を基盤とした作業療法 子どもの地域作業療法		特別支援学校や子ども領域の制度・現状について学ぶ。			
第15回	就労支援における作業療法		就労支援における制度・現状について学ぶ。			
11 学習方法 講義/演習/グループワーク						
12 評価方法 出席状況、確認テスト、定期試験から総合的に評価						
13 教科書			参考書			
最新作業療法学講座 地域作業療法学 第1版 配布資料						
14 学生への要望 地域における作業療法士の役割に対する理解を深め、講義後の復習とグループワーク内にて活発な意見交換に取り組んでください。						

地域リハビリテーション実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	1単位	45時間	必修	実習指導者 3年生担任
<p>8 授業概要</p> <p>通所リハビリや訪問リハビリの役割を理解し、そこで勤務している作業療法士や職員の業務や技能を知る。 また、医療人・社会人としての自覚を促し、利用者とのコミュニケーションが取れること。 さらに、臨床実習指導者の指導の下に一連の地域作業療法の流れを学習する。</p>						
<p>9 到達目標</p> <p>通所リハビリや訪問リハビリ等の役割を理解できる 通所リハビリや訪問リハビリ等で勤務している作業療法士や職員の業務や技能を知ることが出来る 医療人・社会人としての自覚を促し、利用者とのコミュニケーションが取ることが出来る 臨床実習指導者の指導の下に一連の地域作業療法の流れを学習することが出来る</p>						
<p>10 授 業 計 画</p> <p>地域体験実習開始前(2時間) 学内にてオリエンテーションを行う。</p> <p>地域体験実習(8時間×5日間=40時間) 1施設5日間、施設において指導者よりオリエンテーションを行なう。 指導者の監督の下で地域体験実習を行い、経験記録をまとめる。</p> <p>地域体験実習後(3時間) 学内にて報告会を行う。</p>						
<p>11 学習方法</p> <p>実習</p>						
<p>12 評価方法</p> <p>出席状況、実習状況、学校への提出物等にて総合的に評価する。</p>						
<p>13 教科書</p> <p style="text-align: center;">参考書 「実習の手引き」</p>						
<p>14 学生への要望</p> <p>詳細は実習の手引きを参照すること。 服装・頭髪・爪等身だしなみや言葉遣いに留意すること。</p>						

評価実習

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	3単位	135時間	必修	実習指導者 3年生担任
<p>8 授業概要</p> <p>学外臨床実習施設において、実習指導者の指導監督の下に見学し、対象者を診療する。この実習では特に検査・測定技術に重点を置き、基本的な評価を行なう。また、医療従事者としての自覚を高め、評価に対する知識技術だけでなくマナーなどの習得を図る。</p>						
<p>9 到達目標</p> <p>特に検査・測定技術に重点を置き、基本的な評価を行なうことが出来る。 医療従事者としての自覚を高め、評価に対する知識技術だけでなくマナーなどの習得を図ることが出来る</p>						
<p>10 授 業 計 画</p> <p>評価実習開始前(5.5時間) 学内にてオリエンテーション及びOSCEを行う。</p> <p>評価実習開始(8.5時間×15日間=127.5時間、42.5時間×3週間=127.5時間) 1施設あたり15日間の評価実習を行う。 各施設において実習指導者がオリエンテーションを行う。 実習施設に勤務している作業療法士の診療と業務を見学する。 指導者の指導と助言の下で臨床参加型実習(作業療法参加型実習)を原則とし評価技術を学ぶ。 見学や評価で経験する症例を通して能動的に学習を行う。 指導者の指導と助言の下で評価結果をまとめる。</p> <p>評価実習終了後(2時間) 学内にて評価実習にて経験した評価の報告会を行う。</p>						
<p>11 学習方法</p> <p>実習</p>						
<p>12 評価方法</p> <p>OSCE、出席状況、実習評価表、課題等の提出物、実習内容、評価の報告会等にて総合的に合否を判定する。</p>						
<p>13 教科書</p> <p style="text-align: center;">参考書 「実習の手引き」</p>						
<p>14 学生への要望</p> <p>詳細は実習の手引きを参照すること。 提出物は遅れないこと。 服装(白衣)・頭髪・爪等身だしなみや言葉遣いに留意すること。</p>						

臨床実習 I

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	3学年	後期	6単位	270時間	必修	実習指導者 3年生担任
<p>8 授業概要</p> <p>学外臨床実習施設において、実習指導者の指導監督の下に見学し、対象者を診療する。その中で対象者の病態を把握するための各種評価を行う。さらに、評価結果を統合し、問題点の整理、予後の推定、目標の設定、プログラムの立案という一連のつながりを理解することが出来るようにする。また、医療従事者としての自覚を高め、評価に対する知識技術だけでなくマナーなどの習得を図る。</p>						
<p>9 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者の監督の下、対象者の病態を把握するための各種評価を行うことが出来る。 ・評価結果を統合し、問題点の整理、予後の推定、目標の設定、プログラムの立案という一連のつながりを理解することが出来る。 ・医療従事者としての自覚を高め、評価に対する知識技術だけでなくマナーなどの習得を図ることが出来る 						
<p>10 授 業 計 画</p> <p>臨床実習開始前(25時間) 学内にてオリエンテーション及びOSCEを行う。</p> <p>臨床実習(9時間×25日=225時間、45時間×5週間=225時間) 各施設において実習指導者がオリエンテーションを行う。 臨床実習施設に勤務している作業療法士の診療と業務を見学する。 指導者の指導と助言の下で臨床参加型実習(作業療法参加型実習)を原則とし作業療法(評価)を行う。 見学や診療で経験する症例を通して能動的に学習を行う。 指導者の指導の下で報告書(症例を含む)を作成する。 臨床実習終了前に施設内のケースカンファレンスにて症例報告を発表する。</p> <p>臨床実習終了後(20時間) 学内にて経験報告会を行い、教員並びに学生の意見をもらう。</p>						
<p>11 学習方法</p> <p>実習</p>						
<p>12 評価方法</p> <p>OSCE、出席状況、実習評価表、課題等の提出物、実習内容、報告等にて総合的に合否を判定する。</p>						
<p>13 教科書</p> <p style="text-align: center;">参考書 「実習の手引き」</p>						
<p>14 学生への要望</p> <p>詳細は実習の手引きを参照すること。 提出物は遅れないこと。 服装(白衣)・頭髪・爪等身だしなみや言葉遣いに留意すること。</p>						

基礎研究活動Ⅱ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門関連分野	3学年	前期	1単位	30時間	必修	作業療法学科教員 (作業療法士)
8 授業概要 基礎研究方法論で学んだ知識を基に、研究の実際場面にて、研究の題目の選定、目的の考え方、方法の手法、結果の解釈、考察論法、結論のまとめ方などと、論文の実際的な書き方、実践的な発表の仕方を教授する。						
9 到達目標 理学療法・作業療法に関わる研究手法が実践できる。 理学療法・作業療法に関わる論文作成と研究発表の手順とその方法が理解でき、実践できる。						
10 授 業 計 画				各時間で学ぶべきこと		
第1回	オリエンテーション・研究課題の明確化・研究関連論文の通読			文献の考察		
第2回	研究課題の明確化・研究題目の決定			研究課題の着眼点		
第3回	研究目的の明確化・研究計画の立案			研究目的の重要性		
第4回	研究方法の試行・予備研究①			実際の研究の予備演習		
第5回	予備研究②			実際の研究の予備演習		
第6回	本研究①			実際の研究の意義・内容		
第7回	本研究②			実際の研究の意義・内容		
第8回	研究データの集積			研究データの取り込み方のポイント		
第9回	研究データの集積解析			研究データの解析・統計処理方法		
第10回	研究論文の作成①			研究論文の構成・書き方のポイント		
第11回	研究論文の作成②			研究論文の構成・書き方のポイント		
第12回	研究発表のためのスライド作成①			研究発表手法の重要点		
第13回	研究発表のためのスライド作成②			研究発表手法のポイント		
第14回	研究発表予演会			研究発表の熟練		
第15回	総まとめ			総復習		
11 学習方法 演習						
12 評価方法 出欠席・論文作成・論文発表からの総合的評価						
13 教科書				参考書		
「リハ研究の進め方・まとめ方」医歯薬出版株式会社 作業療法研究法 第2版 医学書院						
14 学生への要望 研究の実際の中では、研究の意義・本質などに関して授業を通して理解するように努力してください。						

作業療法セミナーⅡ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	4学年	後期	4単位	120時間	必修	作業療法学科教員
8 授業概要						
<p>作業療法国家試験に向けて、作業療法士として基本的な知識・技術について教科にとらわれずに総合的な学習を行うことで知識の整理をはかる。</p>						
9 到達目標						
<p>作業療法士として必要な基本的知識・技術について総合的な学習を行い、知識の整理をはかることができる</p>						
10 授 業 計 画						
<p>模擬試験をもとに、今まで学習した教材の内容を再学習し、各自で学習ノートを作成する。 模擬試験の内容は専門基礎科目100問、専門科目100問とし、計3回程度行う。 1回ごとに分野ごとの正解率、問題の解説などを学生にフィードバックし、学生の学習について指導する。</p> <p>模擬試験の出題範囲: 専門基礎科目及び専門科目で学習した作業療法に必要な基本的な知識・技術 出題形式: マークシートを用いた選択形式 問題数: 1回当たり専門基礎科目100問、専門科目100問の計200問</p> <p>第1回模擬試験 模擬試験の結果及び問題の解説等について教員よりフィードバック 出題内容をもとにして学習内容の振り返り グループワークでインプット・アウトプットを通して理解を深める</p> <p>第2回模擬試験 模擬試験の結果及び問題の解説等について教員よりフィードバック 出題内容をもとにして学習内容の振り返り グループワークでインプット・アウトプットを通して理解を深める</p> <p>第3回模擬試験 模擬試験の結果及び問題の解説等について教員よりフィードバック 出題内容をもとにして学習内容の振り返り グループワークでインプット・アウトプットを通して理解を深める</p>						
11 学習方法						
<p>演習</p>						
12 評価方法						
<p>模擬試験結果を参考とし、出席状況、試験にて判定していく。</p>						
13 教科書						
<p style="text-align: right;">参考書</p> <p>特に指定はないが、教科書・プリントを中心に学習を進める</p>						
14 学生への要望						
<p>復習をしっかり行うこと</p>						

作業療法管理学

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門基礎分野	4学年	前期	2単位	30時間	必修	松本嘉次郎 (作業療法士)
8 授業概要 病院で作業療法士として携わった経験を持つ教員が講義します。						
9 到達目標 保健医療従事者として、必要な管理・マネジメント、保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を理解する。						
10 授 業 計 画						
第1回	管理・マネジメントの概要	各時間で学ぶべきこと 管理・マネジメントとは、作業療法士と管理・マネジメント				
第2回	作業療法管理学とは	養成施設指定規則、管理学の必要性				
第3回	作業療法士の職業倫理	職業倫理とは				
第4回	組織運営とマネジメント	組織とは、医療安全管理とリスクマネジメント				
第5回	作業療法士の職能団体と役割 作業療法士のキャリア	職能団体の説明、役割と必要性。作業療法士のキャリア開発				
第6回	作業療法士の職場管理	ヒトの管理、人材育成、モノの管理、経済性の管理、情報管理				
第7回	作業療法業務のマネジメント	作業療法業務、医療機能とチーム医療、質のマネジメント				
第8回	教育・研究のマネジメント	教育・臨床に必要なマネジメント、研究のマネジメント				
第9回	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度	作業療法士の法律を学習 医師・コメディカル関係の法律を学習				
第10回	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度	医療施設・医療行政に関する基本となる法律を学習				
第11回	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度	社会保障と医療経済 地域保健				
第12回	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度	健康増進高齢者保健				
第13回	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度	障害者福祉施策(障害者手帳含む)及び障害者スポーツに関する施策 (スポーツ基本法やスポーツ基本計画など)				
第14回	疾患別・病期別の作業療法のマネジメント リスクマネジメント	疾患別リスク管理。AED、応急処置など 自己の背景、安全への取り組み(ヒヤリハットや指導者の安全配置義務)について理解し、リスクマネジメントについて学ぶ。 まとめ				
第15回	総括					
11 学習方法 講義						
12 評価方法 定期試験・出欠席状況・授業態度から総合的な評価						
13 教科書			参考書			
作業療法管理学 第3版 医歯薬出版株式会社 配布資料						
14 学生への要望 作業療法についての管理や関連する制度について講義をしていきます。業務遂行において必要な知識になりますので、復習して理解を深めてください。						

臨床実習Ⅱ・Ⅲ

1 科目区分	2 履修学年	3 履修時期	4 単 位	5 時 間	6 必 選 別	7 担当教員
専門分野	4学年	前期	各8単位	各360時間	必修	実習指導者 4年生担任
<p>8 授業概要</p> <p>学外臨床実習施設において、実習指導者の指導監督の下に見学し、対象者を診療する。この実習では対象者を評価し、その結果をもとに基本的な作業療法が行なえるよう実習を行なう。 また、医療従事者としての自覚を高め、知識・技術だけでなくマナーなどの修得をはかる。</p>						
<p>9 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者の監督の下、対象者の病態を把握するための各種評価を行うことが出来る。 ・評価結果を統合し、問題点の整理、予後の推定、目標の設定、プログラムの立案という一連のつながりを理解することが出来る。 ・医療従事者としての自覚を高め、評価に対する知識技術だけでなくマナーなどの習得を図ることが出来る 						
<p>10 授 業 計 画</p> <p>臨床実習開始前(25時間) 学内にてオリエンテーション及びOSCEを行う。</p> <p>臨床実習開始時(各9時間×35日間=315時間、45時間×7週間=315時間) 各施設において実習指導者がオリエンテーションを行う。 臨床実習施設に勤務している作業療法士の診療と業務を見学する。 指導者の指導と助言の下で臨床参加型実習(作業療法参加型実習)を原則とし作業療法(評価・治療)を行う。 見学や診療で経験する症例を通して能動的に学習を行う。</p> <p>臨床実習終了後(20時間) 学内にて経験報告会などを行う。</p>						
<p>11 学習方法</p> <p style="padding-left: 20px;">臨床実習</p>						
<p>12 評価方法</p> <p style="padding-left: 20px;">OSCE、出席状況、実習評価表、課題等の提出物、実習内容、報告会等にて総合的に可否を判定する。</p>						
<p>13 教科書</p> <p style="text-align: right; padding-right: 20px;">参考書 「実習の手引き」</p>						
<p>14 学生への要望</p> <p style="padding-left: 20px;">詳細は実習の手引きを参照すること。 提出物は遅れないこと。 服装(白衣)・頭髪・爪等身だしなみや言葉遣いに留意すること。</p>						

四国医療専門学校 作業療法学科

〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜五番丁 62-1

電話 0877-41-2330

ファックス 0877-41-2332